



Cisco コラボレーション エ ンドポイント ソフトウェア 9

リリースノート

D15373.74

2023 年 3 月

目次

目次	2
マニュアルの変更履歴	14
コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9 の概要	18
シスコのサービス利用条件.....	18
スケジュールされたミーティングへの参加機能に関して許可される商用利用：	18
Webex 認定および Webex 互換ベンダー	19
このソフトウェア バージョンに関する重要な注意と警告	19
コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9 にアップグレードする前の 機器および機能に関する考慮事項	19
CE9.15.3.x は、Room、Board、Desk シリーズの最後のソフトウェアリリース	19
Wi-Fi 接続に関する考慮事項	20
CE9.15.X.x は SX、MX、DX シリーズ用の最終のソフトウェア パイプラインであり Room、 Board、Desk シリーズのサポートは終了の予定	20
CE9.15.0.x 以降では WebRTC コールに RoomOS 10 が必要	21
CE9.15.3.17 以降でファイル名を変更.....	21
CE9.14.6 以降の UCM 14.x リリースをサポートするために追加された COP ファイル.....	21
CE9.15.X.x は CMS 2.8 以上のみをサポート.....	21
CE9.14.3 のタッチパネル用に使用されるリモート通信ポートの今後の変更に関する通知	22
CE9.13.0：廃止された設定はアップグレード時とダウングレード時に引き継がれない	22
CE9.12.3：新規のお客様向けの Webex Edge for Devices および CE9.10.x.....	22
CE9.12.3：Cisco TelePresence SX80 と Cisco Webex Quad Camera を使用する場合に SpeakerTrack が機能しない.....	23
CE9.10.0：SNMP のデフォルト設定	23
CE9.9.0/CE9.8.1 以前 - Webex Room Systems の推奨アップグレードパス	23
Cisco Webex Room Kit Mini 用 CE9.6.0.....	25
CE9.6.1：オーディオコンソール	25
CE9.4.0 - デフォルト値の HTTP + HTTPS が HTTPS に変更される	25
ブリーフィングルームが予期どおりに動作しない	26
CE9 で廃止された機能：Cisco TelePresence Server を使用した MultiStream.....	26
Cisco Webex Room 70 用 CE9.2.0 および Room 70 デュアル.....	26
ソフトウェアアップグレード	27
Web インターフェイスを使用したアップグレード	28
CUCM を使用したアップグレード	28

TMS を使用したアップグレード	28
xAPI を使用したアップグレード	28
カメラ ファームウェア.....	29
カメラ サポート	34
提供を停止したソフトウェアのバージョン	36
ソフトウェアポリシーと延期ポリシー	36
CE9.15.3.x の延期	37
CE9.12.x、9.13.x、9.14.x、9.15.0.x の延期	37
Cisco Room Panorama 70 での音声処理の問題により CE9.14.3 および CE9.14.4 を延期.....	37
CE9.9、CE9.10、CE9.12.3、CE9.13.0 を延期	37
CE9.9.1 までを含む CE9.x の延期	37
バグ CSCvf27027 による CE9.0.1 の提供停止	37
バグ CSCve94476 による CE9.1.1 の提供停止	37
周辺機器のアップグレードに伴う潜在的な問題による CE9.1.2 の提供停止	38
WPA2 (KRACK) の脆弱性による CE9.1.3、CE9.1.4 の提供停止.....	38
CE9.1.3、CE9.1.4、CE9.1.5、CE9.2.1、CE9.2.2、CE9.2.3、CE9.2.4、CE9.3.0 遅延.....	38
CE9.15.17.4 の新機能	39
CE9.15.16.5 の新機能	40
CE9.15.15.4 の新機能	41
CE9.15.13.0 の新機能	42
CE9.15.3.26 の新機能	43
CE9.15.10.8 の新機能	44
CE9.15.8.12 の新機能	45
CE9.15.3.25 の新機能	46
CE9.15.3.22 の新機能	47
CE9.15.3.18 の新機能	48
CE9.15.3.17 の新機能	49
CE9.15.3.17 の新機能の説明.....	50
CMS での挙手	50
背景雑音の除去	50
ホワイトボードでのシェイプのサポート.....	50

コール中の WebApps の共有	50
Webex Edge for Devices のアップデート	51
Room デバイスの直接アドホック予約	51
キーボード言語の完全なサポート	51
既知の問題	52
CE9.15.0.19 の新機能	53
CE9.15.0.13 の新機能	54
CE9.15.0.11 の新機能	55
CE9.15.0.11 の新機能の説明	56
Web UI の更新	56
Web インターフェイスからの Cisco Webex Room Panorama および Room 70 Panorama ディスプレイのアップグレードのサポート	56
Web インターフェイスからダウンロードする際のログが匿名化されるようになりました	56
UI 拡張パネルボタンのカスタムアイコンをアップロードする機能	57
背景雑音の除去 (BabbleLabs)	57
ロックされた CMS 会議へのゲストの参加の許可をサポート	57
タッチ スクリーン アクティビティ用の浮動ツールバー	57
ホワイトボードのダークモード	58
ホワイトボードの概要	58
CUCM コール管理レコード	59
ブロードキャストモード	60
Webex Edge for Devices のアップデート	61
クラウドソフトウェアのアップグレード	61
Webex の最適化されたエクスペリエンス	62
CE9.14.7 の新機能	63
CE9.14.6 の新機能	64
CE9.14.5 の新機能	65

CE9.14.5 の新機能の説明	66
Webex PTZ 4K のソフトウェア サポート.....	66
CE9.14.4 の新機能	68
CE9.14.3 の新機能	69
CE9.14.3 の新機能の説明	70
Cisco Webex Room Navigator のソフトウェアサポート	70
Web UI の視覚的更新.....	70
CMS コールで参加者を重要としてピン留めする.....	70
音楽モード.....	71
Desk Pro のマウスとキーボードのリダイレクト (HID 転送)	71
Cisco Webex Desk Pro および Board 用の手動カメラ制御	71
Touch 10 オンスクリーンボタンの更新.....	72
Web データとホワイトボードのクリーンアップを設定可能.....	73
Wi-Fi 設定 UI の改善.....	73
最近のコール情報リスト	73
Webex Edge for Devices のアップデート	74
Microsoft Teams WebRTC および Cloud Video Interop (CVI) のサポート	74
Webex Edge for Devices を介してログをクラウドにアップロードする	74
クラウドデバイス API : コマンド要求での大きいサイズの本文をサポート	74
SpeakerTrack 表示の制限.....	75
その他.....	75
CE9.14.3 にアップグレードした後、音声出力が大きくなっていることがある	75
CE9.13.3 の新機能	76
CE9.13.2 の新機能	77
CE9.13.1 の新機能	78
CE9.13.0 の新機能	79
CE9.13.0 の新機能の説明	80
コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.13.0.....	80
概要	80
新製品のサポートを追加.....	80
Cisco Webex Room Panorama および Room 70 Panorama.....	80
Webex Edge for Devices のアップデート.....	81
Cisco Webex Control Hub の設定管理のサポート	81
ユーザ検索を使用した Webex パーソナル ミーティング ルームへの簡単な参加.....	81
Webex ミーティングに参加する際のリアルタイム メディア メトリック	81

Cisco Webex Desk Pro のカスタム仮想背景のアップロード	82
仮想背景としての PC 入力の使用	82
Webex Board でのコール中のタッチ転送	82
TRC 6 リモートを使用した Cisco Webex Room USB での Wi-Fi セットアップの改善	82
CMS (2.8) ミーティングへのダイヤル時の Far End Camera Control (遠端カメラ制御) のサポート	82
時間とデータを含むカスタム テキストをルーム デバイスのビデオ ストリームに追加	83
バグ修正	83
CE9.12.5 の新機能.....	84
CE9.12.4 の新機能.....	85
CE9.12.3 の新機能.....	86
CE9.12.3 の新機能の説明	87
コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.12.3.....	87
概要	87
新製品のサポートを追加	87
Cisco Webex Room USB	87
Cisco Webex Desk Pro	87
Cisco Webex Room Kit Mini と Samsung Flip の使用のサポート	88
コール中の一方向ホワイトボードの共有.....	88
すべての場所で注釈を付ける.....	88
Webex 参加ボタン：最近のコールから提案によるパーソナル ミーティング ルーム (PMR) への簡単な参加	88
Webex Edge for Devices での HTTP プロキシのサポート	89
Cisco Webex Desk Pro でのコール中のタッチ転送.....	89
その他の変更	89
プロキシミティの通知の非表示.....	89
スケジュールされたミーティングのタイトルの非表示.....	90
Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の手動ズームが 3 倍から 5 倍に向上.....	90
Web UI の改善と変更	90
バグ修正	90
CE9.10.3 の新機能.....	91
CE9.10.2 の新機能.....	92
CE9.10.1 の新機能.....	93
CE9.10.0 の新機能.....	94

CE9.10.0 の新機能の説明	95
Webex Edge for Devices	95
デバイスの前提条件の Webex Edge	97
Webex 参加ボタン	97
その他の変更	98
新しいデフォルトパスワードポリシー	98
デフォルトの自己署名証明書の有効期限が 5 年から 1 年に変更	98
SNMP のデフォルト設定	98
Codec Plus 用 SpeakerTrack 60 のサポートを追加	98
CE9.9.4 の新機能	99
CE9.9.3 の新機能	100
CE9.9.2 の新機能	101
CE9.9.1 の新機能	102
CE9.9.0 の新機能	103
CE9.9.0 の新機能の説明	104
有線タッチ再ダイレクト	104
Web エンジン (デジタルサイネージ、Web ビュー、Web アプリ)	105
証明書	105
デジタルサイネージ	105
API 駆動型の Web ビュー	105
Web アプリ	106
UI 拡張エディタの更新	106
ホワイトボード機能の追加	107
ホワイトボードや注釈に付箋を作成、編集、移動する	107
新しいペンサイズが利用可能	107
ホワイトボードと注釈のコピーを作成する	107
ネットワーク設定のユーザ インターフェイスの変更	107
TLS 構成の変更	108
外部 URL からカスタム壁紙とブランディングを取得するための API	108
超音波設定の変更	109
CE9.8.3 の新機能	110
CE9.8.2 の新機能	111
CE9.8.1 の新機能	112
CE9.8.0 の新機能	113

CE9.8.0 の新機能の説明	114
Cisco Webex Board オンプレミス展開のサポート	114
Webex からオンプレミス展開への切り替え	114
無限ホワイトボード	116
ホワイトボードを電子メールに格納する	117
Touch 10 のサポート	117
既知の問題.....	117
事前インストールされている認証局 (CA) のリスト	117
HttpClient の GET/DELETE および PATCH 要求のサポート	117
応答の本文とヘッダーの追加されたサポート	118
デバイス UI からの CMS 会議への参加者の追加	118
WebSocket 経由の xAPI : 認証プロトコルヘッダーを使用した認証	119
Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の USB ヘッドセットのサポート	120
Webex デバイスアクティベーションに使用する xCommand	120
Web インターフェイスを介した Webex に対するデバイスアクティベーションのサポート	121
Room Kit Mini を使用した USB 体験の改善	121
CUCM 12.5 SU1 からの製品固有の設定のサポート	122
その他の変更	122
CE9.7.2 の新機能	123
CE9.7.1 の新機能	124
CE9.7.1 の新機能の説明	125
WebSocket 経由の xAPI (XoWS)	125
プライバシーモード : 通話のビデオを無効または有効にする	125
Room 分析 : 周囲雑音レポート	126
Room Kit Mini : USB カメラとして使用されている 1080p ビデオのサポート	126
OSD でのお気に入りの編集 (DX70 および DX80)	126
複数の Sony カメラ (SRG/EVI) の接続のサポート	126
オーディオコンソール : グラフィカルイコライザ	127
CE9.6.4 の新機能	128
CE9.6.3 の新機能	129
CE9.6.2 の新機能	130
CE9.6.1 の新機能	131
CE9.6.1 の新機能の説明	132
Cisco Webex Room Kit Mini のサポート	132
xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT	132

室内制御：サードパーティ製 USB 入力デバイス.....	134
デフォルトの GUI パネルボタンを非表示にする.....	135
Touch 10 からお気に入りを直接編集する.....	136
追加のルームデバイスでの HDCP のサポート.....	136
オーディオコンソールアップデート.....	137
MRA シナリオでの ICE のサポート.....	138
アクティブ コントロール：CMS ミーティングで UI から録音を開始する機能.....	138
その他の変更.....	138
CE9.5.3 の新機能.....	139
CE9.5.2 の新機能.....	140
CE9.5.1 の新機能.....	141
CE9.5.0 の新機能.....	142
CE9.5.0 の新機能の説明.....	143
機能プレビュー：オーディオ コンソール.....	143
Cisco Webex Codec Plus の PresenterTrack サポート.....	143
プレゼンテーションソースの構成.....	144
新しい会議室モード：教室.....	145
キーボードローカリゼーション（韓国語）.....	145
Cisco TelePresence SX80 および SX20 画面ステータスのモニタリング（CEC）.....	145
Web GUI および CLI のウェルカムバナー.....	145
Spark から Webex へのブランド変更.....	145
CE9.4.2 の新機能.....	146
CE9.4.1 の新機能.....	147
CE9.4.0 の新機能.....	148
CE9.4.0 の新機能の説明.....	149
Cisco Webex Room Kit Pro のサポート.....	149
GUI での Spark から Webex への再ブランディング.....	149
GUI でのタイムゾーンと言語の設定の再スタイル.....	149
Cisco Webex Room Series およびレガシー MXP デバイス間でのコールで H.263 を使用したコンテンツ共有のサポート.....	149
Cisco Webex Room シリーズと同時にペアリングされた Cisco 近接クライアントの最大数.....	150
管理設定ロックダウン構成の CUCM プロビジョニング.....	150
Sony SRG-120DH および EVI-120DH のサポート.....	151
DX シリーズにおける GUI での手動逆光補正の有効化.....	152
デフォルトの HTTP モードを HTTP + HTTPS から HTTPS へ変更.....	152

CE9.3.3 の新機能	153
CE9.3.2 の新機能	154
CE9.3.1 の新機能	155
CE9.3.0 の新機能	156
CE9.3.0 の新機能の説明	157
設定とカスタム要素のバックアップ/復元.....	157
スタート ガイド.....	157
複数のルームデバイス間での復元またはプロビジョニング.....	157
TMS プロビジョニング.....	158
UCM カスタマイズプロビジョニング.....	158
チェックサム検証.....	159
その他の情報.....	159
室内制御の更新.....	160
ISDN リンクをサポート.....	161
ワンボタンプッシュ (OBTP) スヌーズ.....	161
SX10 画面ステータスのモニタリング (CEC).....	161
発信前のコールレートの調整.....	161
着信音の選択と着信音の音量の調整.....	161
その他の変更.....	162
延期されたアップグレードの再開.....	162
UI の機密情報を非表示にする.....	162
アクセシビリティ：着信時のスクリーンの点滅.....	162
Cisco Webex DX シリーズでのセルフビューのミラー表示.....	162
CE9.2.6 の新機能	163
CE9.2.5 の新機能	164
CE9.2.4 の新機能	165
CE9.2.3 の新機能	166
CE9.2.2 の新機能	167
CE9.2.1 の新機能	168
CE9.2.1 の新機能の説明	169
エンドポイントの動作をカスタマイズするためのマクロフレームワーク.....	169
室内制御との連携を設計する.....	169
サポートされるシステム (マクロ フレームワーク).....	169

Cisco Webex Room 55 の HDCP サポート	170
ブランディングとハーフウェイクのカスタマイズ	170
ハーフウェイク	170
スリープなし	171
サポートされているシステム (ブランディング)	171
ソース構成	172
サポートされるシステム	172
HTTP プロキシのサポート	172
Touch 10 および画面上の UI 機能	173
UI での管理者設定のロックダウン	173
ホワイトボードへのスナップ設定の復元	173
IEEE 802.1x 設定 UI	173
キーボードのローカリゼーション (ロシア語、アラビア語、ヘブライ語)	173
右から左に読む言語のサポート (アラビア語およびヘブライ語)	173
Cisco Webex Quad Camera がある Cisco TelePresence SX80 のサポート	174
xAPI 経由での証明書のアップロード	174
xAPI 経由でのカスタム入力プロンプトのトリガー	174
Cisco Webex Room Kit、Room Kit Plus、および Room 55 のための USB からシリアルポートへのサポート	174
CMS ホスト会議 (アクティブコントロール) でのリモート参加者のミュート	175
室内制御	175
ウィジェット	175
プレビュー モード	176
ブリーフィングルーム	176
その他の機能や変更	177
Intelligent Proximity インジケータと UI トグルの除去	177
UI からのデバイスアクティベーションの変更による一部のシステム設定のリセット	177
CE9.1.6 の新機能	178
CE9.1.5 の新機能	179
CE9.1.4 の新機能	180
CE9.1.4 の新機能の説明	181
Cisco Webex Room Kit Plus + Precision 60 のサポート	181
CE9.1.3 の新機能	182
CE9.1.2 の新機能	183
CE9.1.1 の新機能	184

CE9.1.1 の新機能の説明	185
Cisco Webex Room Kit Plus のサポート	185
Cisco Webex Quad Camera スピーカーのトラッキング	185
Cisco Webex Room Kit と同等の機能 (Feature parity)	185
CMS ベースのミーティング向けの新しいデュアル スクリーン エクスペリエンス	186
アクティブ コントロール	186
サポートされるビデオ システム	186
新しいウェイクアップ エクスペリエンス	187
Cisco Webex DX70 および DX80 の Bluetooth ヘッドセットのサポート	188
Bluetooth 制御	188
Wi-Fi: WPA-EAP	189
信頼できる CA 証明書	189
マイナー変更	190
Room 分析の追加	190
Cisco Webex DX70 および DX80 のセカンダリネットワークポートを無効にする構成	190
CE9.0.1 の新機能	191
CE9.0.1 の新機能の説明	192
Cisco Webex Room Kit のサポート	192
スピーカートラッキング	192
最適な全体表示	192
Wi-Fi 対応	193
Room 分析	193
COP ファイルを使用したファームウェアアップグレードのサポート	193
更新された [アクティビティサークル] ユーザーインターフェイス	194
Touch 10 の更新	194
新しい電話帳と共有トレイ UI	195
Touch 10 および Cisco Webex DX70/DX80 のキーボードの改善	195
Touch 10 でのコール転送	195
モーション検知ウェイクアップ	195
室内制御エディタの改善	195
マイナー変更	195
HTTPS クライアント証明書のサポート	195
新しいブリーフィングルーム制御	196
Web インターフェイスのローカル連絡先からお気に入りへの名称変更	196
追加された言語: ポルトガル語	196
CE9 の未解決および解決済みの不具合	197
バグ検索ツールの使用	197

既知の制限事項とアドバイザリ	204
制限事項とアドバイザリ	204
相互運用性	217
H.323 ゲートキーパー/トラバーサル サーバ	217
SIP レジストラ/プロキシ	217
ゲートウェイの相互運用性	217
MCU の相互運用性	218
ストリーミング サーバ	218
管理サーバ	218
エンドポイントの相互運用性	219
カメラ	221
最適な相互運用性を実現するためのCisco の推奨画面	222
xAPI の変更	223
Cisco TelePresence systems のハードウェア依存	224
概要	224
周辺機器のハードウェアの依存関係	228
Cisco TelePresence Touch 10 用の新しいハードウェア リビジョン	228
Cisco Webex Room Navigator の新しいハードウェアリビジョン	228
Quad Camera の新しいハードウェアリビジョン	229
Webex PTZ 4K の新しいハードウェアリビジョン	229
Precision 60 の新しいハードウェア改定	230
最新のソフトウェア ファイル名	231
ソフトウェア整合性の確認	233

マニュアルの変更履歴

改定	日付	説明
74	2023年3月20日	CE9.15.17.4.54a79c58dda のリリース、マイナーリリース
73	2023年1月11日	CE9.15.16.5.5d66bd5601f のリリース、マイナーリリース
72	2022年11月1日	CE9.15.15.4.52ab5233aad のリリース、マイナーリリース
71	2022年5月18日	CE9.15.13.0.73ffba3d9ac のリリース、マイナーリリース
70	2022年2月17日	CE9.15.3.26.19885f27907 のリリース、マイナーリリース
69	2022年2月3日	CE9.15.10.8.2be98ff5c6e のリリース、マイナーリリース
68	2021年12月17日	CE9.15.3.25.4041d7b04a3 のリリース、マイナーリリース
67	2021年11月18日	CE9.15.0.x の遅延ポリシーの追加
66	2021年11月2日	CE9.15.8.12.7273b3b3e84 のリリース、マイナーリリース
65	2021年9月28日	CE9.14.x の遅延ポリシーの追加 Quad Camera 73-100746-3 のハードウェアリビジョンテーブルを最小バージョン CE9.15.3.18 および CE9.14.7 に更新 Webex Control Hub 構成管理セクションに、プロビジョニングシステムからカスタマイズが無視されるという説明を記載
64	2021年9月10日	CE9.15.6.step-upgrade.a242d057b6f のリリース、ステップアップグレードリリース 重要な注意事項と考慮事項のセクションの更新
63	2021年8月24日	Quad Camera テーブルに新しいハードウェア リビジョン 73-100746-3 を追加 マイナー修正
62	2021年6月24日	CE9.15.3.22.8ebef840687 のリリース、マイナーリリース
61	2021年5月27日	CE9.15.3.18.fd1dd3b86f9 のリリース、マイナーリリース
60	2021年5月19日	CE9.15.0.19.d9646d0372b のリリース、マイナーリリース CE9.14.7.6e216653a72 のリリース、マイナーリリース
59	2021年4月29日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.15.3.17 のリリース。5cbbf23b617
58	2021年4月14日	CE9.15.0.13.82cc7e2121d マイナー リリースのリリース CE9.14.6.cf0c4696851 マイナー リリースのリリース
57	2021年3月2日	CE9.13.3.a603f7b9cdb (マイナー リリース) のリリース
56	2021年2月4日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.15.0.11.aec227943ed のリリース
55	2020年12月21日	CE9.14.5.42d28d6c074 (マイナー リリース) のリリース

改定	日付	説明
54	2020年12月9日	CE9.12.5.088b83c72cb (マイナー リリース) のリリース
53	2020年11月8日	CE9.13.2.55d152fe9b0 (マイナー リリース) のリリース
52	2020年11月12日	CE9.14.4.b72ef4b0a42 (マイナー リリース) のリリース
51	2020年10月15日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.14.3.ecb8718a646 のリリース
50	2020年9月8日	CE9.13.1.98dd07c4099 (マイナー リリース) のリリース CE9.12.4.4aa097e0eb6 (マイナー リリース) のリリース
49	2020年8月21日	「重要な注意事項と警告」の下に、Wi-Fiに関する考慮事項のセクションを追加
48	2020年7月1日	CE9.10.3.e081e4e9936 (マイナー リリース) のリリース
47	2020年6月24日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.13.0.990355df13a のリリース
46	2020年5月11日	CE9.10.2.5adf141d8bb (マイナー リリース) のリリース
45	2020年4月30日	CE9.9.4.36b2d4ba8d6 (マイナー リリース) のリリース
44	2020年4月28日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.12.3.140cd8212ba のリリース
43	2020年3月26日	CE9.10.1.1362f527e0f (マイナー リリース) のリリース
54	2020年2月20日	CE9.9.3.950ff1628bb (マイナー リリース) のリリース
41	2020年1月22日	CVE-2020-3143 によるソフトウェアの延期 マイナー修正
40	2020年1月9日	Webex Edgeでのデバイスの前提条件のマイナーな修正 互換性表の更新
39	2020年1月8日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.10.0.50f588d087 CE9.9.2.f2110f7eda7 (マイナー リリース) のリリース CE9.8.3.0a0afcf64cb (マイナー リリース) のリリース
38	2019年12月6日	CE9.8.2.8f7c71a6a75 (マイナー リリース) のリリース CE9.9.1.47f2e107480 (マイナー リリース) のリリース
37	2019年10月22日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.9.0.46f7ea38fda のリリース
36	2019年9月5日	CE9.8.1.0f71ac008c3 (マイナー リリース) のリリース
35	2019年7月3日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.8.0.be9359915d0 のリリース
34	2019年6月5日	CE9.6.4.ce8365c8325 (マイナー リリース) のリリース
33	2019年5月29日	CE9.7.2.3f94b3cda3f (マイナー リリース) のリリース

改定	日付	説明
32	2019年4月25日	Android から CE9.7.1。DX70 および DX80 用30bff6140aa
31	2019年4月15日	「OSD でのお気に入りの編集」に関するマイナーな修正
30	2019年4月3日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.7.1. のリリース 30bff6140aa のリリース CE9.6.3.28ab720ff52 (マイナー リリース) のリリース CE9.5.3.168d55f2cde (マイナー リリース) のリリース
29	2019年2月11日	CE9.6.2.5672d8aee2f (マイナー リリース) のリリース
28	2019年1月11日	リリースに含まれるカメラソフトウェアに関するマイナーな修正と、 p60 camera の新しいハードウェアリビジョンを特定する方法に関する 情報が更新されました。
27	2019年1月7日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.6.1.4516ae5aaa1 のリリース
26	2018年11月29日	CE9.5.2.8fcb81fa38f (マイナー リリース) のリリース
25	2018年11月7日	CE9.5.1.be5deaf82e6 (マイナー リリース) および CE9.4.2.870837998d8 (マイナー リリース) のリリース
24	2018年9月24日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.5.0.fb56c25334b のリリース
23	2018年9月10日	CE9.3.3.655fc73f140 (マイナー リリース) 、および DX70 と DX80 向けの Android から CE9.4.1.6ae80e1f2ee の変換のリリース
22	2018年8月21日	CE9.4.1.6ae80e1f2ee (マイナー リリース) のリリース
21	2018年6月28日	マイナー修正
20	2019年6月27日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.4.0.62bc0aa4505 のリリース
19	2018年6月8日	CE9.2.6.7fa942b (マイナー リリース) のリリース
18	2018年6月5日	CE9.3.2.748b9742af6 (マイナー リリース) のリリース
17	2018年5月24日	DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.6.50b2793 への変換ソフ トウェアのリリース
16	2018年5月4日	CE9.1.6.50b2793、CE9.2.5.9c6d387 および CE9.3.1.61bfa3834f2 (マイナー リリース) のリリース
15	2018年4月11日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.3.0.7394032fb9c のリリース
14	2018年2月28日	CE9.2.4.4d375bc (マイナー リリース) のリリース
13	2018年1月17日	CE9.2.3.3ba381b (マイナー リリース) のリリース
12	2017年12月21日	CE9.2.2.f7269d5 (マイナー リリース) のリリース

改定	日付	説明
11	2017年12月14日	DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.5.d1c67fb への変換ソフトウェアのリリース
10	2017年11月24日	CE9.1.5.d1c67fb (マイナー リリース) のリリース
09	2017年11月21日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.2.1.360d0bf のリリース
08	2017年10月12日	DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.4.5f64050 への変換ソフトウェアのリリース
07	2017年9月11日	CE9.1.4.3ae3106 にほかの機能説明の追加
06	2017年9月5日	CE9.1.4.3ae3106 (マイナー リリース) のリリース
05	2017年8月14日	CMS デュアル スクリーン エクスペリエンスに必要な CUCM および VCS の最小ソフトウェアのバージョンを更新。他の小規模な修正を含む
04	2017年7月19日	CE9.1.3.75ff735 (バグ修正を含むマイナー リリース) のリリース
03	2017年6月22日	CE9.1.2.454d186 (バグ修正を含むマイナー リリース) のリリース
02	2017年6月21日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.1.1.9675283 のリリース
01	2017年4月10日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.0.1.4c1e2ba のリリース

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9 の概要

このリリースノートでは、Cisco Webex Room Panorama、Cisco Webex Room Kit Mini、Room USB、Room Kit、Room Kit Plus、Room Kit Pro、Room 55、Room 70、Room 70 Dual、Board 55/55S、Board 70/70S、Board 85S、Cisco TelePresence MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800、MX800 Dual、SX10、SX20、SX80、Cisco Webex Desk Pro、DX80 および DX70 のコラボレーション エンドポイント ソフトウェア バージョン 9 に組み込まれている機能について説明します。コラボレーション エンドポイントソフトウェアは、前述のエンドポイントでのみサポートされます。

Collaboration Endpoint Software バージョン 9 は、<http://www.cisco.com> からダウンロードできます。

シスコのサービス利用条件

シスコのソフトウェアおよびクラウド サービスの利用には、以下の[利用規約](#)が適用されます。Cisco API の利用には、[Cisco Webex デベロッパー サービス利用条件](#)が適用されます。

スケジュールされたミーティングへの参加機能に関して許可される商用利用：

加えて、次のユースケースでは、商用利用について個別の許可が必要です。ワンボタン機能のような方法による、スケジュールされたミーティングへの参加機能の提供。これには、この機能の提供を目的とした、外部ソースからのカレンダー データでデバイスを更新する API の利用が含まれます。たとえば、「xCommand Bookings Put」や、「bookingsputxml」などの従来のプライベート API が該当します。また、同じ機能を実現するためにそれ以外の API を使用する場合も、商用利用の許可が必要になります。

スケジュールされたミーティングへの参加機能を提供する場合は、後述の許可されている商用利用の条件に従うか、非営利の利用とする必要があります。非営利の利用とは、直接か間接かを問わず、収入を生むサービスまたは製品の一部としての API の使用、またはそれを促進するための API の使用を伴うアクティビティとしてではなく、社内の事業運営としてのみ利用するものと定義されます。

非営利での利用に該当しない、スケジュールされたミーティングへの参加機能を提供するための利用には、シスコによる個別の許可が必要です。

シスコは、API を利用するためのライセンスを失効させる権利を有します。シスコは、許可されていない商用目的での利用であるか、または Webex デベロッパー サービス利用条件に違反しているかについて、独自の裁量により判断するものとします。

自社の API 利用目的が許可の範囲内であるかどうかご質問がある場合、または許可の取得について問い合わせる場合は、devsupport@webex.com まで連絡してください。

Webex 認定および Webex 互換ベンダー

Webex 認定および Webex 互換ベンダーの一覧については、次のサイトを参照してください。

<https://cs.co/certifiedvendors>

このソフトウェア バージョンに関する重要な注意と警告

重要な点として、TC ソフトウェアから コラボレーション エンドポイント ソフトウェアにアップグレードする前に、現在の環境が変更内容をサポートすることを確認してください。アップグレードする前に、リリースノートを十分にお読みになることをお勧めします。

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9 にアップグレードする前の機器および機能に関する考慮事項

古いバージョンから CE9 にアップグレードする前に、以下の手順を実行します。

- これまでに CE ソフトウェアをご使用でない場合は、アップグレード前に CE8 リリースノートのアップグレードの考慮事項を参照してください。
- アップグレード前に、Cisco TelePresence Server で MultiStream を使用していないことを確認します。この機能は CE9 で廃止されたので、デュアル スクリーン エクスペリエンスには CMS を使用してください。
- Touch 10 は、CE8 と CE9 とで機能に違いがあります。Touch 10 で利用できない機能の大半は、コーデックの Web インターフェイスから設定できます。詳細については、「CE9.0.1 の新機能の説明」の「Touch 10 の更新」セクションにある、機能差の一覧を参照してください。
- ブリーフィングルーム モードを使用している場合は、「ブリーフィングルーム」の既知の制限のセクションを参照してください。
- TMS 経由で Cisco Webex ルーム デバイスをアップグレードするには、COP ファイルを使用する必要があります。

アップグレード パスとダウングレード パス

- TC7.3.6 以降または CE8.x から CE9 への直接アップグレードがサポートされています。
- Cisco Webex Room シリーズは CE9 以降でサポートされます。このドキュメントに後述されているハードウェア依存関係のセクションを参照してください。CE9.9.0/9.8.1 からのアップグレードでは、ステップアップグレードソフトウェアを使用して 2 段階のアップグレード方法を実行することをお勧めします。詳細については、「Webex Room システムの推奨アップグレードパス」セクションを参照してください。
- CE9 から CE8.x または TC7.3.6 以降に直接ダウングレードできます。

CE9.15.3.x は、Room、Board、Desk シリーズの最後のソフトウェアリリース

Room、Board、Desk シリーズの場合、これらのデバイスは 2021 年のリリース後に RoomOS 10 にアップグレードする必要があることを発表しました。CE9.15.3.x は、これらのデバイスの最後のリリースです。詳細については、以下の CE9.15.X.x の最終的なソフトウェアパイプラインのセクションを参照してください。

Wi-Fi 接続に関する考慮事項

法令遵守のため、5725 MHz ~ 5875 MHz の範囲内で製品を正常に動作させるためには、アクセスポイントで 802.11d を有効にする必要があります。Wi-Fi 接続は柔軟なオプションとして利用できる一方で、高いパフォーマンスを得るためにはイーサネット接続が常に優先されます。

CE9.15.X.x は SX、MX、DX シリーズ用の最終のソフトウェア パイプラインであり Room、Board、Desk シリーズのサポートは終了の予定

今後も主にバグ修正を含む CE9.15.X.x 用のソフトウェアを継続してリリースしますが、軽微な機能や改善を含む場合もあります。CE9.14.x では、これ以上のバグ修正は追加されません。CE9.15.0.11 以上では、ソフトウェアバージョンに追加の番号が表示されます (CE9.15.0.11 など)。これは Cisco.com への CE9.15.X.x リリースのメンテナンス番号です。CE9.15.X.x は、SX、MX、DX シリーズの製品ライフサイクルを通じてこれらのシリーズを引き続きサポートします。

- CE9.15.X.x = メジャー.メジャー.マイナー.メンテナンス
- CE9.16 のリリースは予定されていません
- バージョン番号の増分は、リリースごとに異なります。
 - たとえば、CE9.15.0.11 以降のメンテナンスリリースは CE9.15.0.19 である可能性があります。
 - たとえば、CE9.15.0.11 の次のマイナー リリースは CE9.15.3.14 である可能性があります。

CE9.15.X.x に残るデバイス :

Cisco TelePresence SX シリーズ

- SX10、SX20、SX80

Cisco TelePresence DX シリーズ

- DX70、DX80

Cisco TelePresence MX シリーズ

- MX700/800、MX700/800 Dual、MX200 G2、MX300 G2

今後のソフトウェアサポートに関する Room、Board、および Desk シリーズの重要な注意事項

CE9.15.X.x はしばらくの間、Room、Board、Desk シリーズをサポートしますが、2021 年頃にリリースされる予定の RoomOS 10 のリリースから数か月後には、これらの製品用の CE9.15.X.x のリリースを停止する予定です。これらの製品に利用可能な CE9.15.X.x ソフトウェアパッケージが Cisco.com から削除された時点で、最終的にはデバイスを RoomOS 10 にアップグレードする必要があります。早めの注意点ですので、それに合わせて計画を立ててください。

今後の RoomOS 10 リリースに向けての重要な注意事項 (変更の可能性あり) :

- RoomOS 10 は ISDN リンクをサポートしなくなります。
- RoomOS 10 は新しいデバイスポートフォリオ (現在は Room、Board、および Desk シリーズ) のみをサポートします。

RoomOS 10 をサポートするデバイス :

Cisco Webex Board シリーズ

- Webex Board 55、55S、70、70S、85S

Cisco Webex Room シリーズ

- Webex Room 55、55 Dual、70 Single、70 Dual、70 G2 Single、70 G2 Dual、Webex Room Kit、Webex Room Kit Mini、Webex Room Kit Plus、Webex Room Kit Pro

Cisco Webex Desk シリーズ

- Webex Desk Pro、Webex Room USB、Webex on Flip

CE9.15.0.x 以降では WebRTC コールに RoomOS 10 が必要

WebRTC コールについては、サポートの継続のためには CE9.15.0.x 以降で RoomOS 10 が必要になります。9.15.0.x 以降では 9.x リリースはサポートされません。

次に例を示します。

CE9.15.0.x は WebRTC でサポートされます

CE9.15.3.17 以降は WebRTC でサポートされません

CE9.15.3.17 以降でファイル名を変更

CE9.15.3.17 以降では、CE9.15.X.x リリースのファイル名が短くなります。これにより、管理者が今後の各ソフトウェア ビルドのリリースを特定しやすくなり、CUCM の電話機のロード フィールドの 32 文字の制限に達しにくくなります。この変更は CE9.14.x には適用されません

CE9.14.6 以降の UCM 14.x リリースをサポートするために追加された COP ファイル

CE9.14.6 以降では、拡張子「.sgn」ではなく、名前に「.sha512」の拡張子が付いた COP ファイルがあります。これは、CE9.15.X.x と CE9.14.7 の両方のリリースに適用されます。

例 : cmterm-ce99_15_17_4.k3.cop.sha512。

CE9.15.X.x は CMS 2.8 以上のみをサポート

CE9.15.X.x は CMS 2.8 以上のみをサポートします。API の更新により、CMS のバージョンが 2.7 以下である場合、会議参加者リストは期待通り動作しません。

CE9.14.3 のタッチパネル用に使用されるリモート通信ポートの今後の変更に関する通知

現在、タッチパネルでは、持続的なリモート ペアリング通信にポート 4051 を使用しています。このポートは CE9.14.x で廃止される予定で、新しいポートは 4062 になります。ファイアウォールまたは同様のデバイスで、コーデックとタッチパネルの間で 4051 を明示的に開いている場合は、ペアリングを維持するために、新しいポート 4062 を開く必要があります。アップグレード後にタッチパネルとコーデックの間でこのポートがブロックされている場合、タッチパネルはコーデックに接続できません。それ以外の場合は、変更は透過的なものであり、処置は必要ありません。

CE9.13.0 : 廃止された設定はアップグレード時とダウングレード時に引き継がれない

従来は、アップグレード時とダウングレード時に、存在しなくなった設定の設定エントリが保持されていました。これには、その設定が存在していた以前のソフトウェアにダウングレードする際に、設定エントリが保持されるという利点がありました。

CE9.13.0 以降にアップグレードすると、現行バージョンに存在しない、廃止された設定エントリは削除されます。

たとえば、X.x.x から CE9.13.x にアップグレードする場合、CE9.13.x に存在しない設定はすべて、設定データベースから削除されます。X.x.x にダウングレードする場合は、それらの設定は該当するバージョンのデフォルト値にリセットされます。

注：（該当するバージョンをサポートしているデバイスで）CE9.13.x から CE8.1.x または TC7.3.x にダウングレードすると、両方のバージョンに設定が存在する場合でも、プロビジョニングモードの設定によってデフォルト値にリセットされます。回避策は、ダウングレード後にプロビジョニングモードを手動で設定することです。

この変更の理由は、整合性を保つことであり、リグレッションの問題が続かないようにするためです。

CE9.12.3 : 新規のお客様向けの Webex Edge for Devices および CE9.10.x

CE9.10.x のバグにより、Webex Edge for Devices を使用してオンプレミスのデバイスを登録すると、2020 年 5 月以降に最近作成された組織で動作が停止します。CE9.10.x を実行しているデバイスをリンクしようとするとうまく失敗します。

CE9.10.x 上ですでに Webex Edge for Devices を使用しているユーザは、引き続き使用できます。また、CE9.10.x に新しいデバイスを登録することもできます。

新規のお客様の場合、Cisco Webex Edge for Devices の使用でサポートされる最小ソフトウェアバージョンは CE9.12.3 です。

CE9.12.3 : Cisco TelePresence SX80 と Cisco Webex Quad Camera を使用する場合に SpeakerTrack が機能しない

Cisco TelePresence SX80 と Cisco Webex Quad Camera を組み合わせて使用すると、バグのため、CE9.12.3 で SpeakerTrack 機能が失われます。この問題は、SX80 と Quad Camera の組み合わせにのみ影響します。解決策として、CE9.12.4 で修正プログラムがリリースされるまで、以前のバージョンのソフトウェアを使用してください。

CE9.10.0 : SNMP のデフォルト設定

CE9.10.0 (工場出荷時リセット状態) のデバイスのデフォルト SNMP 設定が変更され、SNMP がデフォルトでオフになり、デフォルトの SNMP コミュニティ名が空白になります。すでに SNMP 構成を持つ下位バージョンからアップグレードした場合、これらの設定は維持されます。CE9.10.0 以降の実行中にデバイスが工場出荷時にリセットされた後は、新しいデフォルト設定が有効になることを確認してください。

CE9.9.0/CE9.8.1 以前 - Webex Room Systems の推奨アップグレードパス

CE9.9.0/9.8.1 以前からのアップグレードでは、ステップアップグレードソフトウェアを使用することをお勧めします。

注：ステップアップグレードソフトウェアは、あるソフトウェアビルドから別のソフトウェアビルドに移行するためにのみ使用できます。

ステップアップグレード方法では、次の問題に対処します。

- COP ファイルを使用して Web インターフェイス経由で Cisco Webex Room デバイスをアップグレードしようとしているときに、ソフトウェアのアップロードの制限が 1 GB に設定されていることを警告するファイル サイズ制限が表示されることがあります。
- Web インターフェイス経由で CE9.7.x 以前から CE9.12.x にアップグレードすると、「インストールに失敗しました：インストールに失敗しました」というエラーが発生する場合があります。

ステップアップグレードソフトウェアの各パッケージは、「s5xxxxce9.15.6-step-upgrade.pkg」の形式になります (例：s53200ce9.15.6-step-upgrade.pkg)。

CUCM または Web インターフェイス以外の他の方法を使用したアップグレードは影響を受けません。ファイルサイズ制限は、Web インターフェイスを介して cop.sgn ファイルを使用してアップグレードする場合に、新しい Cisco Webex Room Device ポートフォリオにのみ影響します。

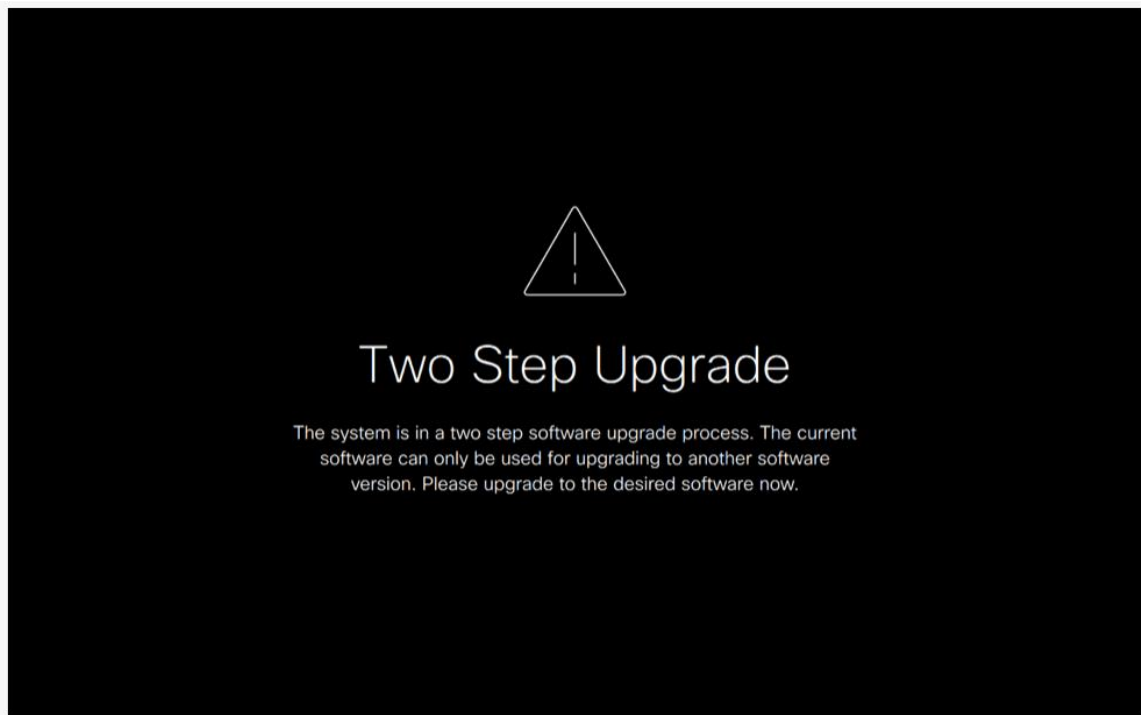
Web サーバーを使用するには、アップグレードしようとしているデバイスから到達可能な Web サーバーに、利用可能な最新のソフトウェアパッケージをアップロードします。xAPI CLI から次のコマンドを入力します。

xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: https://url/upgrade_file_name.cop.sgn

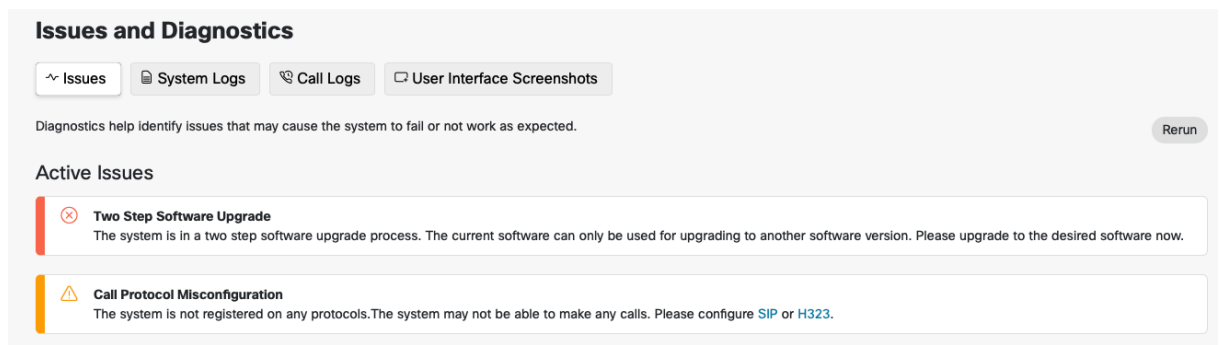
デバイスは Web サーバからパッケージをダウンロードし、自動的にアップグレードします。アップグレードするデバイスが多い場合は、ステップアップグレードが不要なので、この方法をお勧めします。

ステップアップグレード手順：

1. ステップアップグレードソフトウェア「CE9.15.6」と、Webex Room Series デバイス用に cisco.com からアップグレードする必要なバージョンの両方をダウンロードします。
2. [メンテナンス (Maintenance)] -> [ソフトウェアアップグレード (Software Upgrade)] に移動して、以前にダウンロードしたステップアップグレードのソフトウェアパッケージをアップロードします。
3. システムが再起動すると、次のメッセージが画面に表示されます。「システムは 2 段階のソフトウェアアップグレードプロセスに入っています。(The system is in a two step software upgrade process.) 現在のソフトウェアは、別のソフトウェアバージョンへのアップグレードにのみ使用できます。(The current software can only be used for upgrading to another software version.) 目的のソフトウェアに今すぐアップグレードしてください。(Please upgrade to the desired software now.) 」



注：これは、接続されているタッチパネルのメッセージだけでなく、Web インターフェイスの診断警告としても表示されます。



4. [メンテナンス (Maintenance)] -> [ソフトウェアアップグレード (Software Upgrade)] に移動して、以前にダウンロードした希望のソフトウェアパッケージをアップロードします。アップグレードが完了すると、デバイスが再起動します。
5. ステップアップグレードが完了します。

Cisco Webex Room Kit Mini 用 CE9.6.0

Cisco Webex Room Kit Mini は CE9.6.0 以降でサポートされ、最初はこのソフトウェアのバージョンが同梱されています。CE9.6.0 は、これらのシステムのためにのみリリースされており、Cisco.com では公表されていません。Cisco.com で入手可能な最新バージョンのソフトウェアを使用することをお勧めします。

CE9.6.1 : オーディオコンソール

CE 9.5.x でオーディオコンソールを使用している場合は、CE 9.5.x から CE 9.6.1 以降にアップグレードすると、オーディオコンソール設定が消去されることに注意してください。アップグレードする前にオーディオコンソールの設定をメモしておきます。CE9.6.1 以降では、CE9.5.x からのオーディオコンソールバックアップを復元することはできません。セットアップは、1 つのデバイス上で手動で復元する必要があり、その後バックアップして他のデバイスに配布することができます。CE9.5.x でオーディオコンソールを使用していない場合は、この警告を無視できます。オーディオコンソールは、CE9.5.0 で機能プレビューとして導入され、CE9.6.1 から完全にサポートされていることに注意してください。

サポートされているデバイス : Cisco Webex Room Kit Pro、Cisco TelePresence SX80、Cisco TelePresence MX700、MX800(D)、Cisco Webex Room 70G2

CE9.4.0 - デフォルト値の HTTP + HTTPS が HTTPS に変更される

NetworkServices HTTP モードのデフォルト値 CE9.4.0 が HTTP+HTTPS から変更されます。この変更によって、デフォルト構成でのルーム デバイスのセキュリティを強化します。以前のソフトウェアのバージョンからのアップグレードはデフォルト値を自動的に変更されず、現行の HTTP 実装の破損を回避するために HTTP + HTTPS が維持されます。この変更は CE9.4.0 以降で実行される新しいシステムか、デバイスが CE9.4.0 上で工場出荷時の設定にリセットされている場合に表示されます。その後、HTTP 要求は HTTPS に自動的にリダイレクトされ、最初の訪問時にデバイスは自己署名証明書を使用しているため、「非セキュアな接続の警告」が表示されます。Web インターフェイスへと進むには、ブラウザで例外を作成する必要があります。これは、これまでに訪問したことがない、異なるブラウザを使ってウェブ インターフェイスにアクセスした場合、またはデバイスが工場出荷時の設定にリセットされている場合を除き、1 回限りの操作となります。

ブリーフィングルームが予期どおりに動作しない

ブリーフィングルームに、CE9.0.x および CE9.1.x で有効にすると機能が予期どおりに動作しなくなるという複数の問題がありました。これらのソフトウェアのバージョンでブリーフィングルームを使用するユーザは、それを無効にするか、CE9.2.1 または最新の利用可能なバージョンにアップグレードすることをお勧めします。ブリーフィングルームはデフォルトでは無効になっており、特別ルームの設定は、Cisco TelePresence SX80、MX700、MX800、および MX800D でのみ有効です。この問題は、CE9.2.1 以降で修正されています。

CE9 で廃止された機能 : Cisco TelePresence Server を使用した MultiStream

TelePresence Server ベースで MultiStream を実装するためのサポートは、CE9 から廃止されます。CMS ベースのミーティング向けの新しいデュアル スクリーン エクスペリエンス (CE9.1.3 以降が必要) に対して集中的な取り組みが行われる予定です。TelePresence Server ベースの MultiStream のサポートが必要な場合は、CE8.3.x のままにすることをお勧めします。

Cisco Webex Room 70 用 CE9.2.0 および Room 70 デュアル

Cisco Webex Room 70 は CE9.2.0 以降でサポートされ、最初はこのソフトウェアのバージョンが同梱されています。CE9.2.0 は、これらのシステムのためにのみリリースされており、Cisco.com では公表されていません。入手可能な最新バージョンのソフトウェアを使用することをお勧めします。

他の制限事項とアドバイザー

このドキュメントの既知の制限のセクションを参照してください。

ソフトウェアアップグレード

デバイスのネイティブの Web インターフェイス、CUCM、TMS を使用するか、デバイスの xAPI を使用してデバイスをアップグレードできます。

開始する前に、正しいプラットフォーム用のソフトウェアをダウンロード済みであることを確認してください。

デバイス	ソフトウェア プラットフォームの識別子 例 : cmterm- s52010 ce<version>.k3.cop.sgn
SX10	s52030
SX20	s52010 s52011 (暗号化なし)
SX80、MX700、MX800、MX800 デュアル	s52020
MX200 G2、MX300 G2	s52010
DX80、DX70	s52040
Room シリーズ、Board シリーズ、Room 55/70	s53200
Room Kit Pro、Room 70 G2、Panorama、Desk シリーズ	s53300

注 :

デバイスをアップグレードするときは、常に .cop ファイルを使用してください。 .pkg ファイルを直接使用することもできますが、**Cisco Webex Room シリーズ以降のデバイス**では、接続された周辺機器用に個別のソフトウェアが用意されています。周辺機器用のソフトウェアは .cop ファイルに含まれています。 .pkg を使用してこれらのデバイスをアップグレードすると、デバイスで周辺機器をアップグレードできず、アップグレード後にソフトウェアの不一致に関するエラー メッセージが表示される可能性があります。これを解決するには、.cop ファイルを使用してソフトウェアを再度アップグレードします。 .cop ファイルは、Cisco Webex Room シリーズ用のみリリースしています。

ステップアップグレードソフトウェア CE9.15.6 を使用する場合は、上記の注意事項は適用されません。

s52010、s52011、s52020、s52030、52040 などのデバイス プラットフォームでは、これらのデバイスの周辺機器用ソフトウェアが .pkg ファイルに含まれているため、このファイルを使用して安全にアップグレードできます。

Web インターフェイスを使用したアップグレード

<https://codeclp/web/software> でデバイスにアクセスします。Web ページの手順に従って、正しいソフトウェア パッケージをアップロードします。アップグレードが開始され、デバイスが新しいソフトウェアで再起動します。

CE9.9.1 または CE9.8.2 より前のソフトウェア バージョンの場合、アップロードするファイルが 1 GB を超えているとファイル サイズに関する警告が表示される可能性があります。この問題が発生した場合は、ステップアップグレードソフトウェアまたは他のいずれかの方法を使用してください。

CUCM を使用したアップグレード

CUCM での cop のインストール プロセスに従って、アップグレードするデバイス プラットフォーム用のソフトウェアが含まれる適切な .cop ファイルをインストールします。

CUCM 管理ページでデバイスのデフォルトのロードに移動し、プラットフォームに正しいファイル名が入力されていることを確認します。s52010、s52011、s52020、s52030、s52040 などのデバイス プラットフォーム（前述のリストを参照）では、ロードのファイル名に拡張子 .pkg が含まれている場合があります。

Cisco Webex Room デバイス s53200 および s53300 については、デバイスで CE9.8.2 以降のソフトウェアを実行している場合、ロード ファイル名に拡張子を含めることはできません。

デバイスで CE9.8.2 より前のソフトウェアを実行している場合で、前述の方法がうまくいかない場合は、ステップアップグレードソフトウェアまたは xAPI を使用する方法でアップグレードしてください。次を参照してください。

TMS を使用したアップグレード

TMS でのソフトウェア アップグレードの手順に従って、ソフトウェアを TMS にアップロードします。

xAPI を使用したアップグレード

前述のいずれの方法も使用できない場合は、既存の HTTP サーバを使用するか、アップグレードするデバイスが接続可能な HTTP サーバを設定することができます。

SSH またはシリアルを使用して xAPI CLI にログインします。次のコマンドを入力してアップグレードを開始します。

```
xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: http(s)://yourhttpserver/path/to/file
```

```
xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: http(s)://yourcucmserver:6970/file
```

```
xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: http(s)://yourtmsserver/public/path/to/file
```

デバイスは、警告を表示することなくソフトウェア パッケージをダウンロードしてアップグレードします。ユーザに対して警告を表示してアップグレードを延期する場合は、コマンドにパラメータ “Forced: False” を追加します。デフォルトは “Forced: True” です。

カメラ ファームウェア

以下の表で、CE ソフトウェアリリースに含まれているカメラソフトウェアの概要を確認できます。

リストに掲載されているのは、新しいカメラ ソフトウェアのみです。このリストに掲載されていない場合、そのカメラ ソフトウェアは以前のリリースと同じままです。

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.15.17.4	Precision 60 55000000	HC9.15.17.4.54a79c58dda	
CE9.15.16.5	Precision 60 55000000	HC9.15.16.5.5d66bd5601f	
CE9.15.15.4	Precision 60 55000000	HC9.15.15.4.52ab5233aad	
CE9.15.13.0	Precision 60 55000000	HC9.15.130.73ffba3d9ac	
CE9.15.3.26	Precision 60 55000000	HC9.15.3.26.19885f27907	
CE9.15.10.8	Precision 60 55000000	HC9.15.10.8.2be98ff5c6e	
CE9.15.8.12	Precision 60 55000000	HC9.15.8.12.7273b3b3e84	
CE9.15.3.25	Precision 60 55000000	HC9.15.3.25.4041d7b04a3	
CE9.15.3.22	Precision 60 55000000	HC9.15.3.22.8ebef840687	
CE9.15.3.18	Precision 60 55000000	HC9.15.3.18.fd1dd3b86f9	
CE9.15.3.17	Precision 60 55000000	HC9.15.3.17.5cbbf23b617	
CE9.15.0.19	Precision 60 55000000	HC9.15.0.19.d9646d0372b	

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.15.0.13	Precision 60 55000000	HC9.15.0.1382cc7e2121d	
CE9.15.0.11	Precision 60 55000000	HC9.15.0.11.aec227943ed	
CE9.14.7	Precision 60 55000000	HC9.14.7.6e216653a72	
CE9.14.6	Precision 60 55000000	HC9.14.6.cf0c4696851	
CE9.14.5	Precision 60 55000000	HC9.14.5.42d28d6c074	
CE9.14.4	Precision 60 55000000	HC9.14.4.b72ef4b0a42	
CE9.14.3	Precision 60 55000000	HC9.14.3.ecb8718a646	
CE9.13.3	Precision 60 55000000	HC.9.13.3.a603f7b9cdb	
CE9.13.2	Precision 60 55000000	HC.9.13.2。 55d152fe9b0	
CE9.13.1	Precision 60 55000000	HC9.13.1.98dd07c4099	
CE9.13.0	Precision 60 55000000	HC9.13.0.990355df13a	
CE9.12.5	Precision 60 55000000	HC9.12.5.088b83c72cb	
CE9.12.4	Precision 60 55000000	HC9.12.4.4aa097e0eb6	
CE9.12.3	Precision 60 55000000	HC9.12.3.140cd8212ba	

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.10.3	Precision 60 55000000	HC9.10.3.e081e4e9936	
CE9.10.2	Precision 60 55000000	HC9.10.2.5adf141d8bb	
CE9.10.1	Precision 60 55000000	HC9.10.0.1362f527e0f	
CE9.10.0	Precision 60 55000000	HC9.10.0.50f5888d087	
CE9.9.4	Precision 60 55000000	HC.9.9.4.36b2d4ba8d6	
CE9.9.3	Precision 60 55000000	HC9.9.3.950ff1628bb	
CE9.9.2	Precision 60 55000000	HC9.9.2.f2110f7eda7	
CE9.9.1	Precision 60 55000000	HC9.9.1.47f2e107480	
CE9.9.0	Precision 60 55000000	HC9.9.0.46f7ea38fda	
CE9.8.3	Precision 60 55000000	HC9.8.3.0a0afc64cb	
CE9.8.2	Precision 60 55000000	HC9.8.1.8f7c71a6a75	
CE9.8.1	Precision 60 55000000	HC9.8.1.0f71ac008c3	
CE9.8.0	Precision 60 55000000	HC9.8.0.be9359915d0	
CE9.7.2	Precision 60 55000000	HC9.7.2.3f94b3cda3f	
CE9.7.1	Precision 60 55000000	HC9.7.1.30bff6140aa	

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.6.4	Precision 60 55000000	HC9.6.4.ce8365c8325	
CE9.6.3	Precision 60 55000000	HC9.6.3.28ab720ff52	
CE9.6.2	Precision 60 55000000	HC9.6.2.5672d8aee2f	
CE9.6.1	Precision 60 55000000	HC9.6.0.4516ae5aaa1	
CE9.5.3	Precision 60 55000000	HC9.5.3.168d55f2cde	
CE9.5.2	Precision 60 55000000	HC9.5.0.8fcb81fa38f	
CE9.5.1	Precision 60 55000000	HC9.5.0.be5deaf82e6	
CE9.5.0	Precision 60 55000000	HC9.5.0.fb56c25334b	
CE9.4.2	Precision 60 55000000	HC9.4.1.870837998d8	
CE9.4.1	Precision 60 55000000	HC9.4.1.6ae80e1f2ee	
CE9.4.0	Precision 60 55000000	HC9.4.0.62bc0aa4505	
CE9.3.3	Precision 60 55000000	HC9.3.3.655fc73f140	
CE9.3.2	Precision 60 55000000	HC9.3.2.748b9742af6	
CE9.3.1	Precision 60 55000000	HC9.3.1.61bfa3834f2	
CE9.3.0	Precision 60 55000000	HC9.3.0.7394032fb9c	

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.2.6	Precision 60 55000000	HC9.2.5.7fa942b	
CE9.2.5	Precision 60 55000000	HC9.2.5.9c6d387	
CE9.2.4	Precision 60 55000000	HC9.2.4.4de75bc	
CE9.2.3	Precision 60 55000000	HC9.2.3.3ba381b	
CE9.2.2	Precision 60 55000000	HC9.2.2.f7269d5	
CE9.2.1	Precision 60 55000000	HC9.2.1.360d0bf	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC17 ID:20040	
CE9.1.6	Precision 60 55000000	HC9.1.6.50b2793	
CE9.1.5	Precision 60 55000000	HC9.1.5.d1c67fb	
CE9.1.4	Precision 60 55000000	HC9.1.4.3ae3106	
CE9.1.3	Precision 60 55000000	HC9.1.3.75ff735	
CE9.1.2	Precision 60 55000000	HC9.1.2.454d186	
CE9.1.1	Cisco Webex Quad Camera 0C000000	CE9.1.1.9675283	既知の制限を参照してください ソフトウェアのバージョンが常

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
			にリリース済みのソフトウェアと同じであると表記される
	Precision 60 55000000	HC9.1.1.9675283	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC15 ID:20038	
CE9.0.1	Precision 60 55000000	HC9.0.1.5c1e2ba	
	PrecisionHD 1080p 12x Precision 12x 5000000 (1-5)	S01718-4.0 FINAL ID:40085	
	PrecisionHD 1080p 2.5x 54000000	S01777-2.2 RC14 ID:20037	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC14 ID:20037	

カメラ サポート

コーデック	カメラ	サポートに関するコメント
Cisco Webex Room Kit Pro	Webex PTZ 4K	CE9.14.5 からのフル サポート
	Precision 60	フル サポート
	Cisco Webex Quad Camera	フル サポート
	SpeakerTrack 60	フル サポート

	ソニー SRG-120DH ソニー EVI-120D	IP のペアリング、およびパン、チルト、ズーム機能がある基本的な使用方法はサポートされています。
Cisco Webex Room Kit Plus	Webex PTZ 4K	CE9.14.5 からのフル サポート
	Precision 60	CE9.1.4 からのフル サポート
	ソニー SRG-120DH ソニー EVI-120DH	IP のペアリング、およびパン、チルト、ズーム機能がある基本的な使用方法はサポートされています。
	Cisco Webex Quad Camera	フル サポート
	SpeakerTrack 60	フルサポート (CE9.10.0 以降)
SX20	PrecisionHD 1080p 2.5x	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 12x	フル サポート
SX80	Cisco Webex Quad Camera	CE9.2.1 からのフル サポート
	Precision 60	フル サポート
	ソニー SRG-120DH ソニー EVI-120DH	IP のペアリング、およびパン、チルト、ズーム機能がある基本的な使用方法はサポートされています。
	SpeakerTrack 60	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 12x	パン、ティルト、ズーム機能がある基本的な使用はサポートされます。 *このカメラのソフトウェアアップグレードは、このコーデックではネイティブにサポートされません。 *デジチェーン接続のカメラは動作する可能性がありますが、テストが不足しているため、SX80 でサポートされていません。

提供を停止したソフトウェアのバージョン

ソフトウェア内で重大な問題が発見された場合、そのソフトウェア バージョンは保留にされます。これは、問題の影響があるソフトウェアのバージョンをユーザがダウンロードしてインストールするのを防止するための措置です。ソフトウェア バージョンが保留にされる前に、交換用ソフトウェアが必ず用意されます。

ソフトウェアポリシーと延期ポリシー

セキュリティ修正後に潜在的な脆弱性のあるソフトウェアを提供しないように、古いバージョンのソフトウェアは、<https://www.cisco.com> のダウンロード セクションから定期的に延期されます。原則として、以前の最新リリースとバージョンをダウンロードできるようになります。古いバージョンのソフトウェアは cisco.com から定期的に削除されます。

例：

CE9.15.0.11 以降

延期プロセスは、前の CE9.15.X.x と同じですが、異なる点は、メジャーバージョンが CE9.15 で、CE9 の最後のメジャーリリースである点です。

現在のリリースと以前のリリースをダウンロード用に提供し、古いリリースは削除されます。新しいバージョンの番号付けに関する詳細については、上記の「CE9.15.X.x」セクションの重要な注意事項を参照してください。

9.15.X.x = メジャー.メジャー.マイナー.メンテナンス

CE9.15.0.11 前

CE9.10.0 および CE9.10.1 がリリースされ、CE9.10.2 が使用可能になった場合、CE9.10.0 は削除される可能性があります。

一般的な規則として、シスコでは、最新のマイナー リリースとその前のマイナー リリースである CE9.10.x と CE9.9.x をサポートします。

9.X.x = メジャー.マイナー.メンテナンス

この場合、CE9.10.2 が出るまで CE9.10.0 と CE9.10.1 が使用可能になります。CE9.9.5 がリリースされるまでは CE9.9.3 および CE9.9.4 にも同じ規則が当てはまり、CE9.9.3 は削除される可能性があります。

サポートされているハードウェアまたは特定の機能の展開がメジャー リリースに依存する場合は、例外が発生します。古いメンテナンス リリースの延期は引き続き適用されます。

CE9.15.3.x の延期

上記のバージョンは、前述の延期ポリシーに基づいて延期されました。これは、Room デバイスがアップグレード用に RoomOS 10 を使用する必要があることを意味しますのでご注意ください。詳細については、「CE9.15.X.x は SX、MX、DX シリーズの最終ソフトウェアパイプラインで、Room、Board および Desk Series へのサポートは終了」セクションを参照してください。

CE9.12.x、9.13.x、9.14.x、9.15.0.x の延期

上記のバージョンは、前述の延期ポリシーに基づいて延期されました。

Cisco Room Panorama 70 での音声処理の問題により CE9.14.3 および CE9.14.4 を延期

コール中の音声処理でデバイスがクラッシュする問題があったため、これらのリリースは延期され、CE9.14.5 に置き換えられました。

CE9.9、CE9.10、CE9.12.3、CE9.13.0 を延期

上記のバージョンは、前述の延期ポリシーに基づいて延期されました。

CE9.9.1 までを含む CE9.x の延期

CE9.9.1 までの CE9.x バージョンは、影響を受けるソフトウェア バージョンで発見された脆弱性により、延期されています。詳細については、提供停止の通知を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf>

バグ CSCvf27027 による CE9.0.1 の提供停止

CE9.0.1 は、ソフトウェアのバグ CSCvf27027 が原因で提供が停止されました。詳細については、提供停止の通知をご参照してください。

https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/cisco_ce901_deferral_notice.pdf

バグ CSCve94476 による CE9.1.1 の提供停止

CE9.1.1 は、Cisco Webex Quad Camera のアップグレードが失敗するソフトウェア バグ (CSCve94476) により、提供が停止されました。この障害は、Cisco Webex コーデックプラスと Cisco Webex Quad Camera がカメラを接続する前に工場出荷時にリセットされた場合に発生します。

<http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/cisco-ce911-deferral-notice.pdf>

周辺機器のアップグレードに伴う潜在的な問題による CE9.1.2 の提供停止

CE9.1.2 を実行している周辺機器のアップグレード時の問題が特定されています。この問題により周辺機器のアップグレードが失敗し、何回かの起動が必要になる場合があります。この問題の修正を含む CE9.1.3 を使用してください。以下のリンクに従って、延期通知を参照してください。

<http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/cisco-ce912-deferral-notice.pdf>

WPA2 (KRACK) の脆弱性による CE9.1.3、CE9.1.4 の提供停止

WPA2 (KRACK) に対してシステムを脆弱にする Wi-Fi をサポートするルームデバイスで問題が特定されています。Wi-Fi をサポートしているデバイスでは、ソフトウェアが遅延しています。以下のリンクに従って、遅延通知を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/CE830-CE831-CE832-CE833-CE913-CE914-deferral-notice.pdf>

CE9.1.3, CE9.1.4, CE9.1.5, CE9.2.1, CE9.2.2, CE9.2.3, CE9.2.4, CE9.3.0 遅延

詳細については、遅延通知を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/CE913-CE914-CE915-CE921-CE922-CE923-CE924-CE930-deferral-notice.pdf>

CE9.15.17.4 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.16.5 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.15.4 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.13.0 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.3.26 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.10.8 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - Room、Board、Desk Series のデバイスは、このリリースには含まれません。最新のソフトウェアを入手するには、これらのデバイスを RoomOS 10 にアップグレードする必要があります。

RoomOS 10 のリリースノートについては、
https://roomos.cisco.com/print/ReleaseNotes/RoomOS_10 を参照してください。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.8.12 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - Room、Board、Desk Series のデバイスは、このリリースには含まれません。最新のソフトウェアを入手するには、これらのデバイスを RoomOS 10 にアップグレードする必要があります。

RoomOS 10 のリリースノートについては、
https://roomos.cisco.com/print/ReleaseNotes/RoomOS_10 を参照してください。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.3.25 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - CE9.15.3.x は、Room、Board および Desk Series デバイスを含む最後のリリースになります。
 - このリリースには、UCM 14 以降の k4.cop.sha512 拡張子を持つファイルが含まれています。

CE9.15.3.22 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - CE9.15.3.x は、Room、Board および Desk Series デバイスを含む最後のリリースになります。

CE9.15.3.18 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - CE9.15.3.x は、Room、Board および Desk Series デバイスを含む最後のリリースになります。


CE9.15.3.17 の新機能

- CMS での挙手
- DX デバイスのノイズ除去のサポート
- コール中の WebApps の共有
- ホワイトボードでのシェイプのサポート
- Webex Edge for Devices のアップデート
 - Room デバイスからの直接アドホック予約
 - キーボード言語の完全なサポート
- バグ修正
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
- CE9.15.3.x は、Room、Board および Desk Series デバイスを含む最後のリリースになります。

CE9.15.3.17 の新機能の説明

CMS での挙手

CE9.15.3.17 では、CMS 3.2 以降での挙手機能がサポートされます。これにより、ユーザは UI 上のボタンを使用して仮想的に手を挙げ、ホストに知らせることができるようになります。挙手は、3 名以上のミーティングでのみ使用できます。

ボタン  を選択すると、アイコンが青になります。ボタンのテキストが [手を下げる] に変わります。手を挙げたという通知が右上に表示されます。

ホストの側から見ると、出席者が手を挙げたという通知が表示されます。





ミーティング中にこの通知が表示されるのは、ホスト、共同ホスト、挙手したユーザのみです。

手を下げるには、[挙手] ボタンを再び選択します。

背景雑音の除去

このリリースでは、DX シリーズ デバイスのノイズ除去のサポートが追加されました。

ホワイトボードでのシェイプのサポート

ホワイトボード機能を備えるデバイスの場合、開いているホワイトボード  に、シェイプを有効にする新しいアイコン  が表示されます。現在サポートされているシェイプは、線、円、省略記号、三角形、四角形、平行四辺形、矢印、曲線です。

シェイプとして認識させるには、1 つの連続したアクションで描画する必要があります。テキストを書く前に、シェイプの認識を無効にする必要があります。

コール中の WebApps の共有

9.15.3.17 で Web エンジンをサポートするデバイスで、コール中に Web ビューをプレゼンテーションとして直接共有できるようになりました。デバイスがインタラククションをサポートしている場合、プレゼンターは、参加者と共有する注釈としてコール中に Web ビューとやり取りできます。

音声を再生するが音量調整ができない WebApp を表示すると、プレゼンターは、プレゼンテーション中に参加者と共有している音声を調整できなくなります。

通話中に Web ビューを選択すると、自動的に共有されます。通話中に Web ビューをプレビューすることはできません。

Webex Edge for Devices のアップデート

2021 年 3 月以降、Cisco Webex は新しい認証局 IdenTrust Commercial Root CA 1 に移行します。この変更により、デバイス ソフトウェアのアップグレードを手動で管理しているお客様は、デバイスが Webex Edge for Devices でサポートされるように、できるだけ早くデバイスを CE 9.14.5 以降 (CE 9.15 を推奨) にアップグレードする必要があります。

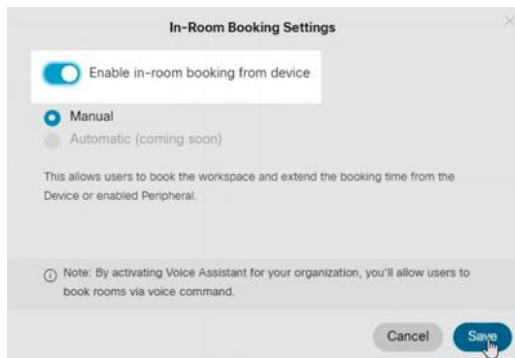
アップグレードに失敗すると、デバイスのクラウド接続が失われ、関連するすべての機能が利用できなくなります。これには、Control Hub の管理、分析、ハイブリッド カレンダーなどの機能が含まれます。オンプレミスの SIP インフラストラクチャに接続して使用する機能は影響を受けません。さらに、サポート対象外のバージョンのデバイスは、Webex Device Connector を使用して Webex クラウドにリンクできなくなります。

以下の機能は、デバイスが Webex Edge for Devices からクラウドにリンクされている場合に有効です。

Room デバイスの直接アドホック予約

Webex Edge にリンクされており Hybrid Calendar サービスを使用している Room デバイスで、Touch 10、Room Navigator、Webex Assistant から直接、アドホック ミーティングを予約できるようになりました。次に予定されているミーティングの時刻までミーティングを延長することもできます。延長すると次に予定されているミーティングの時刻と重なる場合は、延長するためのアイコンがグレー表示になります。

この機能は、Control Hub の管理者ビューから制御できます。



ミーティング スケジューラがハイブリッド カレンダー サービスに対して有効になっておらず、ハイブリッド カレンダー サービスが有効になっている招待先だけが会議室リソースである場合、会議室リソースのカレンダー処理用のメールボックスで、コメント削除が false に設定されていることを確認してください。

キーボード言語の完全なサポート

キーボードが変更され、ローカライズ済みの完全サポートが付随する、最大 26 言語を選択可能なネイティブ キーボードが提供されます。これは、Touch と TRC-6 の両方でサポートされます。

ローカライズされたキーボードを有効にするには、デバイスを優先言語に変更します。キーボード上のスペース バーの横にある地球のキーをクリックすると、いつでもキーボードを英語に変更できます。元に戻すには、再び地球のキーを押すとローカライズされたキーボードに切り替わります。

SX10 または SX20 で TRC-6 を使用する場合、一部の言語はサポートされません。

- 中国語（簡体字および繁体字）
- 日本語
- 韓国語

CUCM に登録済みのデバイスでは、CUCM によって決定される UI に言語設定が存在しない場合があります。

この機能を使用するためには、構成を管理するための Control Hub が必要です。Webex Edge for Devices のアクセスを有効にするには、[デバイス (Devices)] > [設定 (Settings)] > [Webex Edge for Devices] に移動し、[Control Hub による設定の管理を許可 (Allow Control Hub to manage configurations)] をオンに切り替えます。

注：この機能は、オンプレミスのデバイスの場合はデバイスごとに次のコマンドを使用して有効にできます。`xConfiguration UserInterface QtVirtualKeyboard: True` 今後のリリースでは、オンプレミスではこの機能がデフォルトで有効になります。

既知の問題

[CSCvw02938](#) : CUCM に登録済みの SX10 および DX シリーズで、Web インターフェイスでのセルビューの確認またはビデオ スナップショットの撮影で問題が発生します。これは今後のリリースで修正予定です。

CE9.15.0.19 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.15.0.13 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.15.0.11 の新機能

- Web UI の更新
 - Web UI からの Cisco Webex Room Panorama および Room 70 Panorama ディスプレイのアップグレードのサポート
 - Web インターフェイスからダウンロードする際にログを匿名化
 - UI 拡張パネルボタンのカスタムアイコンをアップロードする機能
 - スタンドアロン UI 拡張エディタが Web インターフェイスから削除され、ダウンロードできなくなりました。
- 背景雑音キャンセレーション (BabbleLabs)
- ロックされた CMS 会議へのゲストの参加の許可をサポート
- タッチ スクリーン アクティビティ用の浮動ツールバー
- ホワイトボードのダークモード
- ホワイトボードの概要
- CUCM コール管理レコード
- ブロードキャストモード
- Webex Edge for Devices のアップデート
 - クラウドソフトウェアのアップグレード
 - SX、MX、DX デバイス用の個別のソフトウェアチャンネル
 - ネイティブ Webex Meetings エクスペリエンス
- バグ修正
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.15.0.11 の新機能の説明

Web UI の更新

CE9.14.3 で、Web インターフェイスのスタイリングフレームワークを更新しました。CE9.15.0.11 では、Web インターフェイスのデザインとレイアウトを変更しました。つまり、Web インターフェイスは新しいナビゲーションフロー、[検索] フィールド、新しいアイコンと要素で再構築されました。

新しい [検索] フィールドを使用して、探しているページをすばやく見つけたり、メニューを使用してページに移動したりすることができるようになります。

全体的な機能は変更されていませんが、表示方法と場所が変更されている可能性があります。

Web インターフェイスからの Cisco Webex Room Panorama および Room 70 Panorama ディスプレイのアップグレードのサポート

Cisco Webex Room Firmware と Room 70 Panorama では、デバイスの Web インターフェイスからディスプレイファームウェアをアップグレードできます。これにより、USB インターフェイスを使用してディスプレイをアップグレードする必要がなくなります。サポートされる製品のディスプレイファームウェアは Cisco.com で確認できます。Cisco Webex Room Panorama の Web UI にあるアップグレードページの指示に従います。

Web インターフェイスからダウンロードする際のログが匿名化されるようになりました

Web インターフェイスからログをダウンロードする場合は、ドロップダウンメニューを使用してログを匿名化することができます。個人を特定できる情報 (PII) または他の機密情報は、ログの「プライバシー保護のために削除されました」というメモに置き換えられます。

シスコのサポートケースに匿名化されたログを提供すると、トラブルシュートにかかる時間が長くなる場合があります。これらのログには詳細が含まれているので完全なログを提供することを推奨します。

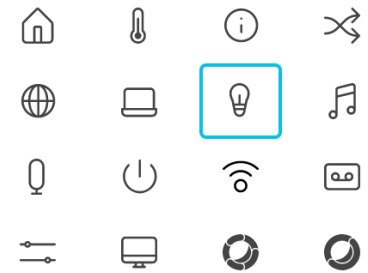
UI 拡張パネルボタンのカスタムアイコンをアップロードする機能

UI 拡張エディタで、カスタムボタンをアップロードするオプションを利用できるようになりました。

アイコンを選択する場所の下に、アップロード ボタンがあります。
サポートされるフォーマットは .ico、.png、.svg、または .gif で、サポートされるサイズは 60x60 ~ 1200x1200 です。アップロードすると、256X256 にサイズ調整され、そのフォーマットで保存されます。

スタンドアロン UI 拡張エディタは削除され、CE9.15.0.11 でダウンロードできなくなります。

UI 拡張機能を使用するには、タッチパネルが必要です。



既知の制限事項

この機能は Cisco Telepresence SX10 では使用できません。

ボタンのオーバーフローによって [その他 (more)] ボタンが作成された場合、カスタムアイコンはオーバーフローリストに表示されません。

背景雑音の除去 (BabbleLabs)

BabbleLabs の取得による高度なノイズ除去 AI は、CE9.15.0.11 から実装されるようになりました。通話中に、その場で UI からまたは設定からノイズ除去を有効にして、キーボード入力、交通などの背景雑音や、会議を妨げるその他の背景雑音を除去することができます。この機能を使用すると、常に自分の音声に集中することができます。

この機能は、Cisco Webex Room および Cisco Webex Desk シリーズでサポートされています。

ロックされた CMS 会議へのゲストの参加の許可をサポート

要件：

CMS 3.2 および CE9.15.0.11 以上

この機能を使用すると、会議のホストはロックされた CMS 会議への参加を参加者に許可することができます。

タッチ スクリーン アクティビティ用の浮動ツールバー

タッチスクリーンデバイスでは、プレゼンテーションの共有や Web アプリのナビゲーション中に、浮動および固定可能なツールバーが表示されます。ツールバーでのシナリオに応じて、さまざまなオプションが表示されます。たとえば、プレゼンテーションの共有を停止したり、注釈を有効にしたり、Web アプリのナビゲーションの際に前のページに戻ったり、現在のページを更新したりすることができます。タッチ転送対応のデバイスでは、これを新しいツールバーからこの機能を有効または無効にすることもできます。

ホワイトボードのダークモード

この機能はホワイトボード機能を備えたすべてのデバイス（DX、Board、Desk シリーズ）でサポートされています。

ホワイトボードで黒または白のキャンバスを切り替えできるようになりました。ホワイトボードを次回開くときのために、選択した設定がデバイスに保存されます。

ダークモードはデバイス専用で、ローカルであり、リモートサイトと共有する（1 方向）場合は、ホワイトボードとして表示されます。2 方向ホワイトボードセッションでは、ローカルの設定に応じてブラックボードまたはホワイトボードとして表示されます。

ホワイトボードの概要

この機能はホワイトボード機能を備えたすべてのデバイス（DX、Board、Desk シリーズ）でサポートされています。

以前のバージョンでは、現在の描画の 2 倍にズームアウトすることができました。このズーム範囲が 10 倍に拡張されたため、ホワイトボードの概要がより適切に表示されるようになりました。

CUCM コール管理レコード

CE エンドポイントがメディア統計情報を CUCM に送信できるようにする新しい CallDiagnostics 設定。

xConfiguration Provisioning CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics: Enabled

この機能が CUCM で有効になっている場合、この機能はデフォルトで有効で、コール管理レコード (CMR) に値が入力されます。CMR は、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameter)] > [CallManager サービス (CallManager service)] で、[コール診断有効 (Call Diagnostics Enabled)] パラメータを介して CUCM 上で有効化されます。

値はコールの切断/保留前の最後の統計情報のスナップショットから取得され、コール中に送受信された実際の値が反映されて、コール終了時の変更による影響を受けません。

パケットはその間カウントされますが、ストリームに関する情報 (コーデック、解像度、フレームレートなど) は、コールの切断/保留時にメディアがアクティブな場合にのみ送信されます。メディアストリームがミュートされた場合、これらの値は失われます。

既知の制限事項：

会議：切断する前にエンドポイントをロビーに移動した場合、ストリームに関する情報はロビーのストリームに関する情報である可能性があります。

マルチストリーム：パケットはストリーム全体でカウントされますが、ストリームに関する情報は最初のアクティブなスピーカーストリームについての情報が送信されます。

プレゼンテーション：パケットはその間カウントされますが、ストリームに関する情報は、通話の切断/保留時にプレゼンテーションがアクティブな場合にのみ送信されます。コール中の複数の共有は正しく反映されません。

MRA：この機能は、MRA (モバイル リモート アクセス) を介して接続されていない CUCM にオンプレミスで接続されているエンドポイントにのみ適用されます。

ブロードキャストモード

ブロードキャストモードは、ビデオ出力のすべてのグラフィックエフェクトを削除するように設計されています。TV ネットワークなどでビデオ出力をブロードキャストする場合、アイコンや音量の上げ下げ時の通知、デバイスのミュート/ミュート解除など、操作を中断させる要素を削除したい場合があります。ブロードキャストモード機能には、この機能があります。

このモードを有効にすると、次のような要素は非表示になります。

- たとえば、右上隅のアラート/通知およびアイコン。
 - 録音
 - プロキシミティ
 - 音量
 - ミュート
 - その他...
- 通話中以外および通話中のホーム画面のすべてのボタン
- 通話中の要素の例には、次のものがあります。
 - ミーティングから退出/ミーティングに参加
 - ミーティング参加者用の「+1」以上のオーバーフローインジケータ
 - 着信および発信コールインジケータ
 - その他...

このモードで表示される一部の要素の例には、次のものがあります。

- 参加者ごとのミュートインジケータなど、ミーティング参加者の名前ラベルと、参加者がプレゼンテーションを共有している場合のアイコン
- パーソナル ミーティング ルームに入室すると、ビデオストリームの一部と見なされるロビー画面が表示されます。
- アップグレード画面と起動画面が表示されます。
- 初回ウィザードが表示されます（手動でウィザードを実行するか、キャンセルする必要があります）。
- メンテナンス モード
- 拡張ロギングが有効になっている場合、警告が表示されます。
- Web 表示とホワイトボードのセッションは通常通り表示されます。

これは、オンデマンドで有効にして、Web インターフェイスまたは xAPI を使用してデフォルトでオフにできます。

xConfiguration UserInterface OSD Mode: Unobstructed

Webex Edge for Devices のアップデート

以下の機能は、デバイスが Webex Edge for Devices からクラウドにリンクされている場合に有効です。

クラウドソフトウェアのアップグレード

要件

- Cisco Webex Control Hub でデバイスの設定を有効にしている。
- デバイスで、設定 [Webex] > [CloudUpgrades] > [モード (Mode)] を [オン (On)] に設定している。
- クラウドのアップグレードは、クラウドにリンクされているすべてのデバイスでサポートされ、設定は CE9.14.3 以上を実行しているデバイスで使用できます。CE9.14.x を使用しているデバイスでクラウドアップグレードを有効にする場合は、再起動が必要です。
- CE9.15.0.11 以上の場合、再起動は不要です

クラウドアップグレードの有効化

Cisco Webex Control Hub にログイン中に、次のように進みます。

- [デバイス (Devices)] > [設定 (Settings)] > Webex Edge for Devices。
- [Control Hub による設定の管理を許可 (Allow Control Hub to manage configurations)] を有効にします。
- 有効にした後、[管理 (Manage)] タブをクリックすると、デバイスの概要が表示され、クラウドアップグレードで有効にするデバイスを見つけて選択します。パネルが右側に表示されます。
- 下にスクロールして [デバイスの設定 (Device Configurations)] をクリックし、[検索] フィールドに「CloudUpgrades」と入力して、[Webex] > [クラウドアップグレード (CloudUpgrades)] > [モード (Mode)] を [オン (On)] に設定します。デバイスが新しい設定でプロビジョニングされるまで時間がかかる場合がありますが、デバイスを再起動してすぐに有効にすることができます。
- 新しいソフトウェアが利用可能になると、デバイスは自動的にアップグレードされます。

デバイスは自動化されたソフトウェアメンテナンスの一部になりました。これで、最新のバグ修正と機能を取得します。アップグレード間隔は毎月ほぼ 1 回です。メニューの [デバイス (Devices)] をクリックして [ソフトウェア (Software)] タブを選択すると、Control Hub のソフトウェア展開プランを表示できます。Webex Edge for Devices の場合は、[RoomOS Edge] サブタブを選択する必要があります。

Webex クラウド内にソフトウェアの 2 つの異なるパイプラインがある点に注意してください。1 つは新しいデバイス (Room、Board、Desk シリーズ) 用で、もう 1 つは古いデバイス (SX、MX、DX シリーズ) 用です。

古いデバイスは RoomOS 9.15.X.x ソフトウェアを受信し、新しいデバイスは RoomOS 10.X.X.x ソフトウェアを受信します。SX、MX、DX シリーズは、RoomOS 10.X.X.x ソフトウェアをサポートしません。

シスコは、Webex Edge for Devices には、完全に Webex に登録されたデバイスに提供しているソフトウェアチャンネルと同じソフトウェアチャンネルを提供しています。

注：TAC は、安定したチャンネルからソフトウェアを取得するクラウドアップグレードが有効なデバイスのみをサポートします。デバイスでクラウドアップグレードを無効にする場合は、ソフトウェアを Cisco.com で利用可能な最新バージョンにダウングレードして、サポートされる状態にしてください。

Webex の最適化されたエクスペリエンス

要件

- Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスで クラウドアップグレードを有効 している必要があります（上記のセクションを参照）。
- [会議マルチポイントモード (Conference Multipoint Mode)] の設定は、デバイスで [自動 (Auto)] または [オフ (Off)] に設定する必要があります。
- [Webex Meetings JoinProtocol] の設定は [Webex] に設定する必要があります。
- デバイスが必要なサービスに到達できるよう、完全に登録された Webex デバイスと同じネットワーク基準を満たす必要があります。
 - o <https://help.webex.com/ja-jp/WBX000028782/Network-Requirements-for-Webex-Services>

Webex の最適化されたエクスペリエンスとは、デバイスをオンプレミスで登録できると同時に、デバイスから Webex ミーティングにネイティブに参加し、クラウドに完全に登録された場合と同じように Webex に直接到達できることを意味します。

エンドポイントが Webex の最適化されたエクスペリエンスの要件を満たしているときに、[Webex に参加 (Join Webex)] ボタンを使用した場合、デバイスは Webex コールを常に行うか、Webex Assisant を使用してパーソナル ミーティング ルームに参加します。

プロトコルが指定されていない場合、デバイスは自動的にコールの発信方法を決定します。たとえば、*@webex.com、*[*.webex.com](https://help.webex.com/ja-jp/WBX000028782/Network-Requirements-for-Webex-Services) または *[@meet.ciscospark.com](https://help.webex.com/ja-jp/WBX000028782/Network-Requirements-for-Webex-Services) ドメインへのコールは、自動的にネイティブ Webex コールになります。そうでない場合、デバイスは指定されたプロトコルを使用するか、デフォルトのプロトコル（つまり SIP）にフォールバックします。

このように Webex ミーティングに参加すると、コールは「真の」Webex コールになります。ホワイトボード、顔認識（有効になっている場合）、レイアウト制御、その他の高度なミーティング機能をサポートするデバイスでは、2 方向ホワイトボードの利点を活用できます。これらの機能は、完全に Webex に登録されたデバイスでのみ使用可能でした。

既知の制限事項：

この機能は、Webex Meetings と PMR に参加するための機能であり、ユーザと他のクラウドデバイス間のアドホック 1:1 コールを含んでいません。

この機能は、Cisco Webex Room Panorama または Room 70 Panorama ではサポートされません。

CE9.14.7 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.14.6 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.14.5 の新機能

- Webex PTZ 4K のサポートを追加
- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.14.5 の新機能の説明

Webex PTZ 4K のソフトウェア サポート

Cisco Webex PTZ 4K (EVI-X200C) は、コラボレーション用周辺機器ポートフォリオの最新のカメラです。Cisco Webex Codec Plus および Codec Pro と互換性があります。このカメラは人口知能ベースの顔と上半身の検出と追跡機能を搭載し、これにより、プレゼンターが事前定義されたプレゼンテーションエリアを移動しても、プレゼンターをビデオ会議で高品質のズームで映すことができます。Webex PTZ 4K は、Codec Plus および Codec Pro とのバンドルとして販売できます。

機能

コーデックカメラの機能	サポートの有無
PresenterTrack	CE* の場合は No (10.3.x 以降で実行する Room、Board および Desk Series 向け RoomOS 10 にはサポートが含まれます)
Control Hub のデバイスインベントリ	はい
ズーム	はい (20 倍の光学ズームと 12 倍のデジタルズーム、合計 240x)
カメラ制御	はい (IP (LAN ポート) 経由)
PoE のサポート	はい
SpeakerTrack	いいえ
パン、チルト、およびズーム (PTZ)	あり
ソフトウェアのアップグレード	はい (CE9.15.3 以降)
プリセット	はい (15 プリセットを保存可能)

照明

電力	スタンバイ	理由
消灯	消灯	電力なし
ゆっくり点滅	OFF	スタートアップ (初期化中)
ON	オフ	電源オン
オフ	点灯	スタンバイ モード
ゆっくり点滅	ゆっくり点滅	ファームウェア アップグレード
オン	点滅	パンチルト位置エラー
速く点滅	速く点滅	内部エラー

カメラ設定スイッチは、HDMI OUT 端子から出力する映像信号フォーマットを選択するためのスイッチです。これは、Cisco Codec によって制御されるように常に 6 に設定する必要があります。

重要な注意事項：カメラに重大な損傷を与えるため、VISCA ケーブルは使用しないでください。

ソフトウェアのアップグレードは、CE9.15.3 以降からサポートされています。

Webex PTZ 4K の詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/collaboration-endpoints/collaboration-peripherals/webex-ptz-4k-camera-ds.html>

CE9.14.4 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.14.3 の新機能

- Cisco Webex Room Navigator のソフトウェアサポート
- Web UI の視覚的更新
- CMS コールで参加者を重要としてピン留めする
- 音楽モード
- タッチスクリーンデバイス用の手動カメラ制御
- マウスとキーボードのリダイレクト (HID 転送)
- Touch 10 メニューボタンの更新
- Web データとホワイトボードのクリーンアップを設定可能
- Wi-Fi 設定 UI の改善
- 最近のコール情報リスト
- Webex Edge for Devices のアップデート
 - MS Teams WebRTC および CVI との相互運用性
 - クラウドへのログのアップロード
 - クラウド xAPI 経由で複数行本文をサポート
- SpeakerTrack 表示の制限
- その他
 - CE9.14.3 にアップグレードした後に音声出力が大きくなっている場合がある

CE9.14.3 の新機能の説明

Cisco Webex Room Navigator のソフトウェアサポート

Cisco Webex Room Navigator は、Cisco Webex Room シリーズにおける新しいタッチパネルです。この直感的なタッチパネルにより、ビデオ会議、ルームコントロール、コンテンツ共有、および会議室の予約にすぐに接続できます。

Cisco Webex Room Navigator には、テーブルスタンドと壁面取り付けの 2 つのバージョンがあります。Room Navigator は、（湿度、温度、および ALS（環境光センサー）など）の環境データを収集できる複数のインテリジェントセンサーを搭載しています。

センサーデータは、接続されている Room Device API または Cisco Webex Control Hub で使用できます。

Cisco Webex Room Navigator の詳細については、次のページを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collaboration-endpoints/webex-room-navigator/index.html>

ソフトウェア互換性に関する注意事項およびアップグレード ガイド：

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/software-upgrade-room-navigator.pdf>

Web UI の視覚的更新

Web インターフェイスは、最新のスタイル設定フレームワークで更新されました。Web インターフェイスによって提供される機能は変わりませんが、色とインタラクションのフォーム（つまり、ボタンとテキスト入力フィールド）は新しいスタイルで更新され、このスタイルにより、小規模/モバイルデバイスの全体的なサポートも向上しています。これは Web インターフェイスの大規模更新の最初の部分です。

CMS コールで参加者を重要としてピン留めする

CMS ミーティングでは、ミーティングホストはミーティング参加者をピンで固定して、すべてのミーティング参加者にとって重要として表示できるようになりました。この方法により、参加者はアクティブなスピーカーでなくても表示されるようになります。

コール中に参加者リストをタップし、ピン留めする参加者を見つけます。参加者をタップし、[全員に対してピン留めする (Pin for all)] を選択します。

参加者は、ピン留めまたはピン留め解除されたときに、画面に通知を受信します。ピン留めされた音声のみの参加者はレイアウトに影響しません。

この機能は、アクティブコントロールが有効な CMS コールで動作します。

音楽モード

これまで、ルームデバイスでは、デフォルトで追加のノイズをフィルタ処理で除去し、音レベルの変動を減らすことで、ミーティングでの使用や気が散るノイズに対応していました。この機能（音楽モード）により、コントロール可能な UI 設定を使用して、コール中や非コール中に音楽のダイナミックレンジを通過させることができます。音楽モードは、リモート ミュージック レッスンや楽器のテスト、およびすべての範囲の音楽を聞くことが重要な場合に便利です。デバイスは依然として、エコーキャンセレーションと環境背景雑音のリダクション機能を使用して、パフォーマンスを損なうことなく外部装置を使用する必要を回避しています。注：音楽モードは、コールが終了すると自動的にオフになります。次のコールは音声用に最適化されます。

音楽モードはマイクでのみ動作し、HDMI 入力など、他の入力ソースからの音声ではサポートされません。つまり、ラップトップから再生されるコンテンツの音声は、音楽モードから影響を受けません。

Desk Pro のマウスとキーボードのリダイレクト (HID 転送)

USB レシーバー、キーボード、またはマウスを Desk Pro に直接接続して、USB-C で接続したラップトップにこれらの機器の動作を転送することができるようになりました。これは、USB-C によるドッキングステーション機能の拡張です。

Cisco Webex Desk Pro および Board 用の手動カメラ制御

この機能により、手動ズームなど、カメラを手動で調整したり、自動フレーミング機能をオフにしたりできます。

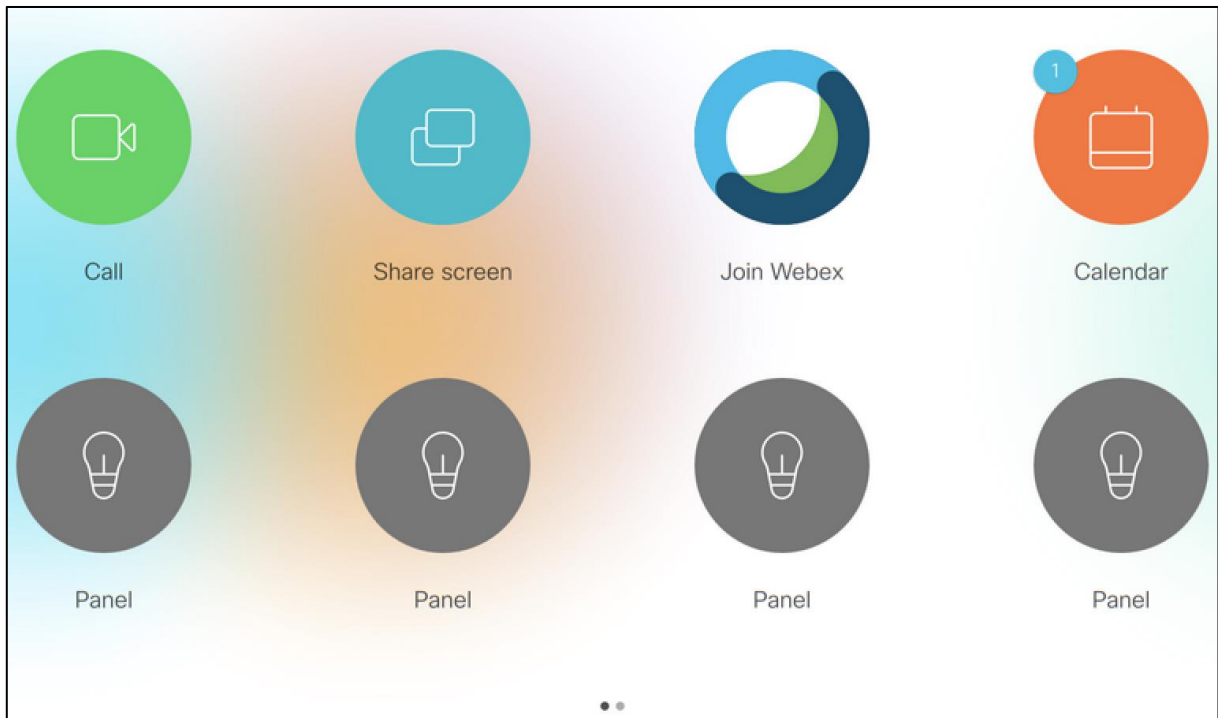
Cisco Webex Desk Pro：最大 2 倍のデジタルズーム。

Cisco Webex Board：最大 5 倍のデジタルズーム。

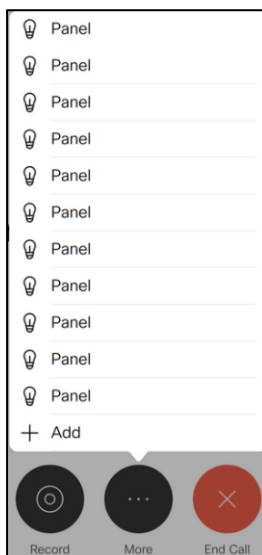
注：FECC は Cisco Webex Board または Desk Pro から使用できませんが、他のデバイスは FECC を使用してこれらのデバイスを制御できます。

Touch 10 オンスクリーンボタンの更新

Touch 10 および Room Navigator はボタンのページをサポートするようになりました。この機能はページあたり最大 8 個のボタン（プレゼンテーションをプレビューする場合は 5 個）を表示できます。追加のページは、ボタンの下に小さな点で示されます。ボタンの上で指を左または右にスライドさせて、ページを切り替えます。この機能により、以前はコール外のシナリオでオーバーフローしたボタンを表示していた [その他 (more)] ボタンがなくなりました。



コール中のシナリオでは、オーバーフローしたアクションをスクロール可能なリストに表示する [その他 (More)] ボタンが引き続き表示されます。



Web データとホワイトボードのクリーンアップを設定可能

新しい設定可能なクリーンアップ機能を使用すると、デバイスがすべての Web データおよびホワイトボードデータをクリーンアップする時間を設定できるようになりました。以前のリリースでは、Webex Board はハーフウェイクモードに入ることにクリーンアッププロセスを開始していました。

例：

```
xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType WebData: Daily
```

```
xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType WebData: Daily
```

```
xConfiguration RoomCleanup AutoRun HourOfDay: 0
```

デフォルト設定では、デバイスは毎日午前 0 時にデータのクリーンアップを試行します。ホワイトボードまたは Web データのクリーンアップをオフにすることで、デバイスは手動で実行されるまでクリーンアップしなくなります。

ホワイトボードや Web データを保存している場合、[セッションの終了 (End session)] というボタンが画面に表示されます。これにより、クリーンアップする項目を手動で選択できます。クリーンアップ時にデバイスが使用されていない (スタンバイ) の場合、デバイスはデータを自動的にクリーンアップします。

クリーンアップ時にデバイスが使用されている場合、デバイスはクリーンアップを実行しませんが、使用されていない状態になるまで待ちます。クリーンアップ時間 (デフォルトでは 00:00-00:59) 中にデバイスがハーフウェイクに入ろうとしている場合、「次のユーザのためにクリーンアップしています (Cleaning up for the next user)」という 60 秒間の警告が、中止するボタンとともに表示されます。中止した場合、デバイスは次の日の同じ時間までクリーンアップを試行しません。

Wi-Fi 設定 UI の改善

CE9.13.0 で、Room USB 専用の Wi-Fi を設定するための新しい改善された UI を導入しました。この新しい Wi-Fi 設定は、Wi-Fi をサポートしているすべてのデバイスで実装されました。Wi-Fi を設定するには、イーサネットケーブルをデバイスから取り外す必要があります。

最近のコール情報リスト

デバイスで最近通話を行ったコールに関する情報を表示します。コールで収集されたパケット損失/ジッターおよび他のデータを表示します。これは技術的には新しい機能ではありませんが、タッチパネルからこのデータを表示できるようになったため、情報をさらに表示できます。

緑色の [発信 (Call)] ボタンをクリックし、[通話履歴 (Recents)] タブを選択します。通話をクリックして、[その他 (More)] ボタンを選択します。次に [コールの詳細 (Call details)] をクリックして、コールの統計情報を表示します。

これは、画質のよくないビデオを経験したシナリオで有用であり、これを使用すると、コール中にパケット損失で問題があったかどうかを迅速に特定することができます。

Webex Edge for Devices のアップデート

Microsoft Teams WebRTC および Cloud Video Interop (CVI) のサポート

最近、Webex に登録されたデバイス用に Microsoft Teams WebRTC および CVI が発表されました。Webex Edge for Devices からリンクされる、CE9.14.3 以上を実行しているデバイスにサポートが追加されました。

WebRTC コールを使用するには、Cisco Webex Control Hub と MS Teams ミーティングの招待にハイブリッド予定表を導入し、デバイスで [One Button to Push] を生成する必要があります。WebRTC は、デバイス上の埋め込み Web エンジンを使用してコールを行います。Web エンジン、デバイスで Web 表示を作成できるようにする設定です。Webex Edge for Devices にリンクすると、Web エンジンが自動的にオンになります。Web エンジンを手動でオフにした場合、WebRTC は動作しません。

組織内で Cloud Video Interop (CVI) を有効にした場合、MS Teams ミーティングに直接ダイヤルインできます。このような場合、Web エンジンとハイブリッド予定表は必要ありませんが、[One Button to Push] を使用してミーティングに参加するには、ハイブリッド予定表を導入する必要があります。

Webex Edge for Devices を介してログをクラウドにアップロードする

完全にクラウドに登録されているデバイスは、[設定 (Settings)] > [Issues and Diagnostics (問題と診断)] 下の UI にある [ログを送信 (Send logs)] ボタンを押すことで、常にログをクラウドにアップロードすることができます。Cisco Webex Edge for Devices から登録されたデバイスで同じオプションが使用可能になっています。この機能はデフォルトでは有効になっていません。[ログの送信 (Send logs)] オプションを表示するには各デバイスで有効にする必要があります。

ログをクラウドに送信する場合、ログはユーザのプライバシーを保護するために PII 情報についてフィルタ処理され、問題が発生した場合に必要なログを Cisco Technical Assistance Center に提供するプロセスを簡素化するために使用されます。アップロードが成功すると、ログ ID が UI に表示されます。この ID は、シスコサポート担当者に提供できます。

クラウドデバイス API : コマンド要求での大きいサイズの本文をサポート

クラウドデバイスの API は新しくはありません。これまでは追加の複数行入力が必要なコマンドをサポートしていませんでした。CE9.14.3 では、証明書、ブランドイメージ、マクロ、UI コントロール、サインインバナー、または他の複数行コマンドなど、複数行の本文を含んでいるコマンドを発行できます。

クラウドデバイス API の詳細と、その使用方法の詳細については <https://developer.webex.com> をご覧ください。

開発者サポートについては、devsupport@webex.com にお問い合わせください。

SpeakerTrack 表示の制限

ルーム内の SpeakerTrack 表示の制限を絞り込むことができるようになりました。タッチパネルの設定に新しい構成ウィザードが追加され、新しい概要イメージを設定できるようになりました。拡大してイメージを調整し、イメージにルームの一部が含まれないようにすることができます。

SpeakerTrack 診断が有効になっている場合は、表示制限が有効であるかどうかと、概要イメージとして使用されているフレームを確認できます。

SpeakerTracking とフレーミングは、制限された概要イメージ内では引き続き機能します。

この機能は、SpeakerTrack がアクティブで、表示制限が有効になっている場合にのみ機能します。

その他

CE9.14.3 にアップグレードした後、音声出力が大きくなっていることがある

以前のバージョンでは、*xConfiguration Audio Output<HDMI/Line> Level* が、構成したデシベル数の 2 倍適用されるというバグがありました。次に例を示します。

0 では 0dB ゲインです

-1 では、-2dB ゲインです

-24 では、-48dB ゲインです

以前のリリースでの設定によっては、アップグレード後に音声出力の音量が以前よりも大きくなっている場合があります。この問題は解決しました。このメモは、音量の増大がバグ修正の結果であり、その逆ではないことをお知らせするためのものです。

この問題は、Cisco Telepresence SX80、Cisco Webex Codec Pro、Codec Plus ベースのデバイスに影響する可能性があります。

CE9.13.3 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.13.2 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.13.1 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.13.0 の新機能

- Cisco Webex Room Panorama および Room 70 Panorama がサポートされます。
- Webex Edge for Devices
 - Cisco Webex Control Hub の設定管理のサポート
 - ユーザ検索を使用したパーソナル ミーティング ルームへの簡単な参加
 - Webex コールに参加する場合のリアルタイム メディア メトリック
- Cisco Webex Desk Pro のカスタム仮想背景のアップロード
 - PC 入力を仮想背景として使用
- TRC リモートを使用した Cisco Webex Room USB での Wi-Fi セットアップの改善
- Webex Board でのコール中のタッチ転送
- CMS 2.8 ミーティングへのダイヤル時の遠端カメラ制御
- 時間と日付を含むカスタム テキストのビデオストリームへの追加

CE9.13.0 の新機能の説明

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.13.0

概要

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.13.0 は、新しいファーストクラスのコラボレーション システムである Cisco Webex Room Panorama のサポートが付属する最初のソフトウェア バージョンです。Webex Edge for Devices 経由で登録されるデバイス向けに新機能を追加します。CE9.13.0 は、Webex Control Hub からの設定管理に対応しており、Control Hub から簡単にトラブルシューティングできるように、Webex ミーティングに参加する際のリアルタイム メディア メトリックもサポートします。詳細については、「新機能の説明」を参照してください。

新製品のサポートを追加

Cisco Webex Room Panorama および Room 70 Panorama

Cisco Webex Room Panorama は、現代の経営幹部向けに作成された新しいファーストクラスのコラボレーション システムです。Room Panorama は、Cisco Webex Room シリーズ ポートフォリオに、没入型のビデオ エクスペリエンス、リッチ コンテンツ共有、共同作成のエクスペリエンスを提供します。

Room Panorama は、強力な Cisco Webex Room Kit Pro 技術を基盤として構築されています。

Room Panorama は、強力なコーデック、Cisco Quad Camera、デュアル 82 インチ 8K のビデオ ディスプレイ、65 インチの 4K プレゼンテーション ディスプレイで構成され、最大 14 人を収容できる会議室に適しています。

高度なカメラ技術により、中規模から大規模の会議室で、パノラマ ビデオ、発言者追跡、自動フレーミング機能を使用できます。

Cisco Webex Room Panorama の詳細については、次のリンクを参照してください

https://www.cisco.com/c/ja_jp/products/collateral/collaboration-endpoints/collaboration-room-endpoints/datasheet-c78-743064.html

Webex Edge for Devices のアップデート

Cisco Webex Control Hub の設定管理のサポート

CE9.13.0 では、Webex Edge for Devices 経由でリンクされたデバイスの設定管理を Cisco Webex Control Hub で行うことができます。Control Hub では、設定管理（書き込み）はデフォルトで無効になっており、使用するには有効化する必要があります。無効になっている場合、デバイスの設定の読み取りのみが可能です。Control Hub からデバイス上の設定を変更するには、Control Hub でこの機能を有効にする必要があります。

設定を管理できるように Control Hub が設定されている場合、その管理対象のデバイスでは、Control Hub で公開されていない設定を除き、CUCM からのほとんどの設定を受け付けなくなります。これは、カスタマイズ（マクロやブランド化など）が CUCM から受け入れられなくなることも意味します。その他の設定は、ほとんどがネットワーク サービスに関連するものであり、Control Hub からデバイスに到達できないようにするためのものです。デバイスは、CUCM からのこれらの設定を引き続き受け付けます。特に重要な設定については、次のリストを参照してください。

```
xconfig networkServices http proxy
xconfig networkServices h323
xconfig networkServices https
xconfig networkServices snmp
xconfig networkServices ssh hostkeyalgorithm
xconfig networkServices upnp
xconfig networkServices wifi
xconfig conference defaultcall protocol
xconfig conference encryption mode
xconfig phonebook
```

ユーザ検索を使用した Webex パーソナル ミーティング ルームへの簡単な参加

これは CE9.12.3 でリリースされた機能に対する追加です。PMR への簡単な参加の機能については、CE9.12.3 の機能説明のセクションを参照してください。

Webex Edge for Devices 経由でリンクされたデバイスで、リンクされている Webex 組織内のユーザを直接検索できるようになりました。最近の PMR コールの検索に限定されません。パーソナル ミーティング ルームに簡単に参加するためのボタンが、ユーザ名の横の検索結果に表示されます。

Webex ミーティングに参加する際のリアルタイム メディア メトリック

Webex Edge for Devices を通じてリンクされたデバイスは、現在の Webex 登録済みデバイスと同様に、Control Hub のメディアトラブルシューティング セクションに表示されるようになります。これにより、メディア品質の問題のトラブルシューティングが容易になります。

Cisco Webex Desk Pro のカスタム仮想背景のアップロード

カスタムの仮想背景を Cisco Webex Desk Pro にアップロードできるようになりました。デバイスの Web インターフェイスから画像をアップロードし、GUI から仮想背景として選択できます。

注：カスタム仮想背景の使用は、テクノロジー プレビューと見なされます。この機能はデフォルトでオフになっていますが、カメラの設定でオンにすることができます。

仮想背景としての PC 入力の使用

Cisco Webex Desk Pro の入力（HDMI または USB-C）に接続されたデバイス（ノート PC など）がある場合は、GUI でこの入力を仮想背景として選択できます。仮想背景には、ノート PC に現在表示されている内容がミラーリングされます。

Webex Board でのコール中のタッチ転送

従来は、コール中のタッチ転送はサポートされていませんでしたが、画面上でフローティング ツールバーを使用してアクティブ化/非アクティブ化できるようになりました。

TRC 6 リモートを使用した Cisco Webex Room USB での Wi-Fi セットアップの改善

TRC 6 リモート コントロールを使用して Wi-Fi を設定するための UI が改善されました。これにより、TRC 6 リモート コントロールを使用して移動する場合の Wi-Fi の設定が容易になります。以前のバージョンでは、Wi-Fi を設定するための UI は最適なものではありませんでした。この改善によって、問題が解決されました。

CMS (2.8) ミーティングへのダイヤル時の Far End Camera Control (遠端カメラ制御) のサポート

FECC は従来、CMS でホストされているミーティングへのダイヤル時にはサポートされていませんでした。参加者リストを押すことで、現在アクティブな発言者の遠端カメラを制御するボタンが表示されます。注：アクティブな発言者が頻繁に変わる場合は、意図した参加者のカメラを制御することが難しい場合があります。遠端カメラ制御の対象とする参加者を手動で選択することはできません。

DX80、Desk Pro、Room Kit、Quad Camera を使用しているデバイスなど、FECC に対応していないデバイスもあることに注意してください。

時間とデータを含むカスタム テキストをルーム デバイスのビデオ ストリームに追加

ビデオ ストリームに時間、日付、およびカスタム テキスト文字列を追加するために、新しい xAPI コマンド `xCommand Video Graphics Text Display` が追加されました。この行を、メインのビデオ、プレゼンテーション、またはローカル出力に追加できます。この機能は、Cisco Webex Room シリーズなどの新しいデバイス ポートフォリオでのみサポートされています。

注：カスタム テキストを送信するリモート デバイスの名前ラベルは、テキストに重なって表示されることがあります。これは既知の制限事項であり、将来のリリースで解決される予定です。

新しい xAPI コマンドと機能の詳細については、API ガイドを参照してください。

バグ修正

- このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.12.5 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.12.4 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.12.3 の新機能

- Cisco Webex Room USB の USB サポート
- Cisco Webex Desk Pro のサポート
- Samsung Flip での Cisco Webex Room Kit Mini のサポート
- コール中の一方向ホワイトボードの共有
 - 「すべての場所で注釈を付ける」
- Webex 参加ボタン：最近のコールから提案によるパーソナル ミーティング ルームへの簡単な参加
- Webex Edge for Devices での HTTP プロキシのサポート
- Cisco Webex Desk Pro でのコール中のタッチ転送
- その他の変更
 - プロキシミティの通知の非表示
 - プライバシーに配慮したスケジュールされたミーティングのタイトルの非表示
 - Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の手動ズームが 3 倍から 5 倍に向上
 - Web UI の改善
 - コール制御から SpeakerTrack を非アクティブ化/アクティブ化するボタンの追加
 - コール制御のマイク ボタンで、ミュート ステータスが正しく表示
 - プリセットを選択時に強調表示
 - メイン ビデオで構成イメージが検出されたときに、DefaultMainSource が表示
 - コール制御で表示されるディレクトリ エントリ数が 50 から 100 に増加

CE9.12.3 の新機能の説明

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.12.3

概要

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.12.3 が提供開始されました。CE9.11.0 はスキップされ、リリースされません。CE9.12.0、CE9.12.1 および CE9.12.2 は、新しくサポートされる製品の製造ソフトウェアとして使用されていましたが、cisco.com では提供されていません。これらのバージョンのいずれかを実行している製品を受け取った場合は、cisco.com でその製品向けに提供されている最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。製品を Webex に登録する場合、そのデバイスはアクティベーション後に自動的にアップグレードされます。製造ビルド (CE9.12.0、CE9.12.1、および CE9.12.2) は、オンプレミス展開については TAC ではサポートされていません。

新製品のサポートを追加

Cisco Webex Room USB

Cisco Webex Room USB は、Cisco Webex Room シリーズの新しいエントリ レベルのルーム デバイスであり、USB モードでのみ使用できます。管理のために Room USB デバイスを Webex Control Hub に登録し、ワイヤレス コンテンツ共有やデジタル サイネージに使用することができます。

Room USB は Cisco Webex Room Kit Mini と同じハードウェアです。有効なプロダクト キーを使用して Room USB から Room Kit mini にアップグレードすることができます。

Cisco Webex Room USB の詳細については、こちらを参照してください。

https://www.cisco.com/c/ja_jp/products/collateral/collaboration-endpoints/webex-room-usb/datasheet-c78-743383.html

Cisco Webex Desk Pro

Cisco Webex Desk Pro は、デスク用の最先端の AI 搭載デバイスです。Desk Pro のサポートは CE9.12.3 で追加されました。デバイスをオンプレミスまたはクラウドに登録して、ホワイトボード、顔認識、デジタル サイネージ、タッチ転送などによりエクスペリエンスを向上させることができます。

デバイスの詳細については、次のリンクを参照してください。

https://www.cisco.com/c/ja_jp/products/collateral/collaboration-endpoints/collaboration-room-endpoints/datasheet-c78-743064.html

デバイスを CUCM に登録するためには、更新されたデバイス パックが必要な場合があります。

Cisco Webex Room Kit Mini と Samsung Flip の使用のサポート

CE9.12.3 以降で Samsung Flip デバイスと Cisco Webex Room Kit Mini を使用している場合は、それらを接続することで、フリップタッチスクリーンを最大限に活用することができます。Webex Room Kit Mini を Samsung Flip に接続すると、タッチ インターフェイスが自動的に取得され (Cisco Webex Board と同等の UI になります)、ホワイトボード機能がロック解除されます。設定は必要なく、ケーブルを接続するだけで、2 つのデバイスがシームレスに連携して動作します。接続すると、画面に表示される新しい [フリップ (Flip)] ボタンを使用して、Samsung Flip と Room Kit UI を簡単に切り替えることができます。

Cisco TAC では、Samsung Flip デバイスに関連することが判明した問題をサポートしないことに注意してください。Cisco TAC は、Cisco Webex Room Kit Mini に関連する問題のみをサポートします。Samsung Flip デバイスで問題が発生している場合は、Samsung のサポート窓口にお問い合わせください。

コール中の一方方向ホワイトボードの共有

従来は、コール中にホワイトボード ボタンを利用できず (グレー表示)、ローカルのホワイトボードのみが有効でした。

CE9.12.3 では、コール中にもホワイトボード機能が有効になります。ホワイトボードをコール中に共有するには、ホーム ボタンをクリックしてからホワイトボード ボタンを押す必要があります。継続して描画するか、新しく描画を開始する場合は、編集モードを開始するとすぐに共有が開始されます。

ホワイトボードの共有を停止するには、[完了 (Done)] ボタンを押してから、[共有を停止 (Stop sharing)] を押します。

ホワイトボードの共有は一方方向であることに注意してください。ホワイトボードに描画できるのは、ホワイトボードを共有しているデバイスのみです。リモート参加者は見ることはできますが、参加はできません。

すべての場所で注釈を付ける

ホワイトボード機能を使用しているデバイスで、コール中またはコールしていないときに、Web ビューまたは共有コンテンツで注釈を開始することができます。

Webex 参加ボタン : 最近のコールから提案によるパーソナル ミーティング ルーム (PMR) への簡単な参加

Webex 参加ボタンで、パーソナル ミーティング ルーム ID のダイヤルがサポートされるようになりました。従来は、Webex の参加ボタンではミーティング番号のダイヤルしかできませんでした。ユーザとサイト名のみ (短縮形) を入力するか、完全な PMR URI を入力することができます。

例 : `user.sitename` または user@sitename.webex.com

パーソナル ミーティング ルームを以前にダイヤルしたことがある（最近のコール リストにある）場合、PMR ID を入力するときに提案として表示されます。

パーソナル デバイスを使用している場合、または共有デバイスにペアリングされている場合は、下部にボタンが表示され、自分のパーソナル ミーティング ルームに簡単に参加することもできます。

Webex Edge for Devices での HTTP プロキシのサポート

HTTP プロキシ サポートは、完全な Webex 導入環境でのみサポートされるようになりました。この機能は、Webex Edge for Devices をサポートするために変更されました。つまり一部はオンプレミスで一部はクラウドです。

Webex Edge for Devices 経由でリンクされている場合は、次のようになります。

- Webex クラウドに対するすべての HTTP リクエストで、設定されている HTTP プロキシが使用されます。
- プロビジョニングを目的とした HTTP リクエスト（CUCM/TMS）または電話帳は、プロキシ設定をバイパスします。

さらに、設定されている HTTP プロキシを以下のサービスで使用するかどうかを個別に選択できる設定も追加されています。

- xConfiguration HttpClient UseHttpProxy
- xConfiguration HttpFeedback UseHttpProxy
- xConfiguration WebEngine UseHttpProxy

プロキシ自動設定（PAC）および WPAD のサポートには変更はありません。注：Cisco TAC では、PAC ファイルの設定を提供または作成する責任を負いません。

Cisco Webex Desk Pro でのコール中のタッチ転送

従来は、コール中のタッチ転送はサポートされていませんでしたが、画面上でフローティング ツールバーを使用してアクティブ化/非アクティブ化できるようになりました。

その他の変更

プロキシミティの通知の非表示

プロキシミティの通知を非表示にできるようになりました。これには、プロキシミティとペアリングされているユーザがいる場合に画面に表示される [プロキシミティ (Proximity)] アイコンや、ペアリングされたときに表示される通知が含まれます。これは設定であり、xAPI、Web UI を使用して設定できます。また、たとえば TMS を使用してプロビジョニングすることもできます。

スケジュールされたミーティングのタイトルの非表示

ミーティングのタイトルでは通常、ミーティングの議題に関する情報が使用されます。さらに厳格なプライバシーを必要とするユーザのために、ミーティングのタイトルを非表示にして「スケジュールされたミーティング」とだけ表示する設定が追加されました。通常、ミーティングのタイトルは、Touch 10 インターフェイスと画面の両方で表示されます。

Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の手動ズームが 3 倍から 5 倍に向上

従来のリリースでは、Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の手動ズーム範囲は 3 倍に制限されていました。CE9.12.3 では、この範囲が 5 倍に向上しました。この変更は、ここに記載されている製品と手動ズーム モードのみに影響することに注意してください。

Web UI の改善と変更

[コール制御 (Call Control)] ページに、次の機能拡張が実装されました。

- 従来は、SpeakerTrack 対応デバイスでは現在の SpeakerTrack ステータスを表示するだけで、状態を変更することはできませんでした。今回、ボタンがクリック可能になり、それに応じて SpeakerTrack が無効化または有効化されます。
- 従来は、ミュート ボタンには、デバイスがミュート解除されていると常に表示されていました。CE9.12.3 では、ミュート ボタンにマイクのミュート状態が正しく反映されます。
- 以前は、プリセットを選択しても、プリセットが正常に選択されていることを示す表示がありませんでした。CE9.12.3 では、プリセットがコーデックによって受け付けられた場合に、選択したプリセットが青色で強調表示されます。たとえば Touch 10 パネルなどからプリセットが選択されたときにも検出されます。ただし、プリセットの強調表示と検出が行われるのは、[カメラの位置 (Camera Positions)] ウィンドウが開いている場合だけです。[カメラの位置 (Camera Positions)] ウィンドウを開いたときは常に、強調表示なしで開始します。
 - デバイスで PresenterTrack がサポートされており、設定されている場合、[カメラの位置 (Camera Positions)] ウィンドウから PresenterTrack を有効化できるようになりました。
- リモート モニタリング オプション キーが必要：従来は、メイン ビデオが複数の入力ソースの複合イメージで構成されている場合に、コール制御ページには黒いイメージしか表示されませんでした。CE9.12.3 では、メイン カメラである DefaultMainVideo ソースがデフォルトで表示されます。
- 従来は、一度に表示できるディレクトリ エントリの最大数が 50 に設定されていました。CE9.12.3 では、この値は 100 に増加します。検索フィールドを使用して、リストを絞り込みます。新しい制限は、最近のコールとお気に入りのエントリにも適用されます。

バグ修正

- このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.10.3 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.10.2 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.10.1 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.10.0 の新機能

- Webex Edge for Devices
- Webex の結合ボタン
- DX70 および DX80 向けに Android から CE9.10.0 への変換ソフトウェアのリリース (2020 年 1 月 17 日)
- その他の変更
 - デフォルトのパスフレーズポリシー
 - 「強力なセキュリティモード」をリプレース
 - デフォルトの自己署名証明書の有効期限が 5 年から 1 年に変更
 - SNMP のデフォルト設定
 - Codec Plus 用 SpeakerTrack 60 のサポートを追加
 - CVE-2020-3143 に関連するセキュリティ問題の解決
 - CSCvs67680
 - CSCvs45241

詳細については、公式セキュリティ アドバイザリを参照してください。

- <https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-telepresence-path-tr-wdrnYEZZ>

以前の影響を受けたソフトウェアのバージョンは削除され、ダウンロードできなくなりました。

- <https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf>

CE9.10.0 の新機能の説明

Webex Edge for Devices

重要な注意：2020 年 5 月以降に作成された組織がある新規のお客様の場合、Webex Edge for Devices のサポートされる最小ソフトウェア バージョンは CE9.12.3 です。CE9.10.x を使用してデバイスをリンクしようとしても失敗します。CE9.10.x で Webex Edge for Devices をすでに使用しているお客様は、引き続き使用できます。また、CE9.10.x を使用して新しいデバイスをリンクすることもできます。

CE9.10.0 には、オンプレミスデバイスを Webex クラウドにリンクできる Webex Edge for Devices のサポートが付属しています。これは、前提条件に一致する任意の登録またはプロビジョニング方法で実行できます。デバイスをリンクすると、デバイス構成管理、登録、通話、メディアサービスがオンプレミスのまま、オプションのクラウド機能のサブセットが有効になります。

Webex コントロール ハブ > デバイス > リソースからダウンロードできる Cisco Webex デバイス コネクタ ツールが必要です。Webex デバイス コネクタ アプリは、2020 年初頭のリリースを対象としており、CUCM、TMS デバイスのエクスポートまたは CSV ファイルを使用してデバイスを一括でリンクすることができます。

デバイスを Webex Edge for Devices にリンクするためには、デバイスに暗号化オプション キーがインストールされている必要があります。

デバイスが正常に Webex Edge にリンクされると、他のクラウド登録済みデバイスと共に Webex コントロール ハブに表示されます。リンクされたデバイスでは、現在、次のクラウド機能を使用できます。

- クラウド xAPI
 - Webex チーム API を介してデバイス xAPI を使用できるようにする
 - より包括的な情報とドキュメントについては、<https://developer.webex.com> をご覧ください。
- Webex コントロール ハブでのオンライン/オフラインおよび診断の状態
 - オンライン/オフラインまたは診断の状態が変更された場合、コントロールハブアラートを通じてデバイスアラートを受信するためのサポート
- デバイス履歴分析は Webex コントロール ハブで利用できます。
- ハイブリッドカレンダーのサポート
- Webex Assistant

デバイスの Webex Edge にリンクする前に、まずオンプレミス サービスを登録することをお勧めします。

お使いのデバイスがデバイス用の Webex Edge にリンクされている場合は、CE9.9.x 以下のようなサポートされていないソフトウェアバージョンにダウングレードしないでください。デバイス用の Webex Edge をサポートしていないソフトウェアバージョンにダウングレードする前に、まずデバイスを工場出荷時にリセットすることをお勧めします。

デバイスをリンクする方法の詳細については、Webex ヘルプセンター (help.webex.com) の管理者ガイドを参照してください。

デバイスの前提条件の Webex Edge

- ソフトウェア バージョン 9.10.0 以降 (2020 年 5 月以降に作成された組織がある新規のお客様の場合は CE9.12.3)
- Webex に正常に接続するには、リンク使用としているデバイスに暗号化オプション キーをインストールする必要があります。ほとんどの Room シリーズデバイスでは、このキーはハードウェアに埋め込まれている。暗号キーが Web インターフェイスにインストールされていないとリストに示される場合は、シスコのライセンス担当者に問い合わせ、このキーを取得してください。暗号キーは、一部の国では禁止されています。
- CUCM 12.5su1、または最新のデバイスパックがインストールされている 11.5.x
- Webex コントロール ハブの管理者アクセス権
- Webex コントロール ハブからダウンロードできる Webex デバイス コネクタ ツール
- クラウド サービス ライセンス (シスコ コラボレーション フレックス プラン)
 - デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスのフレックスまたはエンタープライズ契約を通じて配信されるアクティブなデバイスサブスクリプションが必要です。

A-FLEX-DEVICE または A-FLEX は、パートナーに注文する必要があるフレックス契約 PID、またはデバイスに WebEX コントロールハブの資格を付与するエンタープライズ契約またはアクティブホスト契約を持っているフレックス契約の PID です。

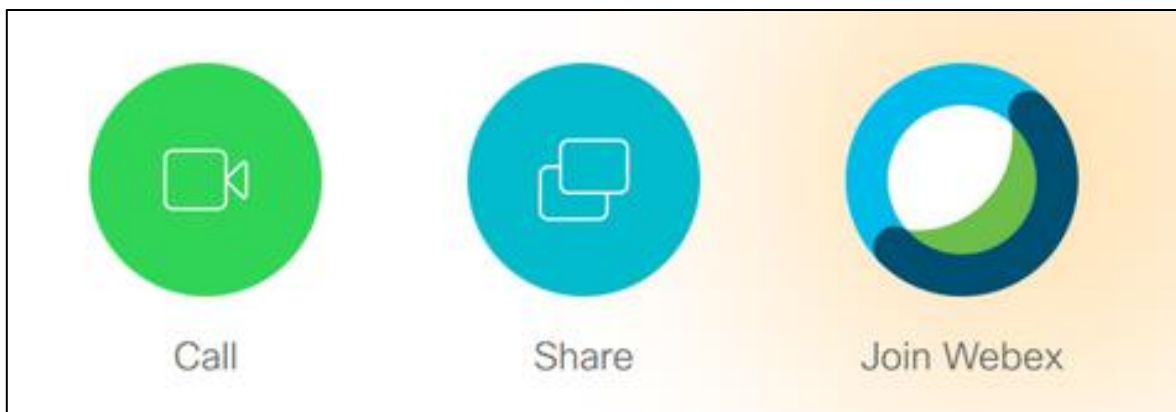
Webex 参加ボタン

Webex ミーティングへの参加を簡素化するための新しいネイティブ ボタンを追加しました。Webex ミーティングに参加するには、ミーティング番号を入力します。

このボタンはデフォルトで有効になっていますが、Web インターフェイスまたは xAPI のデバイス構成からオンデマンドで無効にできます。

この機能を使用するには、インフラストラクチャが webex.com ドメインを正常にルーティングできる必要があります。

ただし、TRC 6 リモート コントロールによって動作するデバイスでは [Webex に参加 (Join Webex)] ボタンは使用できません。



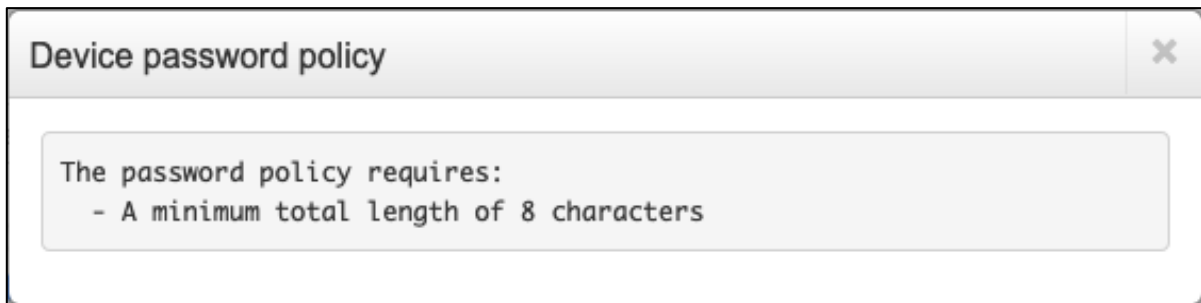
その他の変更

新しいデフォルトパスワードポリシー

展開のパスワード ポリシーを簡単に定義できるように、新しい xConfigurations のセットが追加されました。デバイスのデフォルトパスワードは変更されていませんが、新しいパスワードのポリシーが変更され、デフォルトで 8 文字以上が必要になりました。

新しいパスワード ポリシーの詳細については、管理者ガイドを参照してください。また、Web インターフェイスの [ユーザ管理 (UserManagement)] > [パスワードポリシー (PasswordPolicy)] の下のデバイス構成を使用してこれらを変更することもできます。

新しい [情報 (info)] アイコンがユーザ管理サイトに追加され ([セキュリティ (Security)] > [ユーザ (Users)])、現在のパスワードポリシーが表示されます。新しいパスワードがパスワードポリシーに従っていない場合は、エラーが表示されます。



新しいパスワード ポリシー設定は、CE9.10.0 以降では使用できなくなった"強力なセキュリティ モード"に置き換わります。

デフォルトの自己署名証明書の有効期限が 5 年から 1 年に変更

デバイスの自己署名証明書のデフォルトの期間が、CE9.9.x での 5 年から 1 年に変更されました。

SNMP のデフォルト設定

デフォルトの SNMP 設定は、CE9.10.0 で変更されています。下位バージョンから CE9.10.0 にアップグレードすると、既存の設定が保持されます。ただし、デバイスを工場出荷時のデフォルトにリセットした場合や、CE9.10.0 以上の新しいデバイスを受信した場合、デフォルト設定は SNMP がオフになり、デフォルトのコミュニティ名が設定されていません。

Codec Plus 用 SpeakerTrack 60 のサポートを追加

CE9.10.0からコーデックプラスはスピーカートラック60のサポートを追加しました

CE9.9.4 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.9.3 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.9.2 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - CVE-2020-3143 に関連するセキュリティ問題の解決
 - CSCvs67680
 - CSCvs45241

詳細については、PSIRT セキュリティ アドバイザリを参照してください。

- <https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-telepresence-path-tr-wdrnYEZZ>

以前の影響を受けたソフトウェアのバージョンが削除され、ダウンロードできなくなりました。

- <https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf>

CE9.9.1 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - Web インターフェイス (CSCvr90764) を介して Cisco Webex Room シリーズ デバイスに大きな警官ファイルをアップロードする際の問題を修正します。

CE9.9.0 の新機能

- 有線タッチ再ダイレクト
- Web エンジン (デジタルサイネージ、Web ビュー、Web アプリ)
 - デジタル サイネージ
 - API 駆動型の Web ビュー
- UI 拡張機能エディターの更新プログラム
 - [室内制御 (In-Room Control)] の名前を [UI 拡張 (UI Extensions)] に変更
 - Web アプリ
- ホワイトボード機能の追加
 - ホワイトボードと注釈に付箋を作成、編集、移動する
 - 新しいホワイトボードペンサイズ
 - ホワイトボードと注釈のコピーを作成する
- ネットワーク設定用のユーザ インターフェイスの変更
- TLS 構成の変更
- 外部 URL からカスタムの壁紙とブランドを取得するための API
- 超音波設定の変更

CE9.9.0 の新機能の説明

有線タッチ再ダイレクト

有線タッチの再ダイレクトのサポートを導入し、Webexボード上の画面上のタッチインターフェイスを使用してWindowsを実行しているPCを制御することができます。この機能は、第2世代のボード（Webex ボード 55S、70S、および 85S）でのみ使用できます。

タッチの再ダイレクトを使用するには、HDMIケーブル（有線共有）でPCをWebEXボードに接続し、USB-CからUSB-C、USB-AからUSB-Cケーブルに接続します。この機能はデフォルトで有効になり、通話中でない場合は通常どおり画面を共有し、開始します。

Webex ボードで PC を簡単に制御できるように、PC をタブレット モードに切り替えることができます。これは通常、タスク バーのアクション センターを選択して、時刻と日付を実行します。ここでは、タブレットモードを選択することができます。

注：インストールされているブラウザでドラッグ アンド ドロップにタッチ転送を使用するには、通常、ブラウザで手動で有効にする必要があります。

たとえば、Microsoft Edge の設定は次のようになります。

"about:flags": タッチ イベントを有効にする = 常にオン

これらの設定は、お使いのブラウザーに固有の設定であるため、ブラウザーでこれらの設定を有効にする方法に関するオンライン ヘルプ ページを参照する必要があります。

既知の制限事項については、このドキュメントの「既知の制限事項とアドバイザリ」の項を参照してください。

Web エンジン (デジタルサイネージ、Web ビュー、Web アプリ)

この機能をサポートするデバイス : *Webex Board* シリーズ、*Webex Room* シリーズ、*Desk Pro*

新しい Web エンジン機能を使用すると、画面上に表示される Web ページを開いてデバイス上に Web ビューを作成できます。これは、デジタルサイネージ、Web アプリ、および API 駆動型の Web ビューを駆動する基本機能です。

ポートフォリオ内のすべての新しいルームデバイスは、Webビューをサポートしていますが、現在のところ Webex ボードのみがインタラクティブモードをサポートしており、画面上で Web ビューを操作できます。

WebM や mpeg4 などの標準ビデオ コードがサポートされています。デコードはソフトウェアを通じて行われるため、1080p の解像度を超えて、パフォーマンスが途切れる可能性があるため、推奨されません。

オーディオもサポートされますが、デフォルトでは無効になっているので、設定で有効にする必要があります。音量はデバイスの音量レベルに従いますが、JavaScript オーディオフレームワークを使用して、ボリュームとミュートコントロールを適用することができます。

この機能と xAPI コマンドの詳細については、管理者ガイドを参照してください。

証明書

Web エンジンは、既知の証明機関のインストール済みリストを使用します。カスタム証明機関は現在サポートされていません。

デジタルサイネージ

デジタルサイネージは、デバイスが半通ウェイクに入ったときに、Web エンジンを使用して自動ウェブビューを作成する機能です。ハーフウェイク画面を表示する代わりに、指定された URL を開き、デバイスがスタンバイ モードになるまでコンテンツを表示します。スタンバイタイマーを設定して、Web ページを画面に表示する時間を長くしてから、スタンバイに入ることができます。

この機能は、現在使用されていない画面を再利用して、会社に関する情報、今後のイベント、または単に画像を表示するのに適しています。この機能は、AppSpace などの統合で使用したり、マクロフレームワークで動作をカスタマイズしたりできます。

Webex Board などのインタラクティブな Web ビューをサポートするデバイスを使用して、デジタルサイネージがアクティブな間に表示されるコンテンツを操作できます。

デジタルサイネージは既定では有効になっていません。

API 駆動型の Web ビュー

xAPI を使用して Web ビューを開くと、UI 拡張機能、マクロ、または外部統合と共にカスタム動作を簡単に作成できます。

Web アプリ

UI 拡張機能エディターを使用して Web アプリを作成できます。詳細については、UI 拡張エディター（以前のインルーム コントロール エディター）の説明のセクションを参照してください。

UI 拡張エディタの更新

室内制御は「UI 拡張機能」と改名されました。Web インターフェイスのリンクをクリックすると、エディタに直接アクセスできます。起動前ページが削除され、エディタをローカルにダウンロードするためのリンクがエディタ自体のメニューに移動されました。

エディターは、見た目も感じも同じですが、UI パネルの作成を簡略化し、より効率的に作業できるいくつかの更新プログラムがあります。

- パネルリストに色が追加され、パネルと割り当てられた色を簡単に識別できるようになりました。
- ウィジェットはエディタウィンドウの下に移動したので、ウィジェットとプロパティを切り替える必要がなくなりました。
- 新しい Web アプリ ボタンを追加しました。現在は、すべての Webex ボード モデルでのみサポートされており、UI 拡張機能エディターで Web アプリ ボタンを作成するオプションが表示されます。
 - [Web アプリ] ボタンを使用するには、デバイスで Web エンジンが有効になっている必要があります。
 - ボタンを画面で Web ビューを開く場合、マクロは必要ありません。有効な外部 URL を入力して、Web アプリ ボタンが画面に表示されます。
 - Web アプリのアイコンは、サイトのアイコン（通常はサイトのファビコン）に基づいて自動的に選択されます。ボタンアイコンとして表示される Web アプリ アイコンの URL フィールドを使用して、特定のアイコンに直接リンクすることもできます。
サポートされているアイコンの種類：.ico、.png、.jpg、.svg、.gif
サイズ：最小60x60、最大1200x1200（最良の結果のための正方形の画像）。
 - 新しく作成した Web App ボタンを押すと、指定した URL が画面上に開きます。
 - この機能を使用すると、ユーザが Webex ボードから Jira、Miro、Office 365、Google ドキュメントなどの Web アプリを簡単に開くことができます。
- さまざまな種類のボタン（拡張機能）が強調表示されます。まず、アクションボタン、パネル、または Web アプリを作成するオプションがエディタに表示されます。
- コーデックへのエクスポート ボタンが強調表示されているので、設定をコーデックにエクスポートする方法を簡単に確認できます。

ホワイトボード機能の追加

ホワイトボードや注釈に付箋を作成、編集、移動する

付箋はホワイトボード機能で利用可能になりました。異なる色の付箋を添付し、それらをグループ化し、それらを移動します。付箋を作成する場合は、スクリーン キーボードを使用して、ノートに限られた量のテキストを追加できます。この機能は、かんばんボードやインタラクティブなワークショップやブレーストーミングに最適です。付箋は描画できず、作成順に重ね合わせられます。

新しいペンサイズが利用可能

ホワイトボードに描画しながらペンのサイズを 3 つ選択するには、ペン アイコンを押します。小さい中と厚いの間で選択することができます。線の動作は、実際のマーカーで描画しているような感じを与えるために調整されています。

ホワイトボードと注釈のコピーを作成する

現在のホワイトボードのコピーを作成すると、元の図面や注釈を上書きする必要なく、引き続き描画できます。図面や注釈に何かを素早く指摘する必要がある場合は、図面のコピーを作成し、完了したら元の図面に戻すことができます。ホワイトボードまたはアノードスナップショットのコピーは、ホワイトボードメニューに保存されます。

「コピーを作成」は、電子メールにコピーを送信するのと同じ場所にあります。

ネットワーク設定のユーザ インターフェイスの変更

デバイスのユーザ インターフェイスのネットワーク設定ページが変更されました。まず現在のネットワーク設定が表示され、次にイーサネットまたはWi-Fiの設定を変更する場合は、設定を開くことができます。GUI からは利用できなかったいくつかの設定が追加されました。

TLS 構成の変更

セキュリティ上の理由から、HTTPS クライアント、syslog、および SIP 接続の TLS 設定にいくつかの変更が加えられました。

- 証明書チェックを実行しない場合は、証明書の検証を明示的にオフにする必要があります。デフォルトでは、すべての TLS 接続で証明書がチェックされます。
- TLS の最小バージョンが、バージョン 1.0 から 1.1に上がりました（バージョン 1.0 を許可している CUCM と SIP を除く）。Webex クラウドでは TLS バージョン 1.2 を使用していることに注意してください。
- プロビジョニング、電話帳、およびその他の HTTP サーバの証明書検証を個別に構成できます。これらのすべてのサーバの種類をカバーしていた以前のネットワーク サービス HTTPS 検証サーバ証明書設定は、TLSVerify のプロビジョニング、電話帳サーバ [1] TlsVerify、および HTTPFeedback TlsVerify の 3 つの設定に置き換えられます。
- 外部ロギングの証明書の検証（監査ロギングと通常のロギングの両方）を設定できます。
- SIP の場合、証明書は、Web インターフェイスまたは API を使用してデバイスに手動でアップロードされるカスタム CA リストに対して検証されます。その他の接続の場合、証明書はデバイスに事前にインストールされた CA リストまたはカスタム CA リストのいずれかに対して検証されます。
- TLS 1.3 をサポートしています

注：この変更は、TMS 展開をホストしているサーバで TLS1.1 または TLS1.2 を有効にしていない場合、TMS 接続に影響する可能性があります。

外部 URL からカスタム壁紙とブランディングを取得するための API

外部 URL から画像をダウンロードし、ブランド化イメージまたはカスタムの壁紙として有効にする部屋のデバイスを許可する xAPI コマンド パスが追加されました。このコマンドパスを使用すると、画像をアップロードせずに画像の配布を自動化しやすく、デバイスにダウンロードを依頼することができます。デバイスはネットワークから画像 URL に接続でき、解像度の推奨事項は変更されていません。その他の推奨事項は、パーソナライズの下の Web インターフェイスで見つけることができます。

サポートされる画像形式は .png および .jpg です。

外部 URL からブランド化とカスタムの壁紙を取得するための新しい xAPI コマンドを参照するには、管理者ガイドを参照してください。

注：WebEXボードはカスタム壁紙をサポートしていません。

超音波設定の変更

すべての製品で、[オーディオ超音波の最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定のデフォルト値が同じになりました。ボリューム範囲も異なる製品間で整列しますが、デバイスから再生されるサウンドレベルに変更を加えたわけではありません。

CE9.8.3 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - CVE-2020-3143 に関連するセキュリティ問題の解決
 - CSCvs67680
 - CSCvs45241

詳細については、PSIRT セキュリティ アドバイザリを参照してください。

- <https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-telepresence-path-tr-wdrnYEZZ>

以前の影響を受けたソフトウェアのバージョンが削除され、ダウンロードできなくなりました。

- <https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf>
- HTTP レート制限が追加されました。詳細については、このドキュメントの「既知の制限事項とアドバイザリ」のセクションを参照してください。

CE9.8.2 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - Web インターフェイス (CSCvr90764) を介して Cisco Webex Room シリーズ デバイスに大きな警官ファイルをアップロードする際の問題を修正します。

CE9.8.1 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.8.0 の新機能

- Cisco Webex Board オンプレミス展開のサポート
 - 無限ホワイトボード
 - 電子メールにホワイトボードを保存するための SMTP サポート
 - Touch 10 のサポート
- 事前インストールされている認証局 (CA) のリスト
- HttpClient が GET/DELETE および PATCH 要求をサポートするようになりました。
 - 応答の本文とヘッダーの追加されたサポート
 - 次に、ルート認証局の事前インストールリストを使用して、リモートサーバ証明書の検証を試行します。
- 会議室デバイス UI からの CMS 会議への参加者の追加
- WebSocket 経由の xAPI
 - 認証プロトコルヘッダーを使用した認証のサポートが追加されました。
- Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の USB ヘッドセットのサポート
- Webex チームへのオンボードデバイスの API
 - Web インターフェイスでの Webex Teams へのデバイス登録のサポート
- Room Kit Mini を使用した USB 体験の改善
- CUCM 12.5 SU1 からの製品固有の設定のサポート
- その他の変更

CE9.8.0 の新機能の説明

Cisco Webex Board オンプレミス展開のサポート

CE9.8.0 リリースでは、このドキュメントで説明されている他の会議室デバイスと同じ方法で、Cisco Webex Board (55/55S、70/70S、85S) を CUCM、TMS、または VCS/Expressway に登録できるようになりました。Cisco Webex Board はスタンドアロン H323/SIP デバイスとして導入することもできます。また、デバイスがどこにも登録されていない場合でも、ローカルのホワイトボードとして機能します。

重要： Cisco Webex Board でオンプレミス展開をサポートするには、CE9.8.0 以降の特定のバージョン (cisco.com からダウンロード) がデバイスにインストールされている必要があります。Cisco TAC は、サポートされているソフトウェアのバージョンと有効なサービス契約がある場合にのみ、オンプレミス展開で Webex Board のサポートを提供します。注：オンプレミスの登録済み Webex Board には、Webex Teams クライアントとのペアリングや Webex Teams スペースのオープンなど、Webex の登録と同じ機能がありません。

Webex からオンプレミス展開への切り替え

Cisco.com に移動し、Cisco Webex Board モデルでサポートされているソフトウェアのバージョンをダウンロードします。最新バージョンが常に推奨されます。

デバイスがすでに Webex に登録されている場合は、最初に Cisco Webex Board を初期設定にリセットする必要があります。これは、Cisco Webex Control Hub またはデバイス自体を介してアクセスすることによって、デバイスの Web インターフェイスから行うことができます。デバイスの正面に立って、タッチスクリーンに 1 本の指を置き、ホームボタンを 3 回タップします。[テクニカルサポート (Technical support)] 画面で、左下隅にある [工場出荷時の初期設定へのリセット (Factory Reset)] ボタンを選択します。

デバイスがリセットされると、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。次に、<https://<device-IP>> の Web インターフェイスにアクセスします (<device-IP> をデバイスの実際の IP アドレスに置き換えます)。ユーザー名「admin」を使用してログインします。デフォルトでは、パスワードは空白になっています。

[メンテナンス (Maintenance)] → [ソフトウェアアップグレード (Software Upgrade)] に移動して、以前にダウンロードしたサポート対象ソフトウェアパッケージをアップロードします。アップグレード後に [ようこそ (Welcome)] 画面が再び表示されたら、画面の指示に従ってオンプレミス環境にデバイスを登録するか、または環境内の他のデバイスを登録するのと同じ手順を実行します。

CUCM または新しいバージョンの TMS に新しいデバイスパックが必要になる場合があることに注意してください。Cisco Webex Board をサポートしているバージョンについては、次の表を参照してください。

プロビジョニング	最小バージョン	注意
CUCM	10.5 以降	現在実行中のバージョンで Cisco Webex Board のサポートを提供する CUCM デバイスパックが必要になる場合があります。
VCS/Expressway	X8.6 以降	
TMS	15.9 以降	

Cisco Webex Board は、一部の例外を除き、コラボレーションエンドポイントソフトウェア 9.8.0 をサポートしている他のデバイスですすでに利用可能な機能のほとんどをサポートしています。一部の機能は、Touch 10 を Cisco Webex Board にペアリングする場合にのみ使用できます。非常に関連性が高いと判断された機能のリストについては、以下のマトリックスを参照してください。

UI 機能	オンスクリーンコントロール	Touch 10	未サポート
ローカルマルチサイト (参加者の追加)		x*	
保留/保留解除		x	
通話を転送する		x	
共有ライン アピアランス		x	
ローカルレイアウトの選択			x
CMS レイアウトの選択		x	
ISDN ダイヤリング (ISDN リンク)		x	
ローカルお気に入りの保存/お気に入りの編集 (電話帳)		x	
お気に入りのリスト/最近のコール	x (検索のみ)	x	
サイレント		x	
呼出音 (3 つの呼出音)	X	x	
室内制御	x**	x	
リモートプレゼンテーションの最小化			x
コール中のプレゼンテーションのローカルプレビュー			x
プレゼンテーションのリモート共有	X	x	
アドホック会議		x	

遠端カメラ制御		x	
セルフビュー	x***	x	
カスタム壁紙			x
スリープ状態のカスタムテキスト			x
ブランディング	x	x	
拡張入力ソース (仮想ソース)			x
USB 入力デバイス (キーボード)			x
ローカルのホワイトボードとコメント (関連付け先コール)	x		
関連付け先のホワイトボード			x****
無限ホワイトボードキャンバス	x		
ホワイトボードを電子メールに保存する (SMTP 設定が必要)	x		
基本的なコール機能	x		
高度なコール機能		x	

* マルチサイトオプションキーがインストールされている必要があります。Webex Board は、最大 3 つのリモート参加者をサポートします。

** 室内制御パネルは、Touch 10 が接続されていない場合にのみ、Cisco Webex Board 画面に表示されます。

*** 画面上の UI を使用してセルフビューを移動できますが、Touch 10 からのセルフビューのみを有効にすることができます。

**** 現在、通話中にホワイトボードを実行することはできません。

サポートされているオプションキー (別途購入可能) は次のとおりです。

MultiSite : デバイスが最大 3 つのリモート参加者とのコールをホストできるようにします。その上の追加の音声参加者がサポートされていないことに注意してください。

RemoteMonitoring : 管理者が入力デバイスのスナップショットをリモートでキャプチャできるようにします。

UI と設定の上に記載されているもの以外は、デバイスが Webex に登録されている場合と同じです。Cisco Webex Board はまた、マクロ、バックアップおよび復元 (プロビジョニング)、xAPI アクセス (CLI 経由の CLI、XMLAPI、WebSocket、および Mic ルーティングを使用した USB A シリアルへのコンソールアクセス、および Cisco 近接) もサポートしています。

無限ホワイトボード

これは、大規模なホワイトボードキャンバスを可能にする機能です。ホワイトボードに 2 つ以上の指を置くことで、キャンバスを拡大してより大きな描画領域を得ることができます。「ピンチとズーム」を使用して、大きなキャンバス (canvas) を移動することができます。

ホワイトボードを電子メールに格納する

Cisco Webex Board はオンプレミスで登録されているため、ホワイトボードを Webex Teams スペースに保存する利点はありません。ホワイトボードを保存するには、デバイスを SMTP サーバに接続する必要があります。これは、企業独自の SMTP サービス、または Gmail や Office365 などのクラウドサービスである可能性があります。

Cisco Webex Board Web インターフェイス ([設定 (Setup)] → [電子メール設定 (Email Settings)]) で [電子メール設定 (Email Settings)] ウィザードを実行するか、xAPI を使用して設定してください。カスタム SMTP サービスを使用している場合は、有効な CA をアップロードする必要がありますことに注意してください。Gmail などのクラウドサービスは、証明書をアップロードする必要がなく、機能する必要があります。

Touch 10 のサポート

1 つの Touch 10 を Cisco Webex Board にリモートでペアリングできます。ネットワークペアリングのみがサポートされています。

Cisco Webex Board に Touch 10 を接続することにより、デバイスの機能をより詳細に制御できます。Touch 10 なしで Webex Board を使用すると、制限付きのコール制御および UI 機能が提供されます。上記の表を参照してください。

既知の問題

Cisco Webex Board 70S の CE9.8.0 では、タッチ感度の損失についていくつかの観察がありました。これは特に、スタイラスを使用する場合に認識できます。Webex Board では描画が困難です。この問題が発生した場合は、デバイスを再起動してください。この問題はめったに発生しません。これは、8 月上旬の CE9.8.1 で解決されます。バグリファレンス : CSCvq37645

事前インストールされている認証局 (CA) のリスト

Cisco Webex Board ホワイトボードを保存するために SMTP を設定する場合、または要求を送信するために httpclient を使用する場合、デバイスは事前にインストールされた認証局のリストを使用してリモートサーバ証明書の検証を試行します。このリストは、通常のブラウザで確認できるものと似ています。

このリストは、現在 SMTP 設定と HttpClient でのみ使用されています。その他のサービスまたはカスタム認証局については、これらを手動でコーデックにアップロードすることによって、通常の手順に従ってください。

HttpClient の GET/DELETE および PATCH 要求のサポート

CE9.8.0 には、既存の HttpClient 機能の更新が追加されており、さらに柔軟性が向上しています。GET/DELETE および PATCH 要求のサポートが追加されました。HttpClient は、事前にインストールされた認証局のリストを使用して、リモートサーバの証明書を自動的に検証しようとします。

応答の本文とヘッダーの追加されたサポート

新しい要求方式を追加するだけでなく、応答ヘッダーと本文がサポートされるようになりました。デバイスは、マクロフレームワークを介してアクセス可能な外部サーバーに対して要求を発行するときに、最大 100KB (100,000 バイト) の応答データを受信できます。応答データは要求タイプに関係なく受信されますが、コンテンツ長がサポートされているデータ量を超えている場合はエラーが表示されます。

デバイス UI からの CMS 会議への参加者の追加

この機能を使用すると、進行中の CMS 会議に参加者をシームレスに追加できます。CMS 会議コール中に新しい参加者を追加すると、デバイスはアクティブコントロール メカニズムを使用して参加者にダイヤルするように CMS に指示します。CMS は、追加する参加者（ルームデバイスの UI の [アドレス (address)] フィールドに入力した URI) に直接ダイヤルします。参加者がコールを受け入れると、参加者は同じ CMS 会議に追加されます。アクティブコントロールをデバイスで有効にする必要があります。

マルチポイントモードの設定に関係なく、参加者は CMS 会議に追加され、以前のリリースと同じようにカスケード会議が作成されることはありません。デフォルトでは、この機能はオンです。

この機能を動作させるには、CMS がバージョン 2.4 以上である必要があります。CMS は SIP でのみ動作し、アクティブコントロールは H.323 では使用できません。

注：追加ボタンの動作は、CE9.8.0/CE9.8.1 では以前のバージョンから少し変更されました。追加ボタンがさまざまな会議シナリオでどのように機能するかの概要については、管理者ガイドを参照してください。

	マルチポイントモード		
シナリオ	自動	CUCMMRGL	マルチサイト
追加をサポートする CMS 会議のコール	追加ボタンが表示され、参加者が CMS 会議に追加されます	協議追加 コンサルティング追加を実行すると、このシナリオではカスケード会議が作成されます。	追加ボタンは表示されません (CE9.8.x)、 CE9.9.0から追加ボタンが再び表示されます。
追加をサポートしていない CMS 会議のコール	追加ボタンは表示されません	協議追加 コンサルティング追加を実行すると、このシナリオではカスケード会議が作成されます。	追加ボタンは表示されません
別のエンドポイントの 1:1 コール	追加ボタンは表示されません	協議追加 通話は、3 人の参加者との会議にエスカレートされます。同じ会議に参加者を追加できます。	追加ボタンが表示され、エンドポイント自体がホストする通話に、デバイスの制限に従って参加者を追加できます。

CE9.8.1にアップグレードすると、最新のデバイスパックがインストールされていない限り、SX10 と DX80 ではマルチポイント モードは自動的に [自動 (Auto)] に変わります。デバイス パックがない場合、UCM はこの設定を認識せず、デバイスはデフォルト値 ([自動 (Auto)]) に従います。以前にこの機能が使用可能だったシナリオでは、予期しない追加ボタンの不足が発生する可能性があります。この場合は、設定を変更するか、最新のデバイス パックで UCM を更新してください。

WebSocket 経由の xAPI : 認証プロトコルヘッダーを使用した認証

認証プロトコルヘッダーを使用した認証のサポートが追加されました。完全なヘッダーは次のようになります。

Sec-WebSocket-Protocol: auth-YWRtaW46cGFzc3dvcmQ

「YWRtaW46cGFzc3dvcmQ」は、admin の base64 表現で、パスワードです。ブラウザベースのクライアントはヘッダーを直接制御しないため、認証プロトコルヘッダーを使用することで、ブラウザから Javascript を使用して直接デバイスに対して認証することができます。

Javascript (WebSocket モジュール) の例 :

```
webSocket = new WebSocket(webSocketURL, "auth-" + btoa(username + ":" + password).replace(/[\/+]=]/g, function(c){return {'+':'-','/':'_','=':''}[c]}));
```

Base64 でエンコードされたユーザ名とパスワードは「URL safe」である必要があることに注意してください。そのため、文字置換機能が使用されます。

Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の USB ヘッドセットのサポート

DX シリーズの場合と同じ USB ヘッドセットサポートが、Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 で有効になりました。これは、USB ヘッドセットまたは USB Bluetooth ドングルをこれらのデバイスの USB A 入力に接続できることを意味します。上記のデバイスと連携して動作するテスト済みのヘッドセットとハンドセットのリストについては、以下のリンクを参照してください。

<https://help.webex.com/nkiifbo/>

Webex デバイスアクティベーションに使用する xCommand

以前のバージョンでは、Webex クラウドサービスにアクティブ化するには、デバイスの前に配置する必要がありました。新しい xCommand では、プログラム/リモート Webex の有効化が可能です。複数のデバイスがすでにオンプレミスで登録されている場合は、この API を使用してアクティベーションコードを発行できます。デバイスは自動的に Webex に切り替わります。

```
xCommand Webex Registration Start
  ActivationCode(r): <S: 16, 19>
  SecurityAction(r): <Harden, NoAction>
```

```
xCommand Webex Registration Start ActivationCode: 1234-1234-1234-1234
SecurityAction: Harden
```

```
xCommand Webex Registration Start ActivationCode: 1234123412341234
SecurityAction: Harden
```

注 : SecurityAction が「Harden」に設定されている場合、デバイスは Webex に登録したときと同様にロックダウンし、その他の設定に伴ってカスタマイズを削除します。NoAction を指定すると、ユーザが所有しているカスタマイズ (室内制御とマクロ) が保持され、デバイス上のローカルアカウントは削除されません。

このコマンドが工場出荷時リセット状態から発行された場合、デバイスが最初に設定されていないため、[ようこそ (Welcome)] 画面は削除されません。ただし、デバイスがすでにアクティブ化されているため、「アクティベーション手順」はスキップされ、デバイスのタイムゾーンの設定およびその他の設定手順に進みます。

Web インターフェイスを介した Webex に対するデバイスアクティベーションのサポート

デバイスがどこにも登録されていない場合、web インターフェイスにログインすると、ランディングページでデバイスを Webex に登録するためのオプションが表示されます。アクティベーションコードを入力してデバイスを登録するオプションのみが表示されます。デバイスを登録するために Web インターフェイスを使用する場合は、デフォルトで「Harden」が使用されることに注意してください。デバイスが正常にアクティブ化されると、現在の Web セッションが終了します。コントロールハブを介してアクティベーションを実行する必要がある場合は、Web インターフェイスにアクセスする必要があります。

H323

Status	Inactive
Gatekeeper	-
Number	-
ID	-

SIP

Status	Inactive
Proxy	-

This video system is not registered

In order to place calls with this video system, it needs to be registered to a call service.

[Click here to register to Webex](#)

Room Kit Mini を使用した USB 体験の改善

Room Kit Mini は、USB を介して接続されている間、通常どおりに使用できるようになりました。これは、コンピュータに接続されているときに、常に「応答不可」モードにならないことを意味します。Web カメラとしての使用（デスクトップ アプリケーションでカメラを起動）またはスピーカーとしての使用（デスクトップ アプリケーションから音声を再生）を開始するとすぐに、デバイスはすでにコール中でない限り、以前のソフトウェア バージョンと同様に「応答不可」モードになります。これはデフォルトの動作であり、この設定に関連する設定は削除されています。

CUCM 12.5 SU1 からの製品固有の設定のサポート

CE9.8.0 を実行しているデバイスは、バージョン 12.5 SU1 以降の CUCM に登録されている場合、広範な製品固有の設定でプロビジョニングされるようになりました。詳細については、以下のリリースノートを参照してください。

https://www.cisco.com/c/ja_ip/td/docs/voice_ip_comm/cucm/rel_notes/12_5_1/SU1/cucm_b_release-notes-for-cucm-imp-1251su1/cucm_b_release-notes-for-cucm-imp-1251su1_chapter_01.html#reference_7E7941433CC7035A179DD556C1F2E9E9

その他の変更

アップロードされた証明書の許容有効期限を短縮しました。証明書の有効期間が 10 年を超える場合、証明書をアップロードすることはできません。この変更は、10 年以上の有効期間を持つ証明書を許可しない Cisco PSB（製品セキュリティ ベースライン）要件を確認するために行われました。

CE9.7.2 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.7.1 の新機能

- WebSocket 経由の xAPI (XoWS)
- プライバシーモード：通話のビデオを無効または有効にする
- Room 分析：周囲雑音レポート
- Room Kit Mini：USB カメラとして使用されている場合の1080p ビデオのサポート
- OSD のお気に入りの編集
- 複数の Sony カメラ (SRG/EVI) の接続のサポート
- オーディオコンソール：グラフィカルなイコライザ
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.7.1 への変換ソフトウェアのリリース
(2019 年 4 月 25 日)

CE9.7.1 の新機能の説明

WebSocket 経由の xAPI (XoWS)

WebSocket を使用した xAPI へのアクセスのサポートが追加されました。WebSocket は、クライアントとサーバ間の双方向の永続的な接続であり、情報がすべての要求に対して新しい TCP 接続または認証を開始するオーバーヘッドなしで、情報が流れてきます。

CE9.7.1 から、ルームデバイスは、データ転送として JSON RPC 2.0 を使用して xAPI に直接アクセスする WebSocket サーバとして機能します。ルームデバイスへの WebSocket 接続を確立したら、WebSocket 接続を介して JSON ドキュメントを送信することにより、フィードバックの登録、設定の実行、コマンドの実行、またはデバイスのステータスの取得を行うことができます。クライアントは、たとえば、登録されている場合は、フィードバックイベントなどの要求されていないデータもサーバから受信します。

この機能は主にターゲットとなるインテグレーターであり、たとえば、SSH や serial シリアルなどの xAPI にアクセスするための最新の方法です。

WebSocket を介して xAPI を開始する方法の詳細については、次で入手できる『WebSocket の公式 xAPI』を参照してください。

https://www.cisco.com/c/ja_ip/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/products-command-reference-list.html

プライバシーモード：通話のビデオを無効または有効にする

この機能により、Touch 10 またはオンスクリーン UI に新しいボタンが追加され、通話中にビデオを無効にすることができます。遠端の参加者には、デバイスでビデオが無効になっていることを示すブレースホルダ画像のみが表示されます。ローカルエンドでは、現在ビデオを送信していないことを示すアイコンが画面に表示されます。

Room 分析 : 周囲雑音レポート

周囲雑音レポート、デバイスのマイクを使用して、周囲/バックグラウンドノイズを推定します。値は、周囲雑音レベル (dBa) の重み付けされたデシベル値です。値はキャリブレーション音圧レベル (SPL) ではないため、室内の周囲の音響レベルの相対値として評価する必要があることに注意してください。

この機能はデフォルトで無効になっており、xAPI で周囲雑音レポートを On に設定することで有効にできます。 *xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode: On*

推定値は、xAPI で *xStatus RoomAnalytics AmbientNoise Level* コマンドを使用して取得できます。

Room Kit Mini : USB カメラとして使用されている 1080p ビデオのサポート

以前のバージョンでは、720p のビデオ解像度のみがサポートされていました。Room Kit Mini が USB カメラとして使用されている場合、1080p 解像度は CE9.7.1 からサポートされます。

OSD でのお気に入りの編集 (DX70 および DX80)

この機能を使用すると、CE9.6.1 の Touch10 で導入されたのと同じ方法で、ユーザが DX70 および DX80 の OSD インターフェイスから自分のローカルお気に入りの連絡先情報を編集できます。この機能は、TRC6 リモートコントロールを使用する場合は使用できないことに注意してください。

複数の Sony カメラ (SRG/EVI) の接続のサポート

複数の Sony SRG/EVI カメラを、カメラをサポートしているルームデバイスに接続します。カメラの数は、カメラを接続しているデバイスによって制限されます。たとえば、Cisco Webex Room Kit Pro は最大 7 台の接続されたカメラをサポートし、Cisco Webex Room Kit Plus は最大 3 台の接続されたカメラをサポートします。これらのカメラのサポートは CE9.4.0 に追加されました。詳細については、このドキュメントの「9.4.0」の項を参照してください。

オーディオコンソール：グラフィカルイコライザ

オーディオイコライザは、以前のソフトウェアバージョンでは、コマンドラインインターフェイス (xAPI) のみを使用してすでに使用可能です。CE9.7.1 から、使用と変更を簡素化するために、オーディオコンソールにグラフィカルなイコライザが追加されました。グラフィカルなイコライザセットアップは、ルームデバイスの Web インターフェイスのオーディオコンソールアプリで使用できます。

最大 8 つの異なるイコライザ設定を作成し、それらを出力またはマイクの入力に接続することができます。

たとえば、マイク入力の音声体験を調整する場合や、出力機器が低音または高音を大量に表現している場合に、イコライザが使用されます。グラフィックイコライザを使用すると、のアナログ回線での全体的な音声体験をユーザが簡単にカスタマイズできるようになります。

注：アナログ入力（マイクまたは出力）には、イコライザのみを取り付けることができます。

CE9.6.4 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.6.3 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.6.2 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.6.1 の新機能

- Cisco Webex Room Kit Mini のサポート
- xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT
- 室内制御：サードパーティ製 USB 入力デバイス
- デフォルトの GUI パネルボタンを非表示にする
- Touch 10 からお気に入りを直接編集する
- 追加のルームデバイスでの HDCP のサポート
- オーディオコンソールアップデート
- MRA シナリオでの ICE のサポート
- アクティブ コントロール：CMS ミーティングで UI から録音を開始する機能
- その他の変更
 - プレゼンテーション帯域幅の優先順位付けの設定が追加されました。
 - スリープ状態のブランディングで true color を有効にする機能

CE9.6.1 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Mini のサポート

Cisco Webex Room Kit Mini は、Webex Teams クラウドサービスまたは既存のオンプレミスインフラストラクチャを使用するために登録できる Cisco Webex Room シリーズの新しいルームデバイスです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

接続されたコンピュータで、1 つの USB ケーブルでビデオ、マイク、およびスピーカーを使用可能

Cisco Webex Room Kit Mini ハードウェアおよび技術仕様の詳細については、[製品データシート](#)を参照してください。

ソフトウェアのアップグレード方法については、このドキュメントの「ソフトウェア アップグレード」以降の「既知の制限事項とアドバイザリ」セクションを参照してください。

xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT

xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT 要求のサポートが追加されました。この機能を使用すると、発信 HTTP POST を送信するか、またはカスタムペイロードを使用してオンデマンドの HTTP サーバに PUT することができます。

この統合機能は、データ収集の観点からより柔軟性を高めたり、統合セットアップの一部としてサードパーティ製デバイスを有効にしたりするように設計されています。HTTP POST または PUT 要求を既存のサービスに適応させます。

```
xConfiguration HttpClient Mode: Off / On
```

HTTP 要求は xAPI を使用して作成され、最大 10 のヘッダーをサポートし、マルチライン入力を使用してペイロードを構築できます。xAPI コマンドは、マクロとともに使用して、ダイナミックおよびイベントベースの要求を作成することもできます。

管理者は、xAPI を通じて設定可能な許可リストを使用して、デバイスが要求の送信を許可されるホスト (IP または FQDN) を制御することもできます。

この機能では、アウトバウンド HTTP PUT または POST を送信できます。GET 要求または着信 POST または PUT 応答ペイロードの処理はサポートされていませんが、配信を確認するための要求のステータスコードを確認することができます。

証明書の検証は、すべての発信 HTTPS 要求でデフォルトで実行されます。このためには、手動で CA 証明書をアップロードしてリモートホストを確認する必要があります。デフォルトでは、CA 証明書の標準リストは存在しません。証明書検証バイパスを有効にすることができます（非推奨）。

```
xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS: False / True
```

すべての要求はデフォルトで検証されますが、上記の設定が有効になっている場合は、特定の要求の検証を明示的に省略できます。

開発者向けの例については次のリンクを参照してください。

<https://developer.cisco.com/site/roomdevices/>

```
xCommand HttpClient Post Header: "Content-Type: application/json" Url: https://host  
AllowInsecureHTTPS: True
```

既知の制限事項については、この文書の「制限事項」と勧告のセクションを参照してください。

室内制御：サードパーティ製 USB 入力デバイス

Usb Bluetooth ドングルに付属している usb キーボードやワイヤレスメディアリモコンなどのサードパーティ製 usb 入力デバイスを接続できるようになりました。接続されたデバイスは、コーデックによって汎用キーボードとして認識される必要があります。USB マウスなどのキーボード以外のデバイスを接続することはサポートされていません。

デフォルトでは、USB 入力デバイスを検出しないようにデバイスが設定されています。Web インターフェイスまたは xAPI を使用してを有効にします。

```
xConfiguration Peripherals InputDevice Mode: Off / On
```

この機能が有効になり、USB 入力デバイスが接続されると、各キーを押すと、どのボタンが押された

```
*e UserInterface InputDevice Key Action Key: KEY_0
*e UserInterface InputDevice Key Action Code: 24
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: Pressed
** end

*e UserInterface InputDevice Key Action Key: KEY_0
*e UserInterface InputDevice Key Action Code: 24
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: Released
** end
```

か、リリースされたかについて、xAPI でイベントが生成されます。生成されたイベントに基づいて、Touch 10 パネルの室内制御設計と同じ方法でアクションをトリガーします。たとえば、接続されたキーボードで文字「O」を押すと、次のイベントが生成されます。

この機能は、マクロまたはサードパーティ製の制御システムと組み合わせて使用するよう設計されています。

Cisco Webex Room シリーズデバイス、DX70、および DX80 でのみサポートされています。

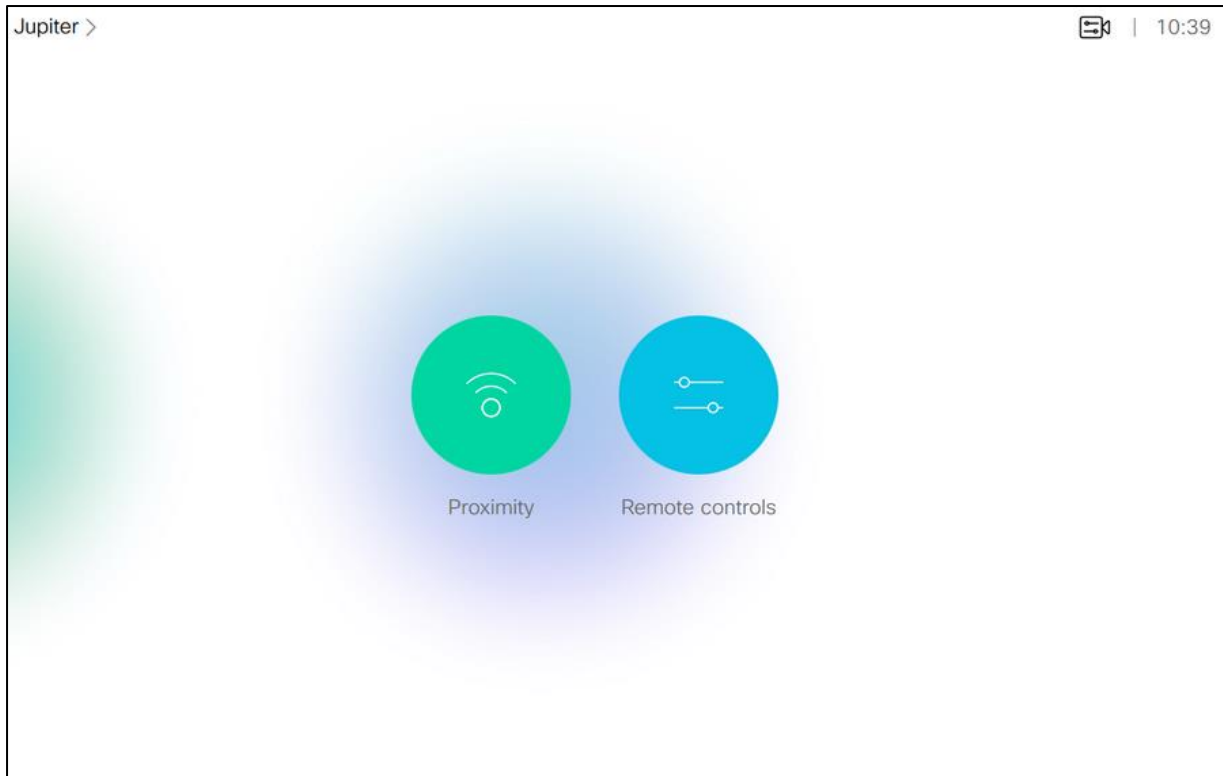
開発者向けの例については次のリンクを参照してください。

<https://developer.cisco.com/site/roomdevices/>

デフォルトの GUI パネルボタンを非表示にする

CE9.6.1 では、デフォルトの UI ボタンをカスタマイズできます。デフォルトのコール、共有、またはすべてのボタンを一度に非表示にします（ミーティングとメッセージを含む）。すべてのデフォルトボタンが非表示になっている Touch 10 ビューの例については、以下を参照してください。室内制御ボタンなどのカスタムボタンは非表示になっていることに注意してください。

```
xConfiguration UserInterface Features HideAll: False / True
```



デフォルトのボタンを非表示にしても、共有またはコール機能は削除されません。近接クライアントをデバイスにペアリングしたり、同等の API コマンドを実行したりすると、コンテンツを共有したり、コールを発信したりできます。

コール、共有、通話中の制御、および [通話の終了 (End Call)] ボタンのみを非表示にすることができます。ミーティングやメッセージ（ボイスメール）などのプロビジョニングされた機能に関連する他のボタンを非表示にするには、**すべてのボタンを非表示にするか**、これらの機能をデバイスにプロビジョニングしないようにする必要があります。室内制御のボタンは、室内制御エディタを使用して削除されます。

室内制御パネルを追加せずにすべてのボタンを非表示にすると、ユーザにはボタンを使用せずに空白のユーザインターフェイスが表示されます。

現在、[設定 (settings)] メニューを非表示にすることはできません。

注：室内制御ボタンの順序は並べ替えることができますが、デフォルトのパネルボタンにはできません。

Touch 10 からお気に入りを直接編集する

お気に入りのリストで連絡先を選択すると、[その他 (More)] ボタンが表示されます。このボタンを押すと、連絡先エントリを編集するためのオプションが表示されます。連絡先のビデオアドレスと名前を変更できます。以前のバージョンでは、お気に入りのエントリはコーデックの Web インターフェイスからしか編集できませんでした。

追加のルームデバイスでの HDCP のサポート

Room 55 はすでに HDCP をサポートしています。CE9.6.1 は追加のデバイスに HDCP サポートを追加しました。次の表を参照してください。

デバイス	HDCP のサポート	I/O*	HDCP バージョン
Cisco Webex Room 55	あり	入力 3 出力 1	1.4
Cisco Webex Room 55 Dual	あり	入力 2 出力 1	1.4
Cisco Webex Room 70	あり	入力 2 出力 1	1.4
Cisco Webex Room 70 G2	あり	入力 5 出力 1 および 2	1.4
Cisco Webex Room Kit Pro (Codec Pro)	あり	入力 5 出力 1 および 2	1.4
Cisco Webex Room Kit Plus (コーデック Plus)	あり	入力 2 出力 1	1.4
Cisco Webex Room Kit	×	なし	なし

* ここでの入力番号は、HDCP を設定できる xAPI 入力番号を指します。物理入力コネクタ番号は xAPI 入力番号とは異なる場合があります。

出力に接続されている画面が HDCP に準拠しており、同じ制限が適用されている必要があります。

- コール中の HDCP 対応入力からコンテンツを共有することはできません。これは、接続しているもの (PC であっても) に関係ありません。これは、メインビデオまたはコンテンツストリームのソース合成 HDCP 対応入力にも適用されます。これにより、ブラックフレームになります。
- 1 つの出力のみ HDCP をサポートしているデュアルスクリーンデバイスで HDCP 対応の入力を使用してコンテンツを共有する場合は、1 画面上のコンテンツのみを表示できます。

詳細については、既知の制限のセクションを参照してください。

オーディオコンソールアップデート

オーディオコンソールは、プレビュー機能として CE9.5.0 で導入され、CE9.6.1 から完全にサポートされるようになりました。利便性を高めるためにいくつかの更新が適用されています。

重要な変更：

- **警告**：CE9.6.1 にアップグレードする前に、オーディオコンソールの設定をメモしてください。これは、CE9.5.x から CE9.6.1 へのアップグレード時にデフォルトにリセットされるためです。CE9.5.x でオーディオコンソールを使用していない場合は、この警告を無視できます。
- オーディオコンソールはデフォルトで無効になっており、有効にする必要があります。アクセスしてこれを有効にする
- デフォルトでは、オーディオコンソールは自動セットアップであり、コーデックによって最適なオーディオレイアウトが決定されます（デフォルト）。オーディオコンソールを誤って設定した場合は、オーディオコンソールで [自動 (Switch to Automatic)] をクリックすることにより、自動セットアップを再び有効にしてデフォルトのオーディオレイアウトに戻すことができます。

詳細の変更：

- 接続の取得と削除を編集するための新しい UI
 - [接続 (Connection)] リンクを右クリックして、ゲインを編集するか、リンクを削除します。
- ドラッグアンドドロップの改善
 - グループ全体のコネクタをドロップできるようになりました。ドロップゾーンは、ドラッグ中や接続リンクをドロップできるときに明確に示されます。
- リモートグループのサポート
 - 「TC-コンソール」と合わせて、デバイスがアクティブにコール中になるまで、リモートグループとの接続を設定することはできません。
- スクロール動作の改善
 - サイドバーは、中央のエリアから独立してスクロールできるようになりました。これにより、オーディオコンソールがより小さい画面で使用しやすくなります。

不具合

- グループモードが [直接 (Direct)] に設定されている場合は、エコーのキャンセルとノイズリダクションを無効にします。
- オーディオコンソールタイトル領域の「ベータ」ラベルが削除されました。
- グループとコネクタのミュートと遅延の測定ステータスを表示します。
- 入力または出力コネクタのグループ全体を削除する前に、警告プロンプトを表示する

サポートされているデバイス：Cisco Webex Room Kit Pro、Cisco TelePresence SX80、Cisco TelePresence MX700、MX800(D)、Cisco Webex Room 70G2

MRA シナリオでの ICE のサポート

ICE 設定を UCM 経由でプロビジョニングできる MRA シナリオ で ICE を使用するためのサポートが追加されました。これらの設定を UCM で確認するには、新しいデバイスパックのインストールが必要になることがあります。

アクティブ コントロール : CMS ミーティングで UI から録音を開始する機能

CMS がレコーダーを使用して正しく設定されていて、CMS とルームデバイス間でアクティブコントロールが正常にネゴシエートされている場合は、録音ボタンが UI に表示されます。これにより、CMS ミーティングで録音を開始できます。ルームデバイスでは、アクティブコントロールはデフォルトで有効になっていますが、この問題が発生した場合は、設定が [自動 (Auto)] に設定されていることを確認してください。

その他の変更

- コンテンツチャンネルの帯域幅に優先順位を付けるための設定が追加されました。これは、削除された前の「xConfiguration Conference VideoBandwidth MainChannel Weight」設定に類似しています。新しい構成は「xConfiguration ビデオ プレゼンテーションの優先順位 : 等しいか高 (xConfiguration Video Presentation Priority: Equal or High) 」です。両方の設定の帯域幅の分割については、以下を参照してください。
 - 同等 : 50/50 と以前のリリースと同じ
 - 高 : コンテンツチャンネルを優先する 25/75
 - 問題があるため、この設定は現在、Web インターフェイスを介してのみ設定できます。これは、以降のバージョンで解決されます。
- スリープ状態のブランディングで true color を有効にする機能。これが有効になっている場合、アップロードされたブランドイメージの色に対する視覚的な変更は行われません (スリープ状態のみ)。
 - xConfiguration UserInterface Branding AwakeBranding Colors: Auto or Native

CE9.5.3 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.5.2 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます (CSCvn35929)

CE9.5.1 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.5.0 の新機能

- 機能プレビュー：オーディオコンソール
- プレゼンテーションソースの構成
- Cisco Webex Codec Plus の PresenterTrack サポート
- 新しい会議室モード：教室
- キーボードローカリゼーション（韓国語）
- Cisco TelePresence SX80 および SX20 画面ステータスのモニタリング（CEC）
- Web GUI および CLI のウェルカムバナー
- Spark から Webex への再ブランディング

CE9.5.0 の新機能の説明

機能プレビュー：オーディオ コンソール

Java ベースの CE コンソール アプリケーションは、今後は維持されず、新しい Web アプリケーション（オーディオ コンソール）に置き換えられます。オーディオ コンソールは、既存の CE コンソールに置き換わるもので、Cisco TelePresence SX80 および Cisco Webex Room Kit Pro の Web インターフェイスからは、CE9.5.0 でのみネイティブに使用できます。オーディオ コンソールは、[設定 (Setup)] - [オーディオコンソール (Audio Console)] の下の Web インターフェイスにあります。

オーディオ コンソールは機能プレビューとして CE9.5.0 で提供され、Web アプリケーションでそのようにラベルが付けられています。この理由は、ローカル補強と永続性モデルの設定に関する操作モデルに関するフィードバックが必要なためです。

オーディオコンソールには、ドラッグ アンド ドロップ操作を使用する CE コンソールと同じ方法で、デバイス上の音声ルートを変更するための組み込み UI が用意されています。オーディオ コンソールは設定された設定でマクロを生成します。これは、オーディオ コンソールを使用しているときにマクロを実行する必要があることを意味します。これは、オーディオ コンソール レイアウトを保存すると自動的に有効になります。

既知の制限事項については、この文書の「制限事項」と警告のセクションを参照してください。

オーディオ コンソールの使用を開始する方法の詳細については、『Customization Guide for CE9.5.0 (CE9.5.0 カスタマイズ ガイド)』を参照してください。

Cisco Webex Codec Plus の PresenterTrack サポート

PresenterTrack 機能は、Cisco Webex Codec Plus で使用できるようになりました。この機能には、Codec Plus に接続された Precision 60 カメラが必要で、Web インターフェイスを介して設定されています。設定する手順は、すでにこの機能をサポートしているルームデバイスとは異なります。

PresenterTrack の設定の詳細については、管理者ガイドを参照してください。

プレゼンテーションソースの構成

CE9.2.1 では、メインビデオチャンネルで画像の構成を可能にする機能が導入されました。プレゼンテーションソースの合成を使用すると、プレゼンテーションチャンネルで同じ複合を実行できます。

ソース構成を使用すると、最大で 4 つの入力ソースを 1 つのイメージに構成できます（構成できる入力ソースの数は、コーデックで使用可能な物理入力ソースに応じて変わります）。

次に例を示します。

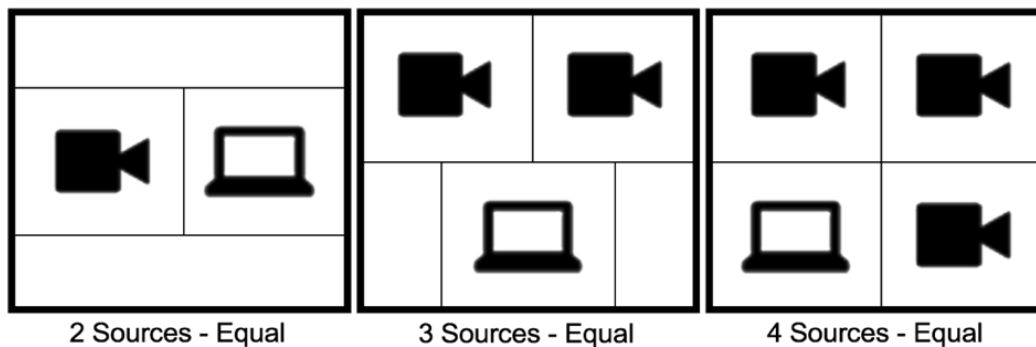
Cisco TelePresence SX80 / Cisco Webex Room Kit Pro : 4

Cisco Webex Room Kit Plus : 3

Cisco Webex Room Kit / Cisco TelePresence SX20 : 2

このイメージは、プレゼンテーション ビデオストリームでコールの遠端に送信されます。ソース構成は xAPI 経由でのみ有効にできるので、室内制御 UI をマクロと組み合わせて作成し、通話中にオンデマンドで構成を制御することをお勧めします。

サポートされているレイアウトについては、以下を参照してください（単一ソース共有は前と同じです）。



上の図は、イメージをどのようにステッチングするかを示しています。フレーム配置は、コマンドで入力ソースを発行した順序によって異なります。

xAPI 操作の詳細については、管理者ガイドを参照してください。

新しい会議室モード：教室

教室は、PresenterTrack と SpeakerTrack を構築する会議室と同様の新しいルームモードです。有効にすると、プレゼンターを撮影するカメラとオーディエンスを撮影するカメラが自動的に切り替わります。役員室 (Briefing Room) とは異なり、特定の数の画面は必要ありません。また、ローカルレイアウトを自動的に切り替えることはありません。

このモードは、Cisco Webex Room Kit Pro、Codec Plus、Room Kit Plus、Room 70、および Cisco Telepresence SX80 でサポートされています。

教室モードは、モニターロールとマクロを使用してカスタマイズできます。マクロと統合機能の詳細については、<https://developer.cisco.com/site/roomdevices/> を参照してください。

キーボードローカリゼーション (韓国語)

いくつかの言語でキーボードのローカライズをサポートします。韓国語を優先言語として選択すると、キーボードがローカライズされます。これは、Touch 10 に対してのみ有効で、リモート UI では有効ではありません。

Cisco TelePresence SX80 および SX20 画面ステータスのモニターリング (CEC)

CEC は SX10 ではデフォルトで無効になっており、Web インターフェイスを介して有効にする必要があります。SX10 には以前のリリースで CEC が実装されていました。これで、CEC の実装は Cisco Webex Room シリーズとのパリティになりました。新しい CEC xCommands を使用できます。詳細については、『CE9.5.0 管理者ガイド』をご覧ください。

Web GUI および CLI のウェルカムバナー

デバイスのコマンドライン インターフェイス (xAPI) と Web GUI でウェルカムバナーを有効にします。デバイスの CLI または Web インターフェイスにログインすると、ウェルカムバナーが表示されます (設定されている場合)。現在、ウェルカムバナーは、次のコマンドを使用して xAPI を介してのみ設定できます。

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set
```

上記はマルチラインコマンドです。複数行コマンドとこの機能の使用方法の詳細については、『CE9.5.0 管理者ガイド』を参照してください。

Spark から Webex へのブランド変更

Spark から Webex 後続への要素のブランド変更。これで、Web インターフェイスの製品 ID がブランド変更されました。

CE9.4.2 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.4.1 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.4.1 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.4.0 の新機能

- Cisco Webex Room Kit Pro のサポート
- GUI での Spark から Webex への再ブランディング
- GUI でのタイムゾーンと言語の設定の再スタイル
- Cisco Webex Room Series およびレガシー MXP デバイス間でのコールで H263 を使用したコンテンツ共有のサポート
- Cisco Webex Room シリーズと同時にペアリングされた Cisco 近接クライアントの最大数
- 管理設定ロックダウン構成の CUCM プロビジョニング
- Sony SRG/EVI-120DH のサポート
- Cisco Webex DX シリーズの GUI での手動バックライト補正の有効化
- デフォルトの HTTP モードを HTTP + HTTPS から HTTPS へ変更

CE9.4.0 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Pro のサポート

Cisco Webex Room Kit Mini は、Webex Teams クラウド サービスまたは既存のオンプレミス インフラストラクチャを使用するように登録できる Cisco Webex Room シリーズの強力な新しいルーム デバイスです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

Cisco Webex Room Kit Pro のハードウェアおよび技術仕様の詳細については、製品データシートが入手可能になったときに参照してください。

ソフトウェアのアップグレード方法については、このドキュメントの「ソフトウェア アップグレード」以降の「既知の制限事項とアドバイザリ」セクションを参照してください。

GUI での Spark から Webex への再ブランディング

Spark と表示された GUI 要素が、Webexに変更されました。GUI アクティベーションフローでは、Cisco Spark ではなく Webex Teams を使用します。従来 Cisco Spark という名称だった Room デバイスは Cisco Webex に変更されました。たとえば、Cisco Spark Room シリーズは Cisco Webex Room シリーズになっています。

GUI でのタイムゾーンと言語の設定の再スタイル

GUI のタイムゾーンと言語の設定に新しいルックがあり、設定フローが更新されました。

Cisco Webex Room Series およびレガシー MXP デバイス間でのコールで H.263 を使用したコンテンツ共有のサポート

Cisco Webex Room シリーズは、バージョン H.263 のサポートがないため、別のコンテンツチャネルでコンテンツを受信したり共有したりできない以前のソフトウェアのバージョンでは制限がありました。Cisco Webex Room Series デバイスから MXP デバイスへコンテンツを共有すると、以前のバージョンではプレゼンテーションがメインビデオストリームに合成されます。

MPX と Cisco Webex ルーム シリーズ間の H.263 コンテンツ共有のサポートが CE9.4.0 で利用可能になりました。テスト済みでサポートされるシナリオについては、以下を参照してください。ここでは、H.263 コンテンツ共有が期待どおりに動作します。

- Cisco Webex Room Series デバイスと MXP デバイス間の H.323 ダイレクト発信 (IP ダイアラ)。
- H323 上の VCS に登録された MXP および SIP または H.323 のいずれかにある同一 VCS 上に登録された Cisco Webex Room シリーズデバイス。VCS 上において H.323 で SIP 発信を行うには、インターワーキング オプション キーが VCS 上にインストールされている必要があることにご留意ください。

他のシナリオには制限事項があることに注意してください。

一般的な SIP またはその他の SIP シナリオでは、Cisco Webex Room Series デバイスが CUCM に登録されているか、またはそれ自体と MXP (IP ダイアラ) 間の直接 SIP コールを実行している場合は、この相互運用性機能の範囲でサポートされているシナリオとは見なされません。

上記の特定のシナリオでは、サポートはレガシー MXP デバイスへのコールに限定されます。たとえば、古い Polycom デバイスなど、コンテンツチャネルでの H.263 プロトコルをサポートしているレガシーサードパーティ製デバイスへのダイヤリングは機能する可能性がありますが、Cisco でサポートされているものとは見なされません。

MPX は、Cisco がいかなる方法でもサポートしなくなったレガシー製品です。このソフトウェア機能は、新しいデバイスが混在している環境で MPX デバイスを使用していて、古いデバイスが段階的にダウンするのを待機している場合に追加されます。

Cisco Webex Room シリーズと同時にペアリングされた Cisco 近接クライアントの最大数

プロキシミティサービスである ContentShare ToClients が無効である場合、Cisco Webex Room Series シリーズデバイスは最大 30 のペアリングクライアントを同時に設定できます。近接サービス「CallControl」と「ContentShare FromClients」を有効にして、ルームデバイスが最大30台のクライアントをペアリングできるようにすることができます。[ContentShare ToClients] が有効になっている場合、クライアントの制限は 7 に減少し、以前のソフトウェア リリースと同じになります。

管理設定ロックダウン構成の CUCM プロビジョニング

CE9.4.0 には、CE9.2.1 で導入された管理設定ロックダウン設定の CUCM プロビジョニングのサポートが追加されました (詳細については、このドキュメントの「CE9.2.1 機能の説明」を参照してください)。[設定 (settings)] メニューは、CUCM を介して一括設定を使用して、すべてのエンドポイントでロックダウンできるようになりました。

この構成に新たなフィールドを公開するには、CUCM にデバイスパッケージが必要となる場合があります。

Sony SRG-120DH および EVI-120DH のサポート

特定の Sony カメラモデル (SRG-120DH/EVI-120DH) のサポートが追加されました。EVI-120DH は、バンドルとして Cisco Webex Codec Plus とのみ一緒に販売されますが、Cisco Webex Room Kit Pro および Cisco TelePresence SX80 などのスタンドアロン Precision 60 カメラをサポートする他のデバイスでも動作します。

サポートされているシナリオ、サポートされていないシナリオの一部については、以下を参照してください。

コーデックカメラの機能	サポートの有無
パン、チルト、およびズーム (PTZ)	あり
プリセット	あり
位置リセットと xCommand camera コントロール	あり
xStatus と特定のカメラの詳細	あり (シリアル番号は表示されません)
PresenterTrack camera として使用	不可
ソフトウェア アップグレード	不可
他のカメラと一緒に使用 (Cisco Webex Quad Camera、Precision 60)	あり
FECC	あり
カメラフリップ (上下逆)	不可
ミラー	あり

カメラを IP 経由でデバイスにペアリングするには、カメラベースの下にある dip スイッチ1が、IP 通信の [オン (On)] に設定されている必要があります。Visca 制御を有効にするには、システム選択を position 7 (カメラ側面にある選択ホイール) に設定する必要があります。カメラをデバイスのローカルスイッチポートの 1 つに接続します (Precision 60 のペアリングと同じ手順)。カメラは自動的にルームデバイスとペアリングする必要があります。必要に応じて、カメラを接続するために、スイッチを接続してルームデバイスのスイッチポートを拡張してください。

注：カメラに付属している IR リモコンを使用しないでください。組み込みのカメラ制御はルームデバイスで使用してください。カメラのリモートコントロールを使用してカメラを制御すると、コーデックがカメラの現在の位置を失うことがあります。カメラのリモートコントロールを使用してカメラをオフにすると、カメラがスタンバイ状態になります。EVI-120DH カメラは、リモートコントロールなしで出荷されます。コーデックは、この状態からカメラを復帰させることができません。

DX シリーズにおける GUI での手動逆光補正の有効化

新しい設定は、バックライト補正を有効または無効にする DX のメインメニューで使用できるようになりました。これは、ユーザの背後の日光やその他の明るい光源を補正するために、センサーの明るさのレベルを上げる（オン）または下げる（オフ）固定設定です。

逆光補正によってセンサーは固定レベルに設定され、逆光に合わせて自動調整されることはありません。

デフォルトの HTTP モードを HTTP + HTTPS から HTTPS へ変更

この変更の詳細については、「このソフトウェアのバージョンの重要な注意事項と警告」の項を参照してください。これにより、ルームを管理するための既存の HTTP 実装がある環境で、工場出荷時の初期状態または工場出荷時状態へのリセットが影響を受ける可能性があります。

CE9.3.3 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.3.2 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみ含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.3.1 の新機能

- これはマイナー リリースで、CSCvj32935 のバグ修正のみ含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.3.0 の新機能

- 設定とカスタム要素のバックアップ/復元
- 室内制御の更新
- ISDN リンクのサポート
- ワンボタン機能 (OBTP)
- SX10 画面ステータスのモニタリング (CEC)
- 発信前のコールレートの調整 (UI)
- 着信音の選択と着信音の音量の調整
- その他の変更
 - 延期されたアップグレードの再開 (UI)
 - 機密情報を非表示にする (UI)
 - アクセシビリティ：着信時のスクリーンの点滅
 - Cisco Webex DX シリーズでのセルフビューのミラー表示

CE9.3.0 の新機能の説明

設定とカスタム要素のバックアップ/復元

CE9.3.0 には、「バックアップと復元」の新しいバージョンと改善されたバージョンが含まれています。以前のバージョンでは、設定ファイルを保存することによって会議室デバイスをバックアップできましたが、ブランディング、マクロ、お気に入り（ローカル電話帳）、サインインバナー、室内制御パネルなどの他の要素を含むことができませんでした。

CE9.3.0 で実装されているソリューションを使用すると、バンドル内のこれらの機能をすべてバックアップおよび復元することができます。システム固有ではないバックアップバンドルをプロビジョニングすることによって、複数のルームデバイスを設定できます。これには、マクロ、ブランディングイメージ、および TMS、CUCM、またはサードパーティ統合を使用した、同じセットアップがあります。

スタートガイド

この UI は、ルームデバイスの Web インターフェイスで [メンテナンス (Maintenance)] → [バックアップと復元 (Backup and Restore)] を選択することで使用できます。デフォルトでは、使用可能なすべての設定済み要素が含まれていますが、バックアップを作成する前に要素をオフにするだけです。このプロセスは、復元に必要なすべての情報とコンテンツを含む zip ファイルを生成します。

複数のルームデバイス間での復元またはプロビジョニング

バックアップファイルは、同じページ（システム固有の設定の場合）を使用して手動で復元するか、または既存の API インターフェイスを使用して UCM、TMS、またはサードパーティ統合による複数のルームデバイスとしてプロビジョニングすることを目的とするテンプレートとして汎用化することができます。

CE9.3.0 では、次のものをバックアップバンドルに含めることができます（設定されている場合）。

- お気に入り
- サインインバナー
- ブランディングイメージ（ハーフスリープの背景、ハーフウェイクアップブランディング、ブランディング）
- マクロ（すべてを選択するか、バックアップする 1 つのマクロを選択します）
- 室内制御設計
- 設定ドキュメント（バックアップする設定を選択）

要件

バックアップバンドルは、UCM TFTP ファイルサービス、TMS、または HTTP か HTTPS 上のルームデバイスからアクセス可能なカスタム Web サーバでホストできます。

注：現時点では、ルームデバイスは Web サービスからのバンドルの取得（GT）のみをサポートしています。

重要：複数のデバイスに分散することを目的としてルームデバイスをバックアップする場合は、設定ドキュメントからすべてのデバイス固有の設定を削除する必要があります。バックアップを作成するのと同じページに、これらの設定を削除できるボタンがあります。デバイス固有の設定（ネットワーク情報を含む）を使用して複数のデバイスにバックアップバンドルをプロビジョニングする場合は、複数の到達不能なデバイスで終了する可能性があります。このようなシナリオを回避するために、UCM を使用したプロビジョニングでは、現在、設定ドキュメントが復元されることはありません。「UCM プロビジョニング」のセクションを参照してください。

TMS プロビジョニング

TMS は、バンドルがホストされている Web サービスからバックアップバンドルを取得するために、ルームデバイスが必要とするコマンドをプロビジョニングできます。次の XML 文字列を含むカスタム コマンドを使用して構成テンプレートを作成することによってこれを行います。

```
<Command><Provisioning><Service><Fetch>
<URL>https://host/backup.zip</URL>
<Checksum>c9d1feb...</Checksum>
<Origin>その他</Origin>
</Fetch></Service></Provisioning></Command>
```

URL の内容を、バックアップバンドルの Web サーバのパスと、この URL にあるバックアップバンドルの sha512 チェックサムに置き換えます。URL は、バックアップバンドルをホストする場所によって異なる場合があることに注意してください。元のフィールドはオプションであり、設定ファイルを復元する必要がある場合はデバイスに通知します。デフォルトは「Other」で設定を復元しますが、「Provisioning」は設定を復元しません。

TMS のすべての新しいバージョンがこれをサポートしているため、このコマンドを発行するための TMS バージョンの要件はありません。不明な点がある場合は、CE9 会議室デバイスの TMS バージョン要件に従ってください。

設定テンプレートがルームデバイスに適用されると、ルームデバイスはバックアップバンドルを自動的にダウンロードして復元します。

UCM カスタマイズプロビジョニング

UCM プロビジョニングには、製品固有の設定レイアウトに一括カスタマイズセクションを追加する新しいデバイステンプレートが必要です。これらのフィールドでは、バックアップバンドルをダウンロードできる場所の URL、ハッシュタイプ (sha512) とハッシュ (チェックサム) をそれぞれ適用します。適用すると、ルームデバイスはバックアップバンドルを一度ダウンロードして復元します。バックアップバンドルを再プロビジョニングするには、デバイスを工場出荷時設定にリセットし、別のチェックサムを使用して新しいバックアップバンドルを再プロビジョニングまたはアップロードするか、UCM に従って設定を適用する必要があります。

UCM は、UCM OS Administration を介してバンドルを TFTP サービスにアップロードすることで、ファイルをホストできます。ファイルは HTTP (<http://ucmhost:6970/path/to/backup.zip>) で有効、UCM 11.5/12.x HTTPS (<https://ucmhost:6971/path/to/backup.zip>) から入手できます。チェックサムは、UCM を介したプロビジョニング時に HTTP か HTTPS に関係なく必要です。

制限事項：システム固有のネットワークおよび登録情報の誤設定シナリオを回避するために、UCM を使用してプロビジョニングすると、configuration.txt は意図的に無視されます（[起源 (Origin)] で [プロビジョニング (Provisioning)] が指定されていない限り、TMS またはサードパーティのプロビジョニングには適用されません。前述の「TMS プロビジョニング」の項を参照してください）。バックアップバンドルの UCM プロビジョニングでは、現在、ブランディング、マクロ、サインインバナー、ローカル電話帳、室内制御設計のみを設定します（バックアップバンドルに含まれている場合）。

チェックサム検証

デバイスは、HTTP でバックアップバンドルをダウンロードするために e コマンドを受信すると、中間者攻撃の発生を回避するために、バックアップバンドルの sha512 チェックサムを要求に含める必要があります。HTTPS を使用する場合、UCM プロビジョニングを除き、チェックサムは必要ありませんが、推奨されます。

このドキュメントの最後には、ファイルの sha512 チェックサムを生成する方法が記載されています。

注：ルームデバイスの Web インターフェイスで [復元 (restore)] セクションを開き、新しく作成したバックアップバンドルを選択すると、選択したファイルの sha512 チェックサムをルームデバイスが生成して表示します。

その他の情報

復元されたバックアップにマクロが含まれている場合は、マクロランタイムが有効に設定され、再起動され、すべてのマクロが自動的にアクティブになります。

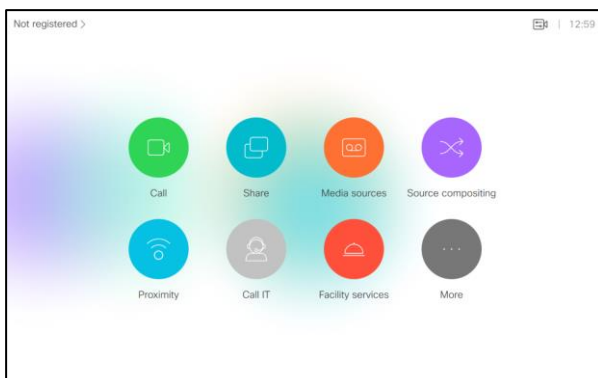
バックアップにブランディングイメージが含まれている場合、壁紙の設定は自動的に [自動 (Auto)] に設定されます。これにより、以前にカスタムの壁紙を使用していた場合に、ブランディングイメージが表示されるようになります。

注：HTTPS が使用され、sha512 チェックサムが指定されていない場合、ルームデバイスは常にサーバ証明書を検証を試みます。

室内制御の更新

主な更新：

- 室内制御エディタおよびUI は、最大 20 台の室内制御パネルをサポートするように更新されました。
- エディタでは、いくつかの新しいアイコン（Cisco Webex、近接、および Webex ロゴ）を使用できます。
- エディタの色の選択から室内制御パネルの色を設定します。
- テキスト要素をダブルクリックして、エディタのデザインでテキストを直接編集します。
- 室内制御 XML ファイルをエディタにドラッグ アンド ドロップできます。
- スタンドアロンのトリガーボタンを作成するためのメカニズム
- グローバルエントリポイント（右上隅）が削除されました



すべてのパネルが [ホーム (home)]/[通話中 (in call)] 画面に表示されるようになりました。パネルの数が UI で使用可能な領域を超えた場合は、[その他... (More...)] ボタンが表示されます。室内制御パネルが上部メニューバーから削除されていることに注意してください。[その他... (More...)] を押して超過しているパ

ネルを含むスクロール可能なペインが表示されます。

「外部発信のみ」、「通話中のみ」、または「常時」の在籍状況の概念は、従来と同様に適用されます。

エディタに必要な数のパネルを作成できますが、優先順位に応じて合計 20 個のみがホーム画面で使用でき、通話中のシナリオでも使用できます。

[トリガー (trigger)] ボタン機能を使用すると、パネルボタンでパネルのデザインを開くか、パネルを開かずにイベントを直接トリガーするかを選択できます。これは、パネルのリンクされた設計を削除し、パネルにエディタ内の一意の ID を付けることによって行われます。その後、パネルボタンを押すと、xAPI でイベントがトリガーされます。

パネルボタンに適用できる室内制御エディタでは、色の選択が可能です。最大 20 個のパネルボタンを作成できるため、ボタンに異なる色を設定すると、識別しやすくなります。色を慎重に選択すると、同じ色が他の機能にも使用されるため、ユーザの混乱を避けることができます。室内制御エディタの色にマウスポインタを合わせると、その色が使用されているテーマが表示されます。

ISDN リンクのサポート

ソフトウェアのバージョン IL1.1.7 では ISDN リンクが、CE9.3.0 をサポートするすべてのビデオ システムでサポートされます。ISDN リンクは以前は CE8 でサポートされており、要件は CE9.3.0 と同じです。

ISDN リンクをペアリングするためには、ルームデバイスで IPv6 を有効にする必要があります。

ワンボタンプッシュ (OBTP) スヌーズ

これで、ミーティングのアラームにより、5分間のスヌーズオプションが提供されるようになりました。このアラームは通常、コール中に、スケジュールされたミーティングが開始間近になると表示されます。会議が終了するまでは、表示されるたびにアラームを 5 分間スヌーズできます。

SX10 画面ステータスのモニタリング (CEC)

CEC は SX10 ではデフォルトで無効になっており、Web インターフェイスを介して有効にする必要があります。SX10 には以前のリリースで CEC が実装されていました。これで、CEC の実装は Cisco Webex Room シリーズとのパリティになりました。新しい CEC xCommands を使用できます。詳細については、SX10 API ガイドを参照してください。

発信前のコールレートの調整

CE9.3.0 から、画面上の UI または Touch 10 からコールを発信するときに、コールレートを調整できます。

着信音の選択と着信音の音量の調整

[設定 (settings)] メニューで、優先呼出音を選択して、システムボリュームとは別に呼出音の音量を調整できるようになりました。

その他の変更

延期されたアップグレードの再開

アップグレードが使用可能であることを示す通知が表示され、6 時間のアップグレードを延期することを選択した場合は、システムの使用が完了した時点でアップグレードを再開できます。手動でアップグレードを再開しない場合、アップグレードは 6 時間後に自動的に開始されます。

UI の機密情報を非表示にする

UserInterface 強力なセキュリティモードを有効にすることで、UI の機密情報を非表示にします。この機能により、システム IP 情報（ルームデバイスの IP アドレス、Touch 10、レジストラ（UCM/VCS）など）が非表示になります。この機能は、管理者パスワードが空白でない場合、[設定 (settings)] メニューがロックされ、ユーザインターフェイスの強力なセキュリティモードが有効になっている場合にのみアクティブになります。

この機能がアクティブになっている間は、システムから Touch 10 を切断しても、システムの IP アドレスが画面に表示されないことに注意してください。

情報を表示するには、管理者パスワードを使用して認証する必要があります。

この機能は、JITC 準拠の一部として追加されますが、システムを完全に強力なセキュリティモードに設定することなく、個別の機能として有効にすることができます。

アクセシビリティ：着信時のスクリーンの点滅

この機能は主に聴覚が不自由なユーザが着信コールに気づきやすくするようにしています。画面と Touch 10 は、約 1 秒ごとに赤/グレーで点滅します。この機能はデフォルトでは無効になっており、ルームデバイスの Web インターフェイスで有効にすることができます。CE9.3.0 をサポートするすべてのデバイスでサポートされます。

Cisco Webex DX シリーズでのセルフビューのミラー表示

Cisco Webex DX80 または DX70 のセルフビューを反転して、ミラー表示にします。この機能は、Android ソフトウェアの Cisco Webex DX シリーズで利用可能になりました。これで、CE9.3.0 から入手できます。この機能はデフォルトで有効になっており、ルームデバイスの Web インターフェイスから無効にすることができます。

CE9.2.6 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このドキュメントの「未解決および解決済みの警告」セクションを参照してください。

CE9.2.5 の新機能

- これはマイナー リリースで、CSCvj32935 のバグ修正のみ含まれます。

CE9.2.4 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このドキュメントの「未解決および解決済みの警告」セクションを参照してください。

CE9.2.3 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。

CE9.2.2 の新機能

- これはマイナー リリースで、バグ修正のみが含まれます。

CE9.2.1 の新機能

- マクロ フレームワーク
- Cisco Webex Room 55 の HDCP サポート
- ブランディングとハーフウェイクのカスタマイズ
- ソース構成
- HTTP プロキシのサポート
- Touch 10 および画面上の UI 機能
 - UI での管理者設定のロックダウン
 - ホワイトボードへのスナップ設定 UI
 - IEEE 802.1x 設定 UI
 - キーボードのローカリゼーション（ロシア語）
 - 右から左に読む言語のサポート（アラビア語およびヘブライ語）
- Cisco Webex Quad Camera がある Cisco TelePresence SX80 のサポート
- xAPI 経由での証明書のアップロード
- xAPI 経由でのカスタム入力プロンプトのトリガー
- Cisco Webex Room Kit と Room Kit Plus の USB からシリアルポートへのサポート
- CMS 会議（アクティブ コントロール）でのリモート参加者のミュート
- 室内制御
 - ウィジェット
 - プレビュー モード
- ブリーフィングルーム モード
- その他の機能や変更
 - Cisco Proximity インジケータと UI トグルの削除
 - デバイス アクティベーションの変更によるビデオ システムの初期設定へのリセット

CE9.2.1 の新機能の説明

エンドポイントの動作をカスタマイズするためのマクロフレームワーク

CE9.2.1 は、新しい強力なマクロ開発フレームワークを導入しています。この機能により、ユーザとインテグレータは、シナリオを自動化し、個々の要件に合わせてエンドポイントの動作をカスタマイズするために、標準の JavaScript を使用して小規模なマクロスクリプトを作成できます。

状態の変更や xAPI イベントに基づいて特定のアクションをトリガーする、独自のカスタム機能を作成できます。たとえば、システムがスタンバイ状態になったら数分後にビデオ システムのすべての設定を自動的にリセットして、次のグループの人がルームを使用可能な状態にできます。

xAPI でアクションを実行できる場合、ほとんどのシナリオでマクロフレームワークを使用してそれを自動化できます。サポートされているシステム上では、最大 10 個のマクロスクリプトを作成できます。

マクロ開発エディタは、ビデオ システム Web インターフェイス上にあり、外観、キー バインド (Emacs または Vim)、構文チェック、オートコンプリート、デバッグ コンソールなどの機能があります。マクロはコードブックでネイティブに実行され、同じエディタから起動できます。

開始するには、マクロエディタに移動し、ヘルプ セクションと組み込みのチュートリアルを確認します。そこにはマクロの作成を開始するために必要なすべての情報とコード例が含まれています。

独自のマクロを作成する技量や知識をお持ちでなくても、ダウンロード可能な事前作成されたマクロのコレクションが <https://developer.cisco.com/site/roomdevices> に用意されています。

Cisco TelePresence サポートフォーラムを使用してアイデアを共有したり支援を受けたりしてください。

室内制御との連携を設計する

マクロスクリプトと室内制御を組み合わせると、サードパーティ製デバイスを接続しなくても、ローカルカスタム機能のための使いやすいグラフィカル ユーザインターフェイスを作成できます。短縮ダイヤル、カスタム レイアウト コントロール、言語セクタ、Proximity トグル、コール品質調査などの関連動作がある独自のミニパネルを作成できます。外部ルームの周辺機器を制御したり、外部アクションを実行したりする必要がある場合にも、制御システムが必要です。

既知の制限事項については、この文書の「制限事項」と警告のセクションを参照してください。

サポートされるシステム (マクロ フレームワーク)

CE9.2.1 をサポートするすべてのシステム (ただしプラットフォームの安定性の問題から Cisco TelePresence SX10 を除く)

マクロフレームワーク サポートの免責事項：

Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、マクロランタイム フレームワークの問題またはエディタ自体の問題がある場合のサポート ケースのみを支援できます。TAC には、マクロコードまたは支援なしでは予期した動作をしないコードのデバッグについて支援する責任はありません。この機能を最大限に活用するには、標準的な JavaScript の作成に精通しているか、そうでなければ統合スクリプトやプログラミングに精通していることが前提となります。

現在アクティブなマクロがあるビデオ システムのサポートを提供するために、TAC はケースを進める前に、すべてのマクロを無効にすることを求める場合があります。アイデアおよびマクロのデバッグのヘルプについては、Cisco TelePresence コミュニティから、支援を目的としたCisco サポートフォーラムを探してください。

Cisco Webex Room 55 の HDCP サポート

Cisco Webex Room 55.上では、入力ソースの 1 つに対して HDCP (High-bandwidth Digital Copy Protection) サポートを有効にできます。HDCP を有効にすることで、AppleTV、HD TV-Decoder、またはゲーミングコンソールなどのコンシューマ グレード デバイスに接続して、会議コールに使用しない場合に統合 4K 画面の使用目的を変更できます。

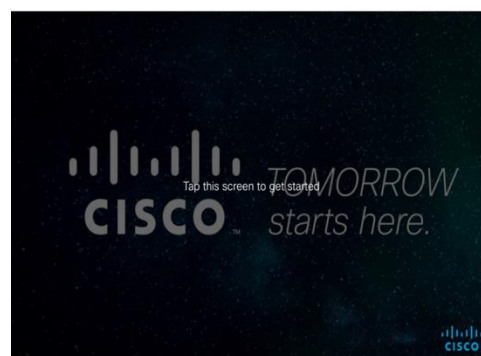
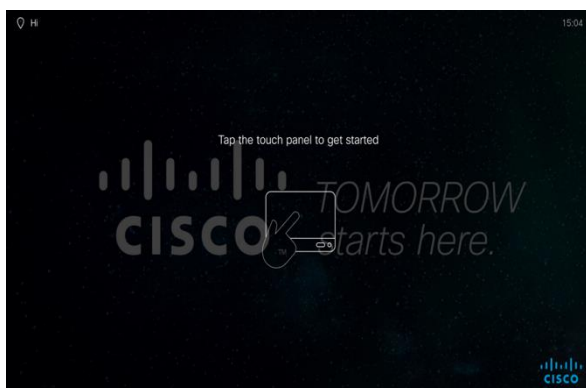
コンテンツは、HDCP 対応の入力ソースからローカルにしか表示できません。コール中には、HDCP 構成の入力からは何も共有できません。これには、ラップトップからのコンテンツが実際には HDCP 保護ではない場合や、HDCP 入力からメイン ビデオ ストリームへのビデオが作成されるのではない場合があります。この場合、遠端に送信されるブラック フレームのみが生成されます。

ブランディングとハーフウェイクのカスタマイズ

Touch 10 などの画面上の UI に配置する会社独自のブランド イメージをアップロードします。この機能により、ハーフウェイク状態の柔軟性を拡張し、その外観をカスタマイズできます。

ハーフウェイク

ハーフウェイク状態のデフォルトのアニメーション背景を置き換えるには、背景として使用するブランド画像をアップロードします。また、会社のロゴをアップロードして、ビデオ システムで独自のブランドを表示できます。

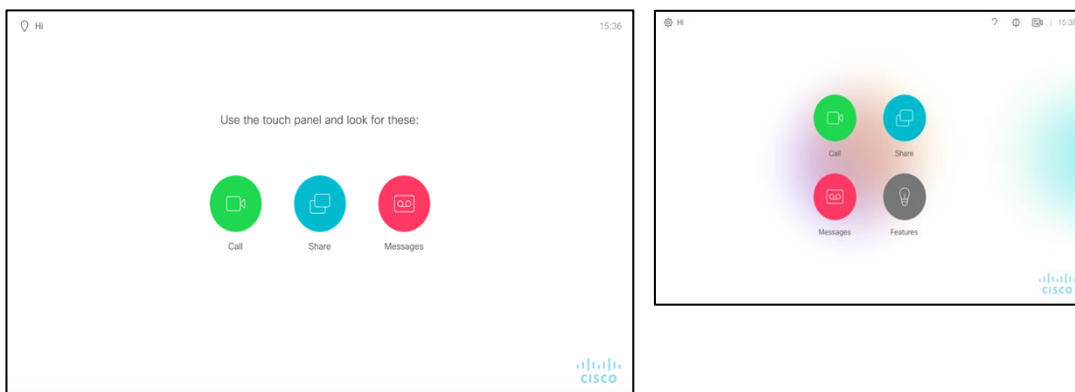


このスクリーンショットは、カスタムブランドイメージがあるハーフウェイクのシステムの例を示しています。左の図は画面上にどのように表示されるかを示し、右の図は Touch 10 です。

サードパーティによる統合があれば、画面上に表示されるテキストはたとえば、「ステージ演台で Crestron タッチ パネルを使用する」というようにカスタマイズできます。ハーフウェイク テキストを変更することによって、Touch 10 パネルまたはテキストの下に表示される TRC6 リモート コントロールの図も削除されます。Touch 10 上の「この画面をタップして開始 (Tap this screen to get started)」というテキストは変更できません。

スリープなし

システムがスリープなしのときに画面の右下隅と Touch 10 に配置される独自のブランドイメージ ロゴをアップロードします。



上記のスクリーンショットは、右下隅にブランドロゴが表示されているスリープなしシステムの例を示しています。Web インターフェイスから左下隅にカスタム テキスト行を配置することもできます。すべての画像は、パーソナライゼーションの下のビデオ システム Web インターフェイス経由でアップロードできます。Web インターフェイスに表示されるわかりやすい指示に従ってください。アップロードするすべてのブランド イメージは、画面に表示されるとおりに、Web インターフェイスでプレビューされて表示されます。このページから、ハーフウェイクを手動でトリガーして、システム上で結果を即時に参照できます。

xAPI および XMLAPI 経由で Base64 エンコードのブランド イメージをアップロードします。詳細については、CE9.2.1 管理者ガイドを参照してください。

サポートされているシステム (ブランディング)

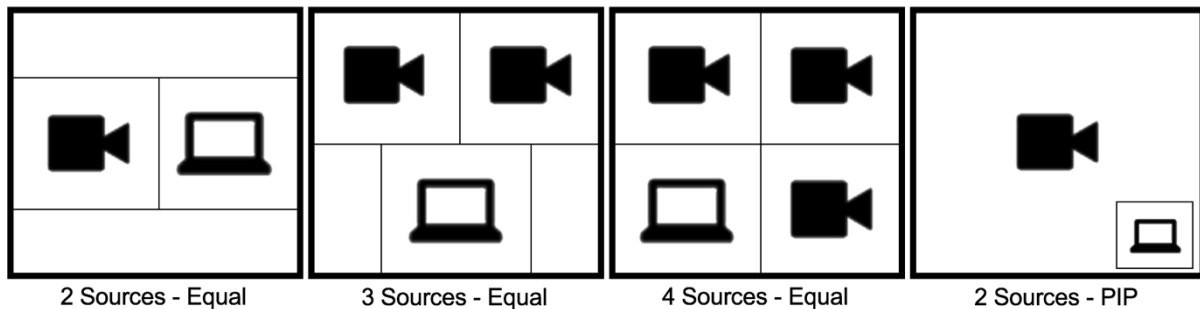
CE9.2.1 をサポートするすべてのシステム (ただしプラットフォームの安定性の問題から Cisco TelePresence SX10 を除く)。

ソース構成

この機能は、レガシー製品用に TC-Console で以前に提供されていたいくつかの機能に置き換わります。ソース構成を使用すると、最大で 4 つの入力ソースを 1 つのイメージとして構成できます（構成できる入力ソースの数は、コーデックで使用可能な物理入力ソースに応じて変わります）。このイメージは、メイン ビデオ ストリームでコールの遠端に送信されます。ソース構成は xAPI 経由でのみ有効にできるので、室内制御 UI をマクロと組み合わせて作成し、オンデマンドで構成を制御することをお勧めします。

ソース構成は TC-Console と同じような柔軟性は提供していないことに注意してください。ただし使用しやすさは向上しています。構成には、[同等 (Equal)] と [ピクチャインピクチャ (PIP)]

(Picture in Picture (PIP))] の 2 つのレイアウトがあります。サイドバイサイド レイアウトは最大で 4 つのソースをメイン ビデオに組み込むことができますが、PIP は 2 つのソースに制限されます。どのソースをどのフレームで表示するかは決定できますが、フレーム位置やサイズは、構成に使用するソースの数と選択するレイアウトにより決定されるので変更できません。サンプルのメイン ビデオ ソース構成については、以下を参照してください。



xAPI 操作の詳細については、管理者ガイドを参照してください。

サポートされるシステム

ハードウェアの制限により Cisco TelePresence SX10、DX80、DX70 を除き、CE9.2.1 をサポートするすべてのシステム。

HTTP プロキシのサポート

ビデオシステムを Cisco Spark に登録する場合、HTTP (S) 経由の通信用環境に必要であれば、HTTP プロキシを通過するシステムを構成できます。HTTP プロキシ機能は、Touch 10 を介して (Cisco Spark への登録時)、または Web インターフェイスを介して構成できます。メディアは引き続き直接であり、プロキシを経由しません。

プロキシ サーバで認証が必要な場合、ビデオ システムはダイジェスト認証のみをサポートすることに注意してください。

HTTPS インスペクションは、有効な CA 証明書をシステムにアップロードすることでサポートされます。

Touch 10 および画面上の UI 機能

CE8 から CE9 への移行時になくなったいくつかの機能は、新しい UI で復元されました。

UI での管理者設定のロックダウン

Touch 10 または画面上の UI で管理者設定をロックできるようにします。この機能はデフォルトではロックされておらず、xAPI 経由または Web インターフェイス経由でロックできます。ビデオシステムに管理者パスワードが設定されて、設定メニューモードが [ロック (Locked)] になっている場合、ロック設定を構成するには管理者のログイン情報を提示する必要があります。ロックされた設定は、Touch 10 または画面上の UI で南京錠のアイコンでマークされます。管理者パスワードが空白の場合は、SettingsMenu モードが「ロック (Locked) 」の場合でも設定はオープンになります。

設定するエンドポイント設定ページ上の Web インターフェイスから、「SettingsMenu」を検索します。

ホワイトボードへのスナップ設定の復元

SpeakerTrack を備えたビデオ システムがあれば、Touch 10 からホワイトボードへのスナップ機能を設定できます。SpeakerTrack ユニットが取り付けられている次のシステムが含まれます。

- Cisco TelePresence SX80 (SpeakerTrack 60 または Cisco Webex Quad Camera 付属) 、MX700、MX800、および MX800 Dual
- Cisco Webex Room Kit、Room Kit Plus、および Room 55

システムに SpeakerTrack カメラがない場合、この機能は構成できないことに注意してください。

Touch 10 上の手順に従ってホワイトボードへのスナップを設定します。

IEEE 802.1x 設定 UI

Touch 10 のネットワーク設定から IEEE 802.1x を設定できます。認証に証明書が必要な場合は、引き続き Web インターフェイスまたは xAPI 経由でアップロードする必要があることに注意してください。

キーボードのローカリゼーション (ロシア語、アラビア語、ヘブライ語)

いくつかの言語でキーボードのローカライズをサポートします。ロシア語、アラビア語、ヘブライ語を優先言語として選択すると、キーボードがローカライズされます。

右から左に読む言語のサポート (アラビア語およびヘブライ語)

アラビア語またはヘブライ語を優先言語として選択すると、キーボードのローカリゼーションに加えて、ユーザインターフェイスも反転します (右から左) 。

Cisco Webex Quad Camera がある Cisco TelePresence SX80 のサポート

Cisco Webex Quad Camera は、CE9.2.1 の SX80 と一緒に使用できます。Cisco Webex Quad Camera を使用することで、HDMI 入力を SpeakerTrack 60 と比べて 1 つ多く空き状態にすることができ、People Count 機能を取得できます。ただしこれには、コール中にのみ機能し、コール外では機能しない（Cisco Webex Room Kit Plus ではサポートされる）という制限があります。Cisco Webex Quad Camera は、PresenterTrack 用の Precision 60 カメラと共に、役員室（Briefing Room）モードでも動作します。

xAPI 経由での証明書のアップロード

PEM 形式の証明書は、新しい複数行コマンドを使用して xAPI 経由で直接インストールすることも、または XMLAPI 経由でインストールすることもできます。xAPI コマンドの詳細については、CE9.2.1 管理者ガイドを参照してください。

xAPI 経由でのカスタム入力プロンプトのトリガー

オンデマンド カスタム入力プロンプトを UI で有効にします。プロンプトは xAPI 経由でのみ有効にできるので、その機能を、マクロフレームワークと室内制御 UI の組み合わせまたはイベント後の自動トリガーによって作成します。たとえば、終了したコールの後にフィードバックを残すようにユーザに求めることができます。入力プロンプトは、送信されると xAPI でイベントを生成します。xAPI コマンドの詳細については、CE9.2.1 管理者ガイドを参照してください。

Cisco Webex Room Kit、Room Kit Plus、および Room 55 のた めの USB からシリアルポートへのサポート

サードパーティ統合のため、USB（タイプA）をシリアル（D-sub 9）アダプタに接続して、たとえば Crestron パネルをサポートすることができます。USB からシリアルへのほとんどの接続は機能するはずですが、Cisco は最もテストされて安定したシリアル接続として、UC232R-10 USB から RS232（FTDI）アダプタへの接続をお勧めします。

CMS ホスト会議（アクティブコントロール）でのリモート参加者のミュート

CMS (2.3) 会議ビデオでシステムがアクティブ コントロールに有効になっている場合、Touch 10 または画面上の UI で参加者リストからリモート参加者をミュートできます（CMS でも有効になっている必要があります）。リモートシステムが CE9.2.1 の場合、ミュート状態は、CMS と、ローカルには Touch 10 およびマイクロフォン ミュート状態 LED に反映されます

プライバシー上の理由からローカルにもミュートされている CE9.2.1 上のリモート参加者はミュート解除できません。ただし、要求があった場合には、リモート参加者がマイクロフォンのミュート解除を要求したことを伝えるメッセージがリモートシステム上でポップアップします。リモート ユーザーは、手動でミュートを解除する必要があります。

サードパーティの遠端の参加者と、ブリーフィングルームのソフトウェアを実行している参加者もミュートできますが、それはローカルには反映されず、CMS 側でのみミュートされます。

以下のリンクをたどって、CMS でこの機能を有効にする方法については、CMS API ドキュメンテーションを参照してください。

https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/conferencing/meeting-server/products-programming-reference-guides-list.html

室内制御

室内制御に追加された新機能では、カスタム テキスト、PIN、またはパスワード入力プロンプトを xAPI から有効にできます。室内制御エディタには、仮想の Touch 10 も備えられました。これにより Web インターフェイスから機能を試すことができます。

ウィジェット

状態があるウィジェット（トグル ボタン、スライダー、およびグループ ボタン）は、ユーザーによるトグル ボタンの切り替えやスライダーの移動などのアクションが実行されるとすぐに、xStatus でその状態が設定されるようになりました。以前には GUI はそれ自体を xStatus に反映したりコントローラに依存したりすることなく「オプティミスティック」に更新し、xStatus ウィジェット値を設定することによって変更を明示的に確認していました。この変更により、一部のわかりにくい GUI の動作が修正されました。状態を設定することを忘れて、GUI と xStatus の値が簡単に同期しなくなってしまう可能性があったからです。

これにより、コントローラから GUI の状態を時々オーバーライドできないという設計上のバグも解決されます。

コントローラ側で起きていること（たとえば壁のライト スイッチを使用してライトをオンにしたり、xAPI で設定を変更したりなど）を反映するために、引き続き以前と同じようにコントローラまたはマクロにウィジェット値を更新させる必要があります。

コーデックは UI イベントが発生する前に xStatus 値を更新するため、イベントによりコーデックとコントローラ間の競合状態が生じることはありません。そのため、コントローラがウィジェット値をオーバーライドすることを決定した場合、このコマンドは必ず、コーデックによって以前に実行された更新の後に着信します。

プレビュー モード

室内制御エディタには、新しいプレビュー モードがあります。仮想 Touch 10 パネルは、Touch 10 パネル上でデザインがどのように表示されるかを確認するために使用できます。UI はインタラクティブであり、同じページにあるコンソールで対話して機能をテストしたりウィジェット値を印刷したりできます。これにより室内制御機能を作成してオンデマンドで機能をテストすることがさらに容易になります。仮想 Touch 10 と対話すると、それはサードパーティ制御システムまたはマクロを使用して作成した機能をトリガーする、ビデオ システム上の実イベントも生成します。コンソールには、コントロール システムと室内制御 UI が同期していることを確認するための、すべてのコントロール システム フィードバック メッセージも表示されます。いくつかのウィジェットは、前の「ウィジェット」のセクションで述べたように、対話時に xStatus の値も更新するようになり、実際の GUI イベントの前にコンソール（「コントロール システム」の下）に表示されることに留意してください。これは予期されている動作です。

プレビュー モードにアクセスするには、室内制御エディタで「目」のアイコンをクリックします。

ブリーフィングルーム

ブリーフィングルーム モードは新機能ではなく、CE9.2.1 からサポート対象として復元されました。ブリーフィングルーム（Briefing Room）モードは、Cisco Webex Quad Camera に接続されている Cisco TelePresence SX80 でもサポートされるようになりました。ブリーフィングルーム モードのすべての要件は引き続き適用されます。詳細については、管理者ガイドをお読みください。

注：ブリーフィングルームのレイアウトは室内制御によって管理され、ビデオシステムの既存の [室内制御（In-Room Control）] パネルよりも優先されます。ブリーフィングルーム モードを有効にする前に、室内制御のデザインを必ずバックアップしてください。これらは、ブリーフィングルーム モードを有効にした後に室内制御の設定に追加できます。

ブリーフィングルーム モードは、3 画面、SpeakerTrack 60、または Quad Camera（SX80）と PresenterTrack 用の追加の Precision 60 カメラを備えた、Cisco TelePresence SX80、MX700、および MX800 Dual 上でのみサポートされます。

注：Intelligent Proximity サービスであるクライアントとのコンテンツ共有は、ブリーフィングルーム モードが有効である場合には、他のユース ケースに影響を与える可能性がある高負荷シナリオを避けるために無効にされます。

その他の機能や変更

Intelligent Proximity インジケータと UI トグルの除去

ビデオシステムは、有効になると画面の上部左隅にプロキシミティ (Proximity) アイコンが表示されることはなくなりました。Proximity サービスのオンとオフを切り替えるボタンも除去されました。

Proximity は引き続き xAPI および Web インターフェイスから構成可能です。クライアントがビデオシステムとペアリングされると、画面右側に Proximity アイコンが表示され、1 つ以上のクライアントが Cisco Proximity があるシステムとペアリングされたことが示されます。

ヒント : Cisco Proximity 制御が必要な場合、他の多くのシナリオと同様、たとえば室内制御と新しいマクロフレームワークで解決できます。このようなシナリオのダウンロード可能な事前作成されたマクロのコレクションは、間もなく入手可能になります。

UI からのデバイスアクティベーションの変更による一部のシステム設定のリセット

CE9.2.1 での動作の変更内容は、デバイスアクティベーション方式を変更する前に (VCS から UCM アクティベーションへなど) システムがすべてのコールサービス設定を消去して再起動し、すべての設定が正しいことが確認されることです。これにより、新しいサービス向けにビデオ システムをプロビジョニングするときに設定の競合が回避されます。

これによりすべての連絡先と通話履歴も消去されることに注意してください。それらのバックアップを、デバイス アクティベーションを変更する前に必ず実行してください。

CE9.1.6 の新機能

- これはマイナー リリースで、CSCvj32935 のバグ修正のみ含まれます。
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.6 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.1.5 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
- WPA2 関連の脆弱性 (KRACK) : CSCvf71761 を修正する
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.5 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.1.4 の新機能

- マイナー リリース (バグ修正を含む)
- Cisco Webex Room Kit Plus + Precision 60 のサポート
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.4 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.1.4 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Plus + Precision 60 のサポート

Cisco Webex Room Kit Plus は Cisco Webex Quadc Cameraと組み合わせた Cisco Webex Codec Plusです。

Cisco Webex Codec Plus への Precision 60 カメラの接続サポートは、リリース CE9.1.4 で利用できます。Precision 60 カメラは、Cisco Webex Quad Camera への追加または置き換えとして使用できます（カメラは合計で最大 2 台まで）。

複数のカメラを Cisco Webex Room Kit Plus に接続するには、外部スイッチをカメラ制御ポートに接続する必要があることに注意してください。

CE9.1.3 の新機能

- マイナー リリース (ほとんどがバグ修正)
- Cisco Webex Room 55 のソフトウェアサポート
- G.729 コーデックで音声明瞭度を高めるためのフィルタが適用されました。

CE9.1.2 の新機能

- CE9.1.2 に導入された新しい機能はありません。
 - バグ CSCve94476 の修正を含みます。

CE9.1.1 の新機能

- Cisco Webex Room Kit Plus のサポート
 - Cisco Webex Quad Camera スピーカーのトラッキング
 - Cisco Webex Room Kit と同等の機能 (Feature parity)
- CMS ベースのミーティング向けの新しいデュアル スクリーン エクスペリエンス
 - アクティブ コントロール
 - サポートされるビデオ システム
- 新しいウェイクアップ エクスペリエンス
- DX70 および DX80 の Bluetooth ヘッドセットのサポート
 - Bluetooth 制御
- Wi-Fi: WPA-EAP
 - 信頼できる CA 証明書
- マイナー変更
 - Room 分析の追加

CE9.1.1 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Plus のサポート

Cisco Webex Room Kit Plus は、Webex Teams クラウド サービスまたは既存のオンプレミス インフラストラクチャを使用するように登録できる、Cisco Webex ルーム シリーズの新しいルーム デバイスです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

Cisco Webex Room Kit Plus のハードウェア仕様や技術仕様の詳細については、次の製品データシートを参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/datasheet-c78-738752.html>

ソフトウェアのアップグレード方法については、このドキュメントの「ソフトウェア アップグレード」以降の「既知の制限事項とアドバイザリ」セクションを参照してください。

Cisco Webex Quad Camera スピーカーのトラッキング

Cisco Webex Room Kit Plus には、外部カメラモジュールが付属しており、このカメラは SpeakerTrack エクスペリエンスを強化する、統合されたラウドスピーカーと 4 つの 5K レンズを備えています。

Touch 10 パネルで直接、SpeakerTrack 診断モードを有効にして動作を確認できます。このモードでは、イメージがどのようにトリミングされ、現在何人が会議室内で検出され、どのレンズが現在使用中かを容易に確認できます。

Cisco Webex Room Kit と同等の機能 (Feature parity)

Cisco Webex Room Kit と同様に、Cisco Webex Room Kit Plus では次の機能がサポートされています。

- スピーカー トラッキング
- 最適な全体表示
- Wi-Fi
- Room 分析
- COP ファイルを使用したファームウェア アップグレードのサポート
- 最適な 4K エクスペリエンスを実現するCisco の推奨画面

CMS ベースのミーティング向けの新しいデュアル スクリーン エクスペリエンス

デュアル スクリーンのビデオ システムでは、最適なミーティング エクスペリエンスのために、両方の画面を CMS ベースのミーティングに利用できるようになりました。ビデオ システムは、2 つのトランスコードされたビデオ ストリームを受信し、1 つのコンテンツ ストリームは CMS からのもので、両方の画面を使用してストリームをレンダリングします。

アクティブ コントロール

ビデオ システムで、アクティブ コントロールを有効にすると、最適なミーティング エクスペリエンスを得ることができます。これには、すべての参加者と参加者の現在の活動状況（各参加者のミュート、共有、および通話中のスピーカーの表示）を表示する参加者リストが含まれます。

使い慣れたレイアウト 選択パネルを使用して、Touch 10 パネルからレイアウトをシームレスに変更できます（DTMF トーンは不要）。

サポートされるビデオ システム

この機能を有効にするには、CMS 2.2 以降、CUCM 11.5 / VCS X8.7 以降、およびデュアル スクリーンのビデオ システムが必要です。

以下のサポート情報を参照してください。

サポートされるビデオ システム	サポートされないビデオ システム
Cisco TelePresence SX80 Cisco TelePresence MX800、MX800D および MX700 Cisco Webex Room Kit Cisco Webex Room Kit Plus Cisco Webex Room 55 Cisco Webex Room 70	Cisco TelePresence MX200 G2 および MX300 G2 Cisco TelePresence SX10 および SX20 Quick Set

サポートされているルームデバイスは、2 画面のセットアップになっており、[会議マルチストリーム (Conference MultiStream)] 構成が [自動 (Auto)] になっている必要があります。この設定のデフォルト値は [自動 (Auto)] です。

注：システムが 3 画面セットアップの場合（Cisco TelePresence SX80、MX700、または MX800 など）、3 番目の画面はデュアル画面コール中にはコンテンツ用に予約されます。

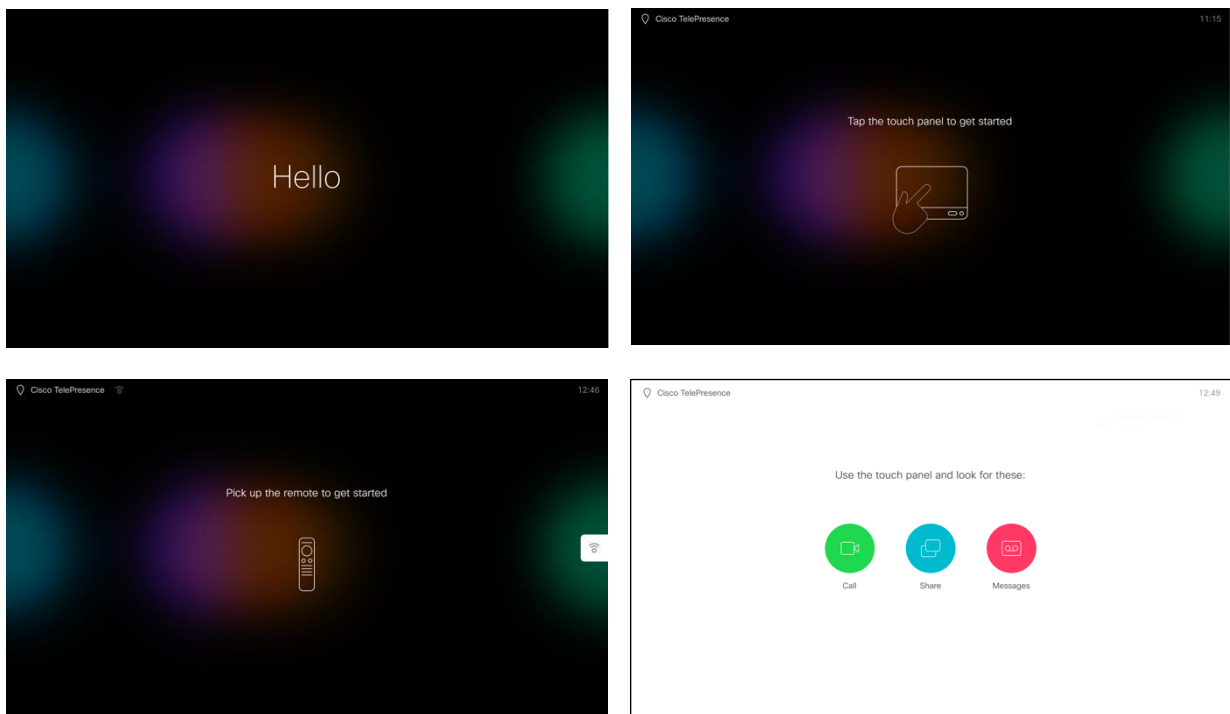
CMS のこの機能を有効にする方法について、CMS 導入ガイドを参照してください。

新しいウェイクアップ エクスペリエンス

CE9.1.1 で、新しい復帰方法としてハーフウェイク状態が導入されました。これにより、システムが緩やかに復帰し、使用開始する方法に関する適切なガイダンスをユーザに提示できます。この機能は、CE9.0.1 で導入されたモーション検知機能の起動に基づいて構築されています。

モーション検知が有効になっている場合（DX70 および SX10 では利用不可）、人が部屋に入ってきたときに、システムは自動的に起動してハーフウェイク状態になります。また、ユーザが Cisco Proximity クライアントをシステム（すべてのシステム）に対してペアリングした場合にも、システムはこの状態まで起動します。

ビデオ システムは、起動してグリーティングを表示してから、開始方法の簡単なガイダンスを表示して「ハーフウェイク」状態になります。



システムによって、TRC6 リモート コントロールで制御されている場合でも Touch 10 パネルで制御されている場合でも、ガイダンスのテキストは、現在の構成に自動的に適用されます。Touch 10 パネルを接続している状態でタッチスクリーンをタップしてシステムを復帰させた場合、以前のソフトウェアバージョンで表示されていた大きい時計の代わりに、さらにガイダンスが画面に表示されます。

モーション検知ウェイクアップ機能を使用するために、近接モードを有効にする必要があることに注意してください。その他の Proximity サービスを有効にする必要はありません。既知の制限については、このマニュアルの制限のセクションを参照してください。

Cisco Webex DX70 および DX80 の Bluetooth ヘッドセットのサポート

ビデオ システムは、組み込みの Bluetooth モジュールを備えています。ユーザは、画面の UI から設定メニューで Bluetooth を有効にしてビデオ システムをペアリング モードにすることができます。ヘッドセットをペアリング モードに設定する方法について、取り扱いマニュアルを読んでください。ペアリングを開始するためにヘッドセットが検出された場合は、ビデオ システムの一覧からヘッドセットを選択します。ヘッドセットのステータスが「接続中」として表示されている場合、使用することができます。

- ホーム画面のセルフビュー アイコンの隣にある右上隅のアイコンを押すことで、ハンドセット、Bluetooth ヘッドセット、USB ヘッドセット、およびスピーカーを選択できます。
- ペアリング リストに保存される、ペアリングされた複数のヘッドセットを保持できますが、1 度に接続できるのは 1 つだけです。すでに異なるヘッドセットを使用している間に、新しいヘッドセットをペアリングしたり接続したりすると、新しいヘッドセットがアクティブなヘッドセットとして置き換わります。
- サポート対象となるには、ヘッドセットが HFP (Hands Free Protocol) と A2DP をサポートしている必要があります。これは、ヘッドセットに付属していたドキュメントで確認できます。一部のヘッドセットでは、HFP および A2DP の実装に相違がある可能性があるため、注意してください。これによって、ペアリングまたはオーディオ再生が失敗することがあるため、これらのプロトコルが機能する市販のすべてのヘッドセットを保証することはできません。
- DX70 および DX80 は、現在ナローバンド音声のみをサポートしています。広帯域オーディオについては、ビデオシステムに Bluetooth ドングルを接続することをお勧めします。これにより、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。これは、今後のソフトウェア リリースで修正される予定です。

Bluetooth 制御

一部のヘッドセットには、音量調節、通話応答/切断、およびミュート用の追加のコントロールがあります。これらのコントロールのヘッドセットの実装によって、ビデオ システムは次のものをサポートします。

- 音量アップ、音量ダウン、応答コール、切断コール、ミュート

既知の制限については、このマニュアルの制限のセクションを参照してください。

Wi-Fi: WPA-EAP

これは、現在 Wi-Fi サポート、Cisco Webex DX70、Cisco Webex DX80、Cisco Webex Room Kit、Cisco Webex Room Kit Plus、Cisco Webex Room 55 があるビデオシステムに適用されます。

次の方法の WPA-EAP フレームワークのサポートが追加されました。

サポートされる WPA-EAP 方式	サポートされる内部方式
PEAP	EAP-MSCHAPv2
EAP-TLS	EAP-GTC
EAP-TTLS	
EAP-FAST	

信頼できる CA 証明書

信頼できる CA 証明書は、WPA-EAP 対応の Wi-Fi ネットワークへの接続に必要なことがあります。中間者攻撃のシナリオを避けるため、検証用に CA 証明書を使用することをお勧めします。CA 証明書は、ビデオシステムの Web インターフェイスからアップロードできます。証明書をアップロードするには、システムが有線ネットワークまたは WPA-PSK Wi-Fi ネットワークのいずれかに接続してから、信頼できる証明書を必要とする WPA-EAP 対応ネットワークに接続する必要があります。ビデオシステムへの CA 証明書の大量配布は現在サポートされていませんが、将来のソフトウェアのバージョンで使用可能になる可能性があります。

WPA-EAP 対応 Wi-Fi ネットワークに接続するために CA 証明書を要求するようにビデオシステムを構成できます。GUI で Wi-Fi 構成を選択している場合、ビデオシステムにインストールされている CA 証明書がないと、警告が表示されます。デフォルトでこの設定は無効です。

マイナー変更

Room 分析の追加

CE9.1.1 のRoom 分析機能では、2 つの追加機能が利用可能になりました。

室内の人の存在を検知

ビデオシステムは、人が室内にいるかどうかを検知する機能を備えています。室内に人がいるかどうかを検知し、ステータスを変更するには最低 2 分かかります。この機能は、超音波に基づいています。室内にいた人物のレコードを保持することはなく、部屋が使用中であるかどうかだけを検知します。

この機能は、超音波をサポートするすべてのシステムに対してサポートされています（モーション検知時の起動をサポートしないという同じ理由で、Cisco TelePresence SX10 QuickSet および Cisco TelePresence DX70 を除く）。この機能は、ビデオシステムの Web インターフェイスから有効化できます。

人数のカウント

新しい Cisco Webex Room シリーズでは、CE9.0.1 で人数のカウント機能が導入され、ビデオシステムがコール中であるか、またはセルフビューの画像を表示したときにだけ室内に存在する人の数をカウントできるようになりました。CE9.1.1 では、この機能は、システムがスタンバイでない限り、システムが通話中でない場合も室内に存在する人の数をカウントすることができるようになりました。室内にいた人物の記録を保持することはなく、顔の数だけを検知します。

Cisco Webex DX70 および DX80 のセカンダリネットワークポートを無効にする構成

xConfiguration NetworkPort 2 Mode: <On, Off> の構成で Cisco Webex DX70 および Cisco Webex DX80 のセカンダリ ネットワーク ポートを無効にできます。

CE9.0.1 の新機能

- Cisco Webex Room Kit のサポート
 - スピーカー トラッキング
 - 最適な全体表示
 - Wi-Fi 対応
 - Room 分析
 - COP ファイルを使用したファームウェア アップグレードのサポート
- 更新された [アクティビティサークル] ユーザーインターフェイス
 - Touch 10 の更新
 - 新しい電話帳と共有トレイ UI
 - Touch 10 および Cisco Webex DX70/DX80 のキーボードの改善
 - Touch 10 でのコール転送
- モーション検知ウェイクアップ
- 室内制御エディタの更新
- マイナー変更
 - HTTPS クライアント証明書のサポート
 - 新しいブリーフィングルーム制御
 - Web インターフェイスのローカル連絡先からお気に入りへの名称変更
 - 追加された言語：ポルトガル語

CE9.0.1 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit のサポート

Cisco Webex Room Kit (Room Kit) は、Webex Teams クラウド サービスまたは既存のオンプレミス インフラストラクチャを使用するように登録できる、Cisco Webex ルーム シリーズの新しいルーム システムです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

Room Kit のハードウェア仕様や技術仕様の詳細については、次の製品データシートを参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/datasheet-c78-738729.html>

スピーカートラッキング

SpeakerTrackは、しばらくの間、SX80、MX700、MX800とMX800デュアルで利用可能であった機能です。

Cisco Webex Room Kit には、デジタル スピーカートラッキング機能を備えた非可動の統合型カメラが付属しており、統合型マイクを使用することにより、ルームで通話中のスピーカーを見つけてフレーミングできます。

最適な全体表示

Cisco Webex Room Kit は、デジタル顔検出機能を使用して、会議室内の個人またはグループを最適に自動表示します。この機能は、会議室内での参加者の移動や新たな参加者の入室に合わせて、画面にすべてのユーザが含まれるように自動的に調整します。この機能は、スピーカートラッキングと連動して、最適な会議エクスペリエンスを提供します。

Wi-Fi 対応

Cisco Webex Room Kit は Wi-Fi 接続をサポートしています。Wi-Fi を設定するには、Touch 10 を Cisco Webex Room Kit に直接ペアリングする必要があります。

サポートされている IEEE 標準規格	サポートされるセキュリティ プロトコル
IEEE802.11ac、IEEE802.11n、 IEEE802.11a、IEEE802.11g、IEEE802.11b	WPA-PSK (AES) 、WPA2-PSK (AES)

他のエンタープライズセキュリティ プロトコルも、今後の コラボレーション エンドポイント ソフトウェア リリースでサポートされる予定です。詳細については、製品データ シートを参照してください。

Touch 10 のパネルからネットワーク設定にアクセスし、ワイヤレスネットワークに接続します。Wi-Fi を使用するには、イーサネットケーブルを取り外す必要があります（接続されている場合）。イーサネット ケーブルが接続されていて、設定を続行するためにイーサネット ケーブルを取り外す必要があることをシステムが検知すると、通知が表示されます。

イーサネット接続が存在する場合は、常にこの接続が Wi-Fi よりも優先されます。

サポートされていないネットワークに接続すると、システムがそのネットワークをサポートしていないことを示す通知が Touch 10 のパネルに表示されます。

Room 分析

Room 分析とは、顔検出機能を使用して、ビデオ コール中の会議出席者の平均人数を数えるメカニズムです。このデータを使用して会議室の使用状況レポートを生成できます。ルーム システムは、システム API や通話履歴から取得可能なデータを、サードパーティの統合製品を使用して手動または自動で収集します。

COP ファイルを使用したファームウェアアップグレードのサポート

Cisco Webex Room Series は、COP ファイルを使用して、Web インターフェイスから直接アップグレードできます。Cisco Webex Room Series の場合、これがリリースされている唯一のパッケージフォーマットです。

更新された [アクティビティサークル] ユーザインターフェイス

アクティビティサークルは、ルーム OS UI や他の Webex Teams プラットフォーム (Cisco Webex Board など) を含むコラボレーションポートフォリオ全体でユーザインターフェイスを調整するために CE9.0.0 でリリースされた新しい UI の名前です。

この UI アップデートには、デフォルトのバックグラウンドイメージ、新しいアイコン、およびビジュアルデザインの変更が含まれています。

Touch 10 の更新

Cisco Touch 10 は、Webex Teams に登録されているエンドポイント用の Touch 10 UI と同じ新しいユーザインターフェイスを備えており、これは Collaboration Endpoint Software 9 を実行している Cisco Webex DX70 または Cisco Webex DX80 のオンスクリーン (on-screen) のユーザインターフェイスとも似ています。

現在、Touch 10 パネルには CE8 の UI にある一部の機能が含まれていません。これらの機能は、今後のリリースで追加される予定です。新しい UI の Touch 10 パネルに現時点で不足している機能の一覧については、以下を参照してください。

機能差

機能	CE8	CE9
設定サブセットのパスワード保護 (初期設定へのリセット、ネットワーク、Touch 10 のペアリング解除、プロビジョニング)	あり	CE9.2.1 から
ローカライズされたキーボード	あり	CE9.2.1 から (ロシア語、ヘブライ語、アラビア語)
電話帳の通話料金調整	あり	CE9.3.0 以降
ホワイトボードへのスナップ設定	あり	CE9.2.1 以降 (SpeakerTrack 対応システムが必要)
アラビア語とヘブライ語 (UI およびテキスト配置の逆方向化)	あり	CE9.2.1 から
手動ロック調整、デュプレックス設定、ネットワーク DNS ドメイン、自動応答、デフォルト通話料、カメラ ホワイトバランス、露出とバックライト補正、DVI 出力モード、メインソース選択、スピーカートラック調整 (トラッキングモード)、マルチポイントモード設定、呼出音変更、キートンのオン/オフ。	あり	コーデック Web インターフェイスから設定可能 最新のソフトウェアはこちらから入手できます。

新しい電話帳と共有トレイ UI

新しい UI 更新プログラムの一部として、電話帳と共有トレイが更新されました。電話帳と共有トレイは、全画面表示されるようになり、外観も刷新されました。

Touch 10 および Cisco Webex DX70/DX80 のキーボードの改善

Touch 10 キーボードが更新されて大きくなり、ダイヤルパッドボタンも追加されました。特殊文字の追加ページも追加されました。

Touch 10 でのコール転送

Touch 10 でコール転送を設定し、アクティブな間はすべてのコールが転送されていることを示す通知を表示することができます。UCM では、この機能を使用する必要があります。

モーション検知ウェイクアップ

モーション検知ウェイクアップは、会議室に誰かが入室した際に、オーディオ技術を使用してそのことを感知する機能です。システムは自動的にウェイクアップします。この機能はデフォルトでオフに設定されています。有効にした場合、システムを手動でスタンバイモードにすることはできません。

室内制御エディタの改善

室内制御エディタが更新されて外観が新しくなり、ロジックと使い勝手が改善された、より効率的なコントロールインターフェイスになりました。また、新たに方向パッドウィジェットが追加されました。

室内制御とサードパーティ製の装置を併用することで実現できる機能の一部を例示する、室内制御シミュレータも追加されました。この仮想シミュレーションルームには一般的な装置が数多く用意されています。仮想の Touch 10 パネルを使用してそれらの装置を制御することもできますし、実際の Touch 10 に直接エクスポートしてそこから仮想会議室を制御することもできます。この機能は、デモンストレーションとインスピレーションを目的としたものです。

シミュレータは、コーデックの Web インターフェイスで [統合 (Integrations)] → [室内制御 (In-Room Control)] を選択することで利用できます。

マイナー変更

HTTPS クライアント証明書のサポート

HTTPS クライアント証明書の検証を有効にした場合、ユーザがコーデックのログインページにアクセスしようとする、システムはクライアント証明書をユーザに要求します。CA 証明書は必須であり、コーデックにアップロードする必要があります。

LDAP 認証が使用される場合、LDAP ユーザを確認するためにこのクライアント証明書が自動的に使用されます。ユーザ DN は、クライアント証明書と一致するように、ローカルユーザに対して手動で設定することもできます。

新しいブリーフィングルーム制御

新しい UI では、ブリーフィングルーム モードで [室内制御 (In-Room Control)] パネルを有効にして、ブリーフィングルームのレイアウトを制御できるようになりました。ブリーフィングルームは、CE9 へのアップグレード後に有効化する必要があります。ブリーフィングルームが有効な状態でアップグレードした場合、制御を有効にするには、一旦機能を無効化してからもう一度有効化する必要があります。詳細については、既知の制限のセクションを参照してください。

Web インターフェイスのローカル連絡先からお気に入りへの名称変更

ローカル保存されている連絡先に関する Touch 10 と Web インターフェイスの命名規則を揃えるため、Web インターフェイスの [ローカル連絡先 (Local Contacts)] が [お気に入り (Favorites)] へと名称変更されました。機能面の変更はありません。

追加された言語 : ポルトガル語

ローカル保存されている連絡先に関する Touch 10 と Web インターフェイスの命名規則を揃えるため、Web インターフェイスの [ローカル連絡先 (Local Contacts)] が [お気に入り (Favorites)] へと名称変更されました。機能面の変更はありません。

CE9 の未解決および解決済みの不具合

バグ検索ツールの使用

バグ検索ツールを使用すると、このリリースの警告事項（バグ）に関する情報（問題の説明と実行可能な回避策など）を検索できます。バグ検索ツールには、未解決の不具合と解決済みの不具合の両方が表示されます。リリースノートには、**未解決または解決済みのバグのサブセットは記載されません**。定義済みリンクにより、すべての未解決または解決済みのバグの正確なリストが提供されます。定義済み検索にリスト表示されるシリーズ/モデルは汎用のものであり、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行するすべての製品に関連するすべての関連バグがリスト表示されます。

バグ検索ツールを使用するには、以下のステップに従います。

ステップ 1 バグ検索ツールには、<https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/> に移動してアクセスします

ステップ 2 Cisco.com ユーザ ID とパスワードでログインします。

ステップ 3 特定の問題に関する情報を検索するには、[バグ ID 検索 (Search for bug ID)] フィールドにバグの ID 番号を入力し、[移動 (Go)] をクリックします。

特定のソフトウェア リリースの未解決および解決済みの不具合のリストにアクセスするには、次のリンクを使用します。

ソフトウェアのバージョン	解決済みの不具合	未解決の不具合
CE9.15.17.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.17.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=afr&kw=*&bt=custV&rls=9.15.17.4&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.16.5	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.16.5&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=afr&kw=*&bt=custV&rls=9.15.16.5&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.15.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.15.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=afr&kw=*&bt=custV&rls=9.15.15.4&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.13.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.13.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=afr&kw=*&bt=custV&rls=9.15.13.0&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.3.26	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.3.26&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=afr&kw=*&bt=custV&rls=9.15.3.26&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf

CE9.15.10.8	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.10.8&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=af&kw=*&bt=custV&rls=9.15.10.8&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.8.12	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.8.12&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=af&kw=*&bt=custV&rls=9.15.8.12&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.3.25	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.3.25&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=af&kw=*&bt=custV&rls=9.15.3.25&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.3.22	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.3.22&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&sb=af&kw=*&bt=custV&rls=9.15.3.22&svr=3nH&sts=open&srBy=recMdf
CE9.15.3.18	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.3.18&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.3.18&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.15.3.17	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.3.17&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.3.17&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.15.0.19	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.0.19&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.0.19&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.15.0.13	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.0.13&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.0.13&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.15.0.11	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.0.11&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.15.0.11&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH

CE9.14.7	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.7&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.7&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.14.6	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.6&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.6&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.14.5	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.5&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.5&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.14.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.4&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.14.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.14.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.13.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.13.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.13.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.13.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.13.0&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.12.5	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.12.5&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.12.5&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.12.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.12.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.12.4&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH

CE9.12.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.12.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.12.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.10.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.10.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.10.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.10.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.10.0&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.9.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.4&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.9.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.9.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.9.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.9.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.9.0&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.8.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH

CE9.8.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.8.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.8.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.8.0&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.7.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.7.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.7.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.7.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.7.0.9.7.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.7.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.6.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.4&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.6.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.6.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.6.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.6.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.5.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.5.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH

CE9.5.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.5.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.5.0&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.4.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.4.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.4.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.4.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.4.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.4.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.4.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.4.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.4.0&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.3.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.3.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.3.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.3.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.0&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.3.0&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.2.6	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.6&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.6&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.2.5	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.5&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.5&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH

CE9.2.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.4&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.2.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.2.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.2.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.2.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.1.6	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.6&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.6&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.1.5	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.5&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.5&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.1.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.4&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.4&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.1.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.3&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.3&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.1.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.2&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.2&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.1.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.1.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH
CE9.0.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.0.1&bt=custV&sts=fd&sb=fr	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch?pf=prdNm&kw=*&rls=9.0.1&bt=custV&sb=anfr&sts=open&svr=3nH

既知の制限事項とアドバイザリ

制限事項とアドバイザリ

ネットワーク輻輳時のシステム動作

ネットワーク パフォーマンスを低下させるすべての要因によって、Cisco TelePresence の音声およびビデオ品質に影響を与える可能性があり、場合によっては通話が切断されることもあります。ネットワーク パフォーマンスの低下は、次のような原因が考えられます。

内部ポートスキャンやセキュリティスキャンなどの管理タスク

ネットワーク上で発生する攻撃（サービス拒否攻撃など）

TelePresence 会議への悪影響を軽減したり排除したりするには、Cisco TelePresence システムが使用されていない時間帯に管理ネットワーク タスクをスケジュールするか、またはテストから TelePresence システムを除外します。

機器/機能	要約
Webex Teams のアクティベーション	<p>LAN でペアリングされた Touch 10 パネルを使用して Webex チームでシステムをアクティブにするには、Webex チームでシステムをアクティブ化する前に Touch 10 をペアリングする必要があります。</p> <p><i>注：新しいバージョンでは、登録後に新しいユーザアカウントを作成して、Touch 10 をペアリングすることができます。</i></p> <p>Webex Teams でデバイスをアクティブ化する前に、使用可能な最新の CE バージョンにアップグレードすることをお勧めします。</p> <p>デバイスを Webex に登録するには、暗号化オプションキーが必要です。</p>
CUCM	<p>CUCM でプロビジョニングする場合の H.323 および SIP に関する考慮事項</p> <p>CUCM プロビジョニングを使用する場合、エンドポイントを VCS (SIP または H.323) に同時に登録することはできません。ユースケースはサポートされていません。CUCM プロビジョニングがアクティブのとき、H.323 モードは無効です。TelePresence カスタマーは H.323 から SIP に移行されることを推奨します。</p> <p>プロビジョニング モードを [CUCM] に設定せずに CUCM に登録するシナリオは、サポートされていません。</p>
NTP	<p>コラボレーション エンドポイントは、CUCM からのブロードキャスト NTP サーバをサポートしていません。サポート対象はユニキャストのみです。</p>

モバイル Remote Access	<p>クラスタ化された CUCM のフェールオーバーが VCS X8.10 CE ソフトウェアおよび MRA で予期どおりに機能しません</p> <p>クラスタ化された CUCM ノード間でのフェールオーバーは、すべての現在の CE バージョン (CE9.1.2 以前) で機能しません。これは、CE9.1.3 で修正されました。</p> <p>バックアップバンドルのプロビジョニングは、現在 MRA ではサポートされない</p>
Cisco TelePresence DX70 および DX80	<p>TMS でのスケジュールされたミーティング</p> <p>CE9.1 以降、帯域幅の値スペースは 6000 から 3072 に変更され、これにより DX システム コールは、TMS (15.6 以下) が 6000Kbps をデフォルトのハードコード値として使用するために失敗します。これは TMS からのミーティングで帯域幅を変更することによって回避できます。または DX システムのダイヤルインではなく、ブリッジからシステムにダイヤルすることで回避できます。</p> <p>DX は、オンプレミスで登録されている場合、ホワイトボードをサポートしません (DX には、トランスコーディングを実行するためのハードウェアがありません)</p>
Cisco TelePresence SX10 クイックセット	<p>機能の制約事項</p> <p>プラットフォームの安定性の問題により、いくつかの機能は SX10 ではサポートされない可能性があります。CE9.2.1 では、ブランディングとマクロフレームワーク機能は現在サポートされていませんが、今後追加される可能性があります。</p> <p>UI 拡張機能にはタッチコントローラが必要であり、デバイスの TRC6 リモート制御では機能しません。</p>
Cisco TelePresence SX20 クイックセット	<p>マイクミュートボタン</p> <p>PID 番号 CTS-SX20CODEC の SX20 Quick Set のマイクミュートボタンが、システムがコール中でないときにも点灯 (赤色または緑色) することは、既知の問題です。この問題は、CE9 を実行する PID 番号 CTS-SX20N-CODEC の SX20 Quick Set の新しいハードウェアリビジョンでは解決されています。PPID 番号は、コーデックの底面に記載されています。</p> <p>UI 拡張機能にはタッチコントローラが必要であり、デバイスの TRC6 リモート制御では機能しません。</p>
Cisco Telepresence MX300 G2/PrecisionHD 1080p 4x S2	<p>カメラから異音がする</p> <p>カメラのフォーカスの問題が修正された後は、スタンバイ状態になるときに常にカメラの再校正が実行されます。この校正により、カメラのモータからノイズが発生されることがあります。このノイズは、ハードウェアの問題を示すものではなく、ノイズレベルの特性はカメラによって異なる場合があります。校正プロセスによって、カメラのエラーメッセージがログに作成される場合もあります。他のシナリオ (システムがスタンバイ状態になるかスタンバイ状態から復帰するとき以外) でこの問題が発生する場合は、さらにトラブルシューティングを行うために TAC に連絡してください。</p>

Cisco TelePresence SX80、 MX700、MX800、MX800D	<p>帯域幅の制限</p> <p>これらのシステムで使用できる最大帯域幅は、エンドポイントの高負荷に関連した制限により、6000 Kbps（以前は 10000 kbps）に制限されます。これに対する修正が今後のリリースで計画されています。</p>
SIP	<p>SIP リッスンポート診断警告</p> <p>SIP プロキシに登録する際に SIP リッスンポートが有効になっていると、Web インターフェイスに「SIPListenPortAndRegistration」という診断警告が表示されます。SIP プロキシに登録する際は、SIP リッスンポートをオフにすることをお勧めします。</p>
H.265	<p>H.265 は SIP でのみ機能します</p> <p>H.265 プロトコルは SIP でのみ機能し、現在、SX80/MX700/MX800/MX800D および Cisco Webex Room シリーズ (p2p) でのみサポートされています。</p>
Cisco TelePresence Server を 使用したマルチストリーム	<p>この機能は廃止され、CE9.0.0 以降ではサポートされません。</p>
Cisco Intelligent Proximity	<p>質問とサポートについては、Cisco サポート フォーラムを参照してください http://www.cisco.com/web/go/proximity-support トラブルシューティング ガイド https://supportforums.cisco.com/document/12159326/troubleshooting-guide-cisco-proximity 強力なセキュリティ モード (JITC)</p> <p>強力なセキュリティ モードを有効にすると、Proximity のトラフィックはコラボレーション エンドポイント から意図的にブロックされます。システムの強力なセキュリティ モードが有効な場合は、Proximity をオフにする必要があります。</p> <p>ミーティング中の Proximity を使用した共有および 1440x900 の解像度の送信は、コーデックのクラッシュを引き起こす可能性があります。この問題は、CE9.1.3 で解決される予定です。回避策は、お使いの PC または MAC で異なる解像度を設定することです。</p> <p>高負荷の問題のために SX80/MX700/MX800 がブリーフィングルーム モードであるときには、クライアントとのコンテンツ共有は無効になります。</p>
Cisco Webex Room Navigator	<p>正常にペアリングするには、サポートされているソフトウェアバージョン（ハードウェアリビジョンのセクションを参照）を実行しているサポートされるデバイスに Cisco Room Navigator を接続する必要があります。</p> <p>場合によっては、たとえば、コーデックの置き換えの場合に、Room Navigator 用のソフトウェアがインストールされていない可能性があります。解決策としては、Cisco.com からダウンロードできる .cop ファイルを使用してコーデックファームウェアを再インストールします。一括展開で、.cop ファイルが CUCM に正しくインストールされた場合、CUCM は Room Navigator 用のソフトウェアも提供します。</p>

Touch 10	<p>バグ ID : CSCum67440</p> <p>パネルの起動時にエリアに触れると、Touch 10 コントローラの画面上でそのエリアが動かなくなる場合があります。起動フェーズで、タッチ校正処理が行われるためです。このときに何かタッチパネルに触れると、そのエリアは Touch 10 が再起動されるまで機能を失う可能性があります。これを避けるため、ブート中にはタッチパネルに触れないでください。</p> <p>TC から CE へのアップグレード後には、Touch 10 を再起動する必要があります。</p> <p>ソフトウェアの制限により、リモートでペアリングされた Touch 10 は、TC から CE へのアップグレード後にハングする可能性があります。この問題を解決するため、Touch 10 の電源を切断して再接続すると Touch 10 は再起動します。</p> <p>ファシリティ サービス</p> <p>ファシリティ サービスは Touch 10 でのみサポートされます。</p>
Web エンジン	<p>バグ ID : CSCvv64571</p> <p>CE9.13.x から CE9.9.3、CE9.10.1、またはそれ以前のバージョンにダウングレードする場合、セッションおよび Cookie が保存されない場合があります。兆候としては、最近ログインした Web 領域に、同じセッション内でたびたびログインする必要があるケースが考えられます。</p> <p>回避策としては、デバイスを初期状態にリセットするか、修正済みのバージョンにアップグレードします。</p> <p>CE9.9.4 以降 CE9.10.2 以降 CE9.12.3 以降</p>
Web インターフェイス	<p>バグ ID : CSCul35568</p> <p>Windows XP で実行中の IE8 の暗号スイートのサポートがないために、Cisco のセキュリティ要件による HTTPS アクセスができません。Chrome、Firefox、Opera ブラウザは問題なく動作します。これらのブラウザには、必要な暗号スイートのサポートがあります。IE8 は、Windows Vista、Windows 7、Windows 8 では正常に動作します。</p> <p>TLS 1.0 のサポート廃止</p> <p>TLS 1.1 以上をサポートするブラウザを使用してください。</p> <p>HTTPS モード (CE9.4.0 では HTTP+HTTPS から HTTPS に変更)</p> <p>この変更が影響を受ける可能性の詳細については、「このソフトウェアのバージョンの重要な注意事項と警告」のセクションを参照してください。</p>

IE11 が CE9.7.1 で Web インターフェイスをレンダリングする際に問題が発生する (CE9.7.2 で修正)

オーディオコンソールでは、IE11 と今後のソフトウェアリリースで問題が発生する可能性があることに注意してください。また、更新がブラウザで正しく処理されないため、マクロエディタも使用できません。別のブラウザを使用してください。

Webインターフェイスを介してcopファイルをアップロードすると、ファイルサイズが大きすぎると警告が表示されます。

これは、1 GB を超える最新の警官ファイルに関する問題です。Web インターフェイスのアップロード制限は 1 GB でした。この問題は、CE9.8.2、CE9.9.1 および上記で解決されています。この問題が発生した場合は、新しいバージョンにアップグレードする前に、ステップアップグレードソフトウェアを使用してアップグレードしてください。この問題は、Cisco Webex Room シリーズ デバイスが、Web インターフェイス経由で cop ファイルを使用してアップグレードする場合にのみ影響します。UCM やその他の方法によるアップグレードは、この影響を受けません。

HTTP レート制限

エンドポイントの安定性とセキュリティを向上させるために、CE9.8.3 以降では、HTTP サーバがリクエストを処理する方法が変更されました。そのうちの 1 つがレート制限です。

1 秒あたりに処理される最大リクエスト数：

認証済み：1 (キュー 30)

セッション Cookie の使用 (通常)：15 (キュー 90)

これらの値の意味を説明するために、たとえば、「認証済み」の方法を上げます。

一度に 30 件の認証済み HTTP リクエストを送信すると、最後のリクエストに対する応答が得られるまでに 30 秒以上かかります。31 件のリクエストを送信し、すべてのリクエストが同時に受信されたとすると、31 番目のリクエストでは http 503 応答が返されます。

レート制限 (1 秒あたりの最大リクエスト数) に達した場合、他のリクエストが処理されるまで、リクエストはキューで待機します。キューがいっぱいになるまでこれが発生すると、新しいリクエストはキューに登録されずに http 503 応答が返されます。

新しいバージョンのソフトウェア (CE9.12 x 以降) では、リクエストのレートが制限されたときにログに記録されます。

SNMP	<p>CE9 は、SNMPv2 の基本的なサポートを備えています。カスタム MIB はサポートされません。</p> <p>バグ ID : CSCtq44757</p> <p>コラボレーション エンドポイント ソフトウェアは、デフォルトの SNMP コミュニティ スtring により設定されます。これは、「プラグ アンド プレイ」機能に必要です。SNMP コミュニティ スtring はクレデンシャルとして処理する必要があり、したがって、初期設定後に変更する必要があります。</p> <p>SNMPv1 は CE9 でサポートされない</p> <p>SNMPv1 が CE9 ではサポートされていないため、他のバージョンの SNMP を使用することをお勧めします。</p>
セキュリティ	<p>バグ ID : CSCtr32420</p> <p>コラボレーション エンドポイント ソフトウェアとともに出荷されるコーデックは、Cisco の標準パスフレーズ ポリシーに適合しません。システムが侵害されるのを避けるため、インストール時にユーザがシステムのパスフレーズを設定することを推奨します。</p>
暗号化	<p>バグ ID : CSCvd33159</p> <p>AES-256 暗号化アルゴリズム (CE8.3.0 からの SIP でサポートされる) により、このサポートがないエンドポイント (E20 など) との相互運用性の問題が発生することがあります。CE8.3.3 と CE9.1.3 からは、このアルゴリズムをコーデック キャップ セット フィルタに追加して除去することで、問題を回避できます。</p>
IPv6	<p>バグ ID : CSCuo94615</p> <p>DHCPv6 のオプション 242 は、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。</p>
管理	<p>CE8.1.0 以降を実行するエンドポイントで、HTTPS に対する TLS 1.0 がサポートされません。</p> <p>CE8.1.0 以降 (CE9.x を含む) へのアップグレード後、TMS に HTTPS 応答が表示されない場合は、TMS サーバで TLS1.1 または TLS1.2 が有効になっているかを確認してください。</p>
カメラ プリセット	<p>バグ ID : CSCux71105</p> <p>TC ソフトウェアから CE ソフトウェアにアップグレードすると、すべてのカメラ プリセットが失われます。これは、ハードウェアの制限であり、ソフトウェアでは解決されません。</p>

PresenterTrack	<p>PresenterTrack が MultiSite コールで無効である</p> <p>MultiSite コールでは、PresenterTrack 機能を使用できません。</p> <p>PresenterTrack は、CE9 以降の CMS を使用したデュアル スクリーンの通話で動作します。</p> <p>トリガー ゾーンの設定</p> <p>Web インターフェイスでトリガーゾーンを設定する場合は、既知の制限があります。([保存 (save)] ボタンを押すかどうかに関わらず) 青い四角を移動または配置すると常に、トリガーゾーンが保存されます。エンドポイントのセルフビューに表示される青い四角は、設定を Web から手動で保存するか、または Touch 10 から PresenterTrack のプリセットをアクティブ化するまで消えません。</p>
SpeakerTrack	<p>フェイス マスク</p> <p>SpeakerTrack 60 (および Quad Camera 搭載の SX80) では、特に暗い条件で、フェイスマスクを使用している人の顔検出が難しくなります。</p> <p>Cisco Webex Room シリーズ搭載の SpeakerTrack (Quad Camera および Room Kits などへの統合カメラ) は改善され、顔の代わりに頭部を検出する「頭部ディテクタ」が追加されました。また、これは部屋内の「頭」のある物体の検出頻度も増加する可能性があることに注意してください。この機能により、部屋内の人がフェイスマスクを使用しているミーティングでのエクスペリエンスが向上します。</p>
ブリーフィングルーム	<p>CE9.0.x と CE9.1.x でブリーフィングルームが正常に動作しません</p> <p>前述のソフトウェアで、ブリーフィングルームの機能が予期どおりに動作しなくなる複数の問題があります。これらのソフトウェアのバージョンでブリーフィングルームを使用するユーザは、無効にするか、最新の利用可能な CE8.3.x バージョンにダウングレードすることをお勧めします。これは、CE9.2.1 で解決されます。</p> <p>バグ ID : CSCvd83107</p> <p>CE8.x 以前から CE9.x にアップグレードする際、アップグレードの実行前にブリーフィングルーム モードが有効になっていた場合は、コントロールが表示されるようにするために、一旦ブリーフィングルーム モードを無効化してからもう一度有効化する必要があります。</p> <p>また、既存の室内制御設定がある場合は、その設定のバックアップを取ってください。この操作を実行すると、ホーム画面や着信コールに設定されている既存のパネルはすべて上書きされます。ブリーフィングルームは、レイアウトを制御するために室内制御を使用しています。新たな室内制御はすべて、既存のブリーフィングルーム コントロール パネルに追加する必要があります。</p> <p>CE9 で室内制御が有効になっている状態で CE8 にダウングレードすると、CE9 で有効化されていたコントロールがそのまま表示されますが、それらのコントロールは機能していないので室内制御エディタで削除して構いません。</p> <p>CE9.2.1 から、ブリーフィングルーム モードでは MX700 および MX800 でのエコー キャンセリングはモノに変更されています。</p>

スタートアップ ウィザード	<p>スタートアップ ウィザードがアクティブな間、システムによって [応答不可 (Do Not Disturb)] モードが意図的に有効化されます。スタートアップ ウィザードがアクティブな間、DND モードはオフにできません。スタートアップ ウィザードを削除するには、手順に従ってスタートアップ ウィザードを正常に終了するか、「RunStartupWizard」の値を [False (False)] に設定してオフにします。スタートアップウィザードがアクティブな場合、Web インターフェイスで診断メッセージがアクティブになり、ウィザードをオフにできるように設定へのリンクが表示されます。この操作は、システムを手動で設定する必要のある上級ユーザ以外には行わないでください。</p>
プレゼンテーション	<p>バグ ID : CSCuh68226</p> <p>MacBook Air で VGA ドングルに MiniDisplay ポートを使用すると、ビデオをコンテンツとして表示して共有することができません。MacBook Pro では、問題なくコンテンツはビデオとして表示されます。これは Apple の問題であると考えられます。</p>
カスタム壁紙 カスタムブランディング	<p>バグ ID : CSCvb67596</p> <p>カスタム壁紙を使用したシステムでは、カスタムブランディング、時計、[今日の予約 (today's bookings)]、[ワンボタンでプッシュ (One Button to Push)] などの画面上の要素が表示されません。この制限は、カスタマイズされた壁紙にこれらの要素がどのように表示されるかが確かではないため、意図的に設けられたものです。Touch 10 により操作されるシステムと比べて、Cisco TelePresence SX10、SX20、DX70、および DX80 のようなオンスクリーンで操作されるシステムはこの制限事項の影響が大きくなります。これは、これらのシステムに OBTP 参加機能がないためです。以前のリリースでこの回避策が導入されました。この回避策により、ミーティングの開始時 (事前アラームはサポート外) にミーティング アラームが画面に表示され、カスタム壁紙が設定されたオンスクリーンで操作されるシステムでも OBTP を使用してミーティングに参加できるようになりました。注：このアラームを無視した場合、ミーティングには手動で参加する必要があります。</p>
新しいウェイクアップ エクスペリエンス モーション検知ウェイクアップ	<p>Proximity モードを有効にする必要があります</p> <p>現在、WakeUpOnMotionDetection が機能するには、Proximity モードが有効に設定されている必要があります。エンドポイントは、Proximity がオフになっている場合、超音波を出しません。Proximity サービスが有効になっている必要はなく、Proximity モードのみが必要です。</p> <p><i>この制限は CE9.6.1 で解決され、近接モードの「オン (On) 」は必要なくなりました。</i></p> <p>WakeUpOnMotionDetection が、Cisco TelePresence SX10 QuickSet または Cisco Webex DX70 でサポートされていません</p> <p>ハードウェアの制限により、SX10 と DX70 は、WakeUpOnMotionDetection 機能をサポートしません。この設定は引き続き使用可能で、オンにすることができますが、予期どおりに機能しない場合があります。この機能は、これらのシステムに対して将来サポートされる可能性があります。</p> <p>DX80</p> <p>WakeUpOnMotionDetection はサポートされていますが、デフォルトでオフになっています。</p>

DX の Bluetooth	<p>ヘッドセットが装着された場合に有効化されるスマート センサーなど、一部の機能は、ビデオ システムとうまく連携しません。Cisco Webex DX70 および DX80 と一緒に使用する場合は、これらの機能をオフにしてください。</p>
HTTP プロキシ	<p>自動設定</p> <p>場合によっては、自動構成ではすぐに Webex チームに登録できません。ソフトウェアが更新され、登録することが必要になるまで数分待機してください。それでも問題が解決されない場合は、手動プロキシ設定を使用します。この問題に対する修正は、今後のリリースに組み込まれる予定です。</p>
マクロ フレームワーク	<p>マクロフレームワークはコーデックでコードをローカルに実行し、現在では xAPI に分離されています。マクロフレームワークを使用してリモートネットワーク接続を受信することはできませんが、CE9.6.1 から、マクロを使用して発信 HTTP POST または PUT を送信できます。</p> <p>サポートされているビデオ システム上では最大 10 個のマクロスクリプトを作成できます。</p> <p>サポートについては、Cisco TelePresence Support フォーラムにアクセスしてください。</p> <p>学習のために次のページにアクセスしてください。 https://developer.cisco.com/site/roomdevices</p>
HttpClient	<p>着信応答ペイロードまたはヘッダーの読み取りはサポートされない</p> <p>HttpClient 機能は、要求が行われた後にステータスコードまたはエラーの説明を返しますが、要求の応答ペイロードを読み取ることはできません。 <i>CE9.8 以降で解決済み。</i></p> <p>HTTPS 要求を送信するには、CA 証明書が必要です</p> <p>デフォルトでは、コーデックはサーバ証明書の検証を試行します。リモートホストの証明書を確認できる CA が存在しない場合、要求は失敗します。有効な CA 証明書をアップロードするか（推奨）、安全でない HTTPS 要求を許可するようにデバイスを設定します（非推奨）。</p>

Wi-Fi	<p>WPA-EAP</p> <p>現在、期限切れ証明書に対する診断メッセージがありません。</p> <p>CA 証明書</p> <p>CA 証明書は、エンドポイントごとにアップロードする必要があります。CE9.2.1 より前のソフトウェアのバージョンを実行している複数のエンドポイントに証明書を一括配布する方法は、現在のところありません。エンドポイントは、CA 証明書を必要とする WPA-EAP 対応ネットワークに接続しようとする前に、証明書をアップロードするために有線ネットワークまたは WPA2-PSK 無線ネットワークのいずれかに接続する必要があります。</p> <p>ビデオシステムが Wi-Fi で接続されているときに、ネットワークがペアリングされた Touch 10 がサポートされません</p> <p>この接続が機能したとしても、Wi-Fi パスワードが変更されるなど、何らかの理由で Wi-Fi 接続が失われてしまうと、面倒なシナリオに陥ります。Wi-Fi 接続を再構成するには、Touch 10 を再接続する前に、ビデオシステムと Touch 10 の間で直接のペアリングを設定する必要があります。ビデオシステムが Wi-Fi 接続を使用している場合、Touch 10 とビデオシステムを直接ペアリングすることをお勧めします。</p>
Cisco Webex Quad Camera	<p>Cisco Webex Room Kit Plus カメラのアップグレードの問題</p> <p>Cisco Webex Room Kit Plus の脆弱性が発見されました。Cisco Webex Codec Plus で初期設定へのリセットが実行されると、ソフトウェアがすでに同期されていない場合、カメラソフトウェアへのリンクが削除され、コーデックは Cisco Webex Quad Camera にアップグレードできないままとなります。回避策は CE9.1.1 を再インストールすることでしたが、このリリースは提供停止となりました。問題は、CE9.1.2 以降で解決されています。</p> <p>CE9.12.3 で SX80 を使用すると SpeakerTrack が機能しない</p> <p>CSCvt92597</p> <p>CE9.12.3 のバグにより、Quad Camera を SX80 と組み合わせて使用すると、SpeakerTrack 機能が動作を停止します。解決策としては、ソフトウェアをダウングレードするか、CE9.12.4 が提供されたらアップグレードします。</p>
ISDN リンク	<p>ISDN リンクでは、コーデックおよび CE、CE9.3.0 以降で IPv6 を有効にする必要があります。</p>
Cisco Webex Room シリーズ	<p>H263 コンテンツチャネルのサポート (CE9.4.0)</p> <ul style="list-style-type: none"> - メインビデオチャネルでは H263 はサポートされていません。

ソフトウェア アップグレード	<p>ソフトウェアのアップグレード</p> <p>CUCM を使用したソフトウェアのアップグレード</p> <p>Cisco Webex Room シリーズ以降のデバイスを CUCM 経由でアップグレードする場合は、<u>拡張子を使用しないでください</u>。電話機のロードまたはデフォルトのロードを指定するときに、“.pkg” またはその他の拡張子を指定しないでください。次に例を示します。</p> <p>プラットフォーム固有のパッケージ：</p> <p>s53200ce9_15_0_13-82cc7e2121d.pkg (誤り)</p> <p>s53200ce9_15_0_13-82cc7e2121d (正しい)</p> <p>Super Cop (すべての製品のすべてのソフトウェアバージョンを含む)：</p> <p>ce9_15_0_13-82cc7e2121d (正しい)</p>
オーディオ コンソール	<p>オーディオコンソール UI でイコライザ間で選択できるだけで、作成することはできないため、xAPI を介してイコライザを作成する必要があります。</p> <p>「非アクティブビデオでミュート (Mute on inactive video)」が設定されている HDMI 入力コネクタを追加すると、最初に追加されていないように見えます。そして 2 回目に追加する必要があります。</p> <p>オーディオコンソールを設定すると、設定はライブで更新されますが、保存されるまでマクロには保存されません。オーディオコンソールの設定を保存しない場合、デバイスを再起動すると失われます。</p>
HDCP	<p>デバイスがスタンバイに入っていません</p> <p>たとえば、Google Chromecast を接続した場合、スタンバイアクティビティによって Chromecast がコーデックに「アクティブ」信号を送信し、再起動を強制するため、デバイスはスタンバイに入ることができません。</p> <p>すべてのコンテンツは、有効になっている場合は HDCP と見なされます。</p> <p>HDCP をサポートするように入力の設定されている場合、この入力に接続されているものは、そうでない場合でも、HDCP コンテンツと見なされます。これにより、コール中にこのポートからコンテンツを共有することができなくなります。以前と同じ方法で、何かをローカルに共有することができますが、デュアル スクリーンデバイスでは、1 画面でのみコンテンツを表示できることに注意してください。会議室デバイスが 1 つまたは 2 つの HDCP 出力をサポートしているかどうかを確認します。</p>

CMS 会議への参加者の追加	<p>Sip でのみ動作し、H323 には機能しません。</p> <p>CMS 2.4 が必要</p>
TRC6 リモート制御	<p>CSCvm79929</p> <p>CE9.3.0 以降では、TRC6 リモートコントロールを使用して文字を入力することはできていません。文字入力にオンスクリーンキーボードを使用してください。</p>
タッチの再ダイレクト	<p>通話中でない場合にのみ Touch 転送を使用できます。</p> <p>Touch の再ダイレクト モードでは、注釈を開始したり、プレゼンテーションを停止したりできないという既知の制限事項です。これは、タッチ オーバーレイが画面全体を覆っているためです。USB-CケーブルとHDMIケーブルを抜いてプレゼンテーションを停止します。</p> <p>WebEXボードにタッチ10コントローラが接続されている場合、USB-Cケーブルが接続されている間はセルフビューイメージを移動できません。</p> <p>タッチの再ダイレクトを使用している間に着信を受け入れると、接続は自動的にオフになります。コールが終了した後に再びタッチを再び確立するには、ケーブルを再接続する必要があります。</p> <p>タッチの再ダイレクト機能では、Windows 10 以上を実行しているラップトップのみがサポートされます。一部のシナリオで動作するか、他の OS で特定のタッチ ドライバーを使用する場合、TAC は Windows 10 以外の OS での問題をサポートしないことに注意してください。</p>
Webex Meetings	<p>Webex Meetings のアクティブコントロール</p> <p>Webex ミーティングにコールしているオンプレミスのデバイスには、現在、Webex に登録済みまたはリンクされたデバイスにあるミーティングと同じコントロールオプションはありません。DTMF トーンを介して使用できないいくつかのアクションがまだあります。Webex ミーティングに送信して特定のアクションを呼び出すことができる有効な DTMF トーンのリストについては、https://help.webex.com/ja_jp/nli1uz4/DTMF-Commands-for-Video-Device-Enabled-Cisco-Webex-Meetings をご覧ください。</p>

Webex Edge for Devices	<p>現在、Webex Edge for Device にリンクされているデバイスをサポートされていないバージョン（例えば CE9.9.x）にダウングレードすると、デバイスはクラウドに登録されていると考え、特定の機能をロックダウンします。解決策は、デバイスをサポートされていないバージョンにダウングレードする前に、デバイスを工場出荷時のデフォルトにリセットすることです。</p> <p>注：2020 月 5 月以降の新規のお客様がデバイスをクラウドにリンクするためには、CE9.12.3 以降が必要です。</p> <p>デバイスを Webex Edge for Devices にリンクするには、暗号キーが必要です。</p> <p>既知の問題：Hybrid Calendar が有効になっている CSCvw51659 TMS 管理対象システムで、TMS が予約を上書きする可能性があります。これは、CE9.15.0.11 以降で解決されています。</p>
拡張ロギング	<p>拡張ロギングはトラブルシューティングの機能であり、使用時に大量のリソースを消費します。拡張ログを有効にすると、実稼働のコールで予期しない動作が発生する可能性があります。まれに、リソース消費によりデバイスがクラッシュする場合があります。したがって、この機能は、問題を再現するときにより多くのデータ収集が必要な場合にのみ有効にする必要があります。</p>

相互運用性

相互運用性のセクションでは、このリリースで相互運用性がテストされた機器とソフトウェア リビジョンについて説明します。注：このセクションに記載のないデバイスやリビジョンは、相互運用性がないというわけではありません。

H.323 ゲートキーパー/トラバーサル サーバ

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco TelePresence System Video Communication Serve (VCS)	X8.x	Assent と H.460.18/.19 トラバーサルの両テクノロジーがサポートされる
Cisco Expressway	X12.x	

SIP レジストラ/プロキシ

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
CUCM	9.1(2)、10.5、11.0、11.5、12.0、14.0	常に最新のデバイス パック/バージョンを使用することをおすすめします。
Cisco TelePresence System Video Communication Serve (VCS)	X8.x	
Cisco Expressway	X12.x	

ゲートウェイの相互運用性

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco ISDN Link	IL1.1.7、IL1.1.8、IL1.1.9	CE9.3.0 以降
Cisco ISDN GW 3241	2.2	

MCU の相互運用性

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco Meeting Server (CMS)	2.x	
Cisco Telepresence Server 7010	4.3(x.x)	
Virtual TelePresence Server	4.3(x.x)	
Cisco Telepresence Server MSE 8710	4.3(x.x)	
Cisco MCU 53xx	4.5(x.x)	
Cisco MCU 42xx	4.5(x.x)	
Cisco MCU 45xx	4.4, 4.5(x.x)	
Cisco CTMS	未サポート	CTMS は、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。

ストリーミング サーバ

機器	ソフトウェア リビジョン	説明
Cisco TelePresence System Content Server	TCS7.x	

管理サーバ

機器	ソフトウェア リビジョン	説明
CTS マネージャ	未サポート	CTS マネージャは、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。

TelePresence Management Suite	15.13	最新製品の管理をサポートするために、TMSの最新バージョンをお勧めします。
-------------------------------	-------	---------------------------------------

エンドポイントの相互運用性

一般情報	既知の影響を受けるエンドポイント		説明
H.265 の相互運用性	Polycom Lifesize Vidyo		シスコでは、H.265 エンドポイント (SX80、MX700、MX800、MX800D、および Cisco Webex Room シリーズ) とサードパーティのエンドポイントとの相互運用性の問題を確認しています。症状としては、一方または両方の方向からのビデオが着信されません。 一部のケースでは、この問題を解決できる回避策は、上記の Cisco エンドポイントで H.265 を無効にすることです。Web インターフェイスより、[システム設定 (System Configuration)] で「H265」を検索し、[実験用会議 1 ビデオプロトコル H265 無効化 (Experimental Conference 1 VideoProtocol DisableH265)] を [オン (On)] に設定してください。
Cisco	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Cisco TelePresence System 500シリーズ 3x00 シリーズ 1x00 シリーズ TX9000 TX9200 TX1310	1.10.7 (Ten Bears)	SIP	最大解像度 720p30 ポイントツーポイント
Cisco TelePresence System CTS500-32 TX1300 TX9000 TX9200	TX6.0.2 (Lago)	SIP	Lago 1G コーデックで 1080p30/60 のサポート

Cisco TelePresence MX G1 シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco TelePresence EX シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco TelePresence C シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco IP Video Phone E20	TE4.1.x	SIP/H.323	
Sony	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Sony PCS-1		H.323/SIP	デュアル ストリームは 1 FPS に制限されます。 メイン ビデオのフレーム レートは 15 FPS を超えることはありません。
Sony PCS-XG80		H.323/SIP	SIP 遠端カメラ制御が機能しません。 SIP 暗号化コールが機能しません。 SIP/H.323 転送が機能しません。 Sony はプレゼンテーション (BFCP) を開始できません。
Lync	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Microsoft Lync	2013	VCS x8 からの VCS トランク経 由での SIP	2013 年 9 月にリリースされた VCS X8 が 必要です。
Polycom	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Polycom VSX 7000		H.323/SIP	ビデオ レートが低く、メイン ビデオがシャープネスに設定されている場合、VSX にビデオは表示されません。 SIP/H.323 転送が機能しません。 H.264 は低帯域幅でのみ使用されます。
Polycom Real Presence Group 500		H.323/SIP	FECC 制御が着信コールで動作しません。 H.323 無人転送が着信/発信コールで失敗します。 発信コールでの CE から CE への SIP 無人転送にビデオが含まれません。

Polycom Real Presence Group 300		H.323/SIP	FECC 制御が発信/着信コールで使用できません。 H.323 無人転送が発信コールのすべてのコールを切断します。 発信コールでの CE から CE への SIP 無人転送にビデオが含まれません。 H.323 無人転送は成功しますが、着信コールの両端でビデオが失われます。
Polycom HDX 9000		H.323/SIP	
Polycom HDX 8000 HD		H.323/SIP	CE エンドポイントへの発信コールの SIP にビデオが含まれません。
Polycom GS500		H323	CE ソフトウェアを実行しているシスコデバイスから 2048 ビット暗号化および FIPS を使用している場合、GS500 に対する暗号化されたコールは接続されません。暗号化を Max1024bit に設定するか、コールを動作させるには暗号化をオフにします。

カメラ

機器	ソフトウェア リビジョン	説明
Webex PTZ 4K	CE9.14.5 以降	プレミアムパン、チルト、ズームカメラ。 SX80 Codec を除くスタンドアロンのプレジジョン 60 もサポートしているデバイスで動作します。 互換性のあるデバイスの例 : Cisco Webex Codec Plus、Cisco Webex Codec Pro (Webex Room 55、Webex Room 70 などに基づくシステムを含む) RoomOS 10.3.x 以降を実行する Room、Desk、Board デバイスの発言者追跡。
ソニー SRG-120DH ソニー EVI-120DH (PTZ-12)	なし	パン、ティルト、ズーム機能はサポートされます。プレゼンタートラッキングはありません。 スタンドアロンのプレジジョン 60 もサポートしているデバイスでも動作します。 例 : Cisco Webex Codec Plus、Room Kit Pro、Cisco TelePresence SX80
サードパーティのカメラ	なし	サードパーティ製カメラはシスコのコーデックで動作できますが、テストされていないため、機能は保証できません。TAC サポートは拒否または制限される場合があります。

最適な相互運用性を実現するためのCisco の推奨画面

Cisco では、最高のビジュアルエクスペリエンスと検証済みの CEC 2.0 互換性を実現するため、次の LG および Samsung デジタルサイネージ画面を Cisco Webex ルームシリーズやその他のルームデバイスと併用することを推奨します。

モデル	LG グローバル Web サイト リンク
49" UHD (49UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-49UH5C
55" UHD (55UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-55UH5C
65" UHD (65UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-65UH5C
75" UHD (75UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-75UH5C
86" UHD (86UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-86UH5C
98" UHD (98UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-98LS95D

モデル	LG グローバル Web サイト リンク
QMN シリーズ (43"、49"、55"、 65"、75")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1269/QM43N
QMH シリーズ (49"、55"、65")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1144/QM49H
QBN シリーズ (43"、49"、55"、 65"、75")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1274/QB43N
QBH シリーズ (65"、75")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1205/QB65H

高品質な HDMI 2.0 対応ケーブルの使用を推奨します。低品質なケーブルでも動作する場合がありますが、画質に影響を及ぼす可能性があります。問題発生時に高品質なケーブルを使用できない場合は、短い HDMI ケーブルをお試しください。

xAPI の変更

エンドポイントの設定は、xAPI コマンドラインからでなく Web インターフェイスから行うことを推奨します。

xAPI からの場合、管理ユーザは関連のコマンドと設定のサブセットにしかアクセスできません。Web インターフェイスでは、管理ユーザはすべての設定を使用でき、システムを完全に管理できます。リモートサポート ユーザは、使用している場合、xAPI コマンドの完全なリストにアクセスできます (TAC 契約が必要)。

特定の xAPI の変更はリリースノートに公開されません。インテグレート製品の Cisco API のリファレンス ガイドは、以下のリンクより参照してください。

DX70 および DX80 : http://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/products-command-reference-list.html

MX シリーズ : http://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/telepresence-mx-series/products-command-reference-list.html

SX シリーズ : <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/products-command-reference-list.html>

Cisco Webex Room シリーズ : http://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/products-command-reference-list.html

Cisco Webex Boards : https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/spark-board/products-command-reference-list.html

Cisco TelePresence systems のハードウェア 依存

概要

ハードウェア コンポーネントの更新に伴い、新たに製造されたエンドポイントで古いソフトウェアを実行する場合の制約が生じることがあります。エンドポイントの互換性レベルを確認するには、エンドポイントの Web インターフェイスにアクセスし、[設定 (Configuration)] > [システム ステータス (System Status)] > [システム ユニット (SystemUnit)] の順にクリックします。このページで、[互換性レベル (Compatibility level)] までスクロールします。次の表を使用して、エンドポイントの互換性レベルに基づいてソフトウェアの制約を判別することができます。

サポートされないソフトウェアのバージョンにダウングレードすると、障害が発生します。

最新のソフトウェアリリースは、以前のハードウェア リビジョンと後方互換性があります。

SX10

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの 最小バージョン	
			CE8	CE9
0	SX10	該当なし	すべて	すべて
1	SX10	該当なし	すべて	すべて
2	SX10	該当なし	すべて	すべて
3	SX10	該当なし	すべて	すべて

SX80、MX700、MX800、MX800 Dual

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの 最小バージョン	
			CE8	CE9
0	SX80	該当なし	すべて	すべて
0	MX700/MX800/MX800D	該当なし	すべて	すべて

SX20、MX200 G2 および MX300 G2

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの 最小バージョン	
			CE8	CE9
2	SX20	該当なし	すべて	すべて
3	SX20	該当なし	すべて	すべて
4	SX20	該当なし	すべて	すべて
5	SX20	該当なし	すべて	すべて
0	MX200 G2	該当なし	すべて	すべて
1	MX200 G2	該当なし	すべて	すべて
2	MX200 G2	該当なし	すべて	すべて
0	MX300 G2	該当なし	すべて	すべて
1	MX300 G2	該当なし	すべて	すべて
2	MX300 G2	該当なし	すべて	すべて

DX シリーズ

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの 最小バージョン	
			CE8	CE9
0	DX70	なし	8.2.0	すべて
0	DX80	なし	8.2.0	すべて

Cisco Webex Room シリーズ

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの 最小バージョン	
			CE8	CE9
			CE8	CE9
0	Cisco Webex Room Kit	なし	なし	すべて
1	Cisco Webex Room Kit	なし	なし	9.4.1
2	Cisco Webex Room Kit	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
2	Cisco Webex Room Kit Plus	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
0	Cisco Webex Room Kit Plus	なし	なし	9.1.1
0	Cisco Webex Room 55	なし	なし	9.1.3
1	Cisco Webex Room 55	なし	なし	9.4.1
2	Cisco Webex Room 55	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
2	Cisco Webex Room 55 Dual	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
0	Cisco Webex Room 55 Dual	なし	なし	9.4.0
0	Cisco Webex Room 70/70D	なし	なし	9.2.0
2	Cisco Webex Room Kit Pro	なし		9.13.1
0	Cisco Webex Room Kit Pro	なし	なし	9.4.0
0	Cisco Webex Room 70/70D G2	なし	なし	9.4.0
0	Cisco Webex Room Kit Mini	なし	なし	9.6.0
0	Cisco Webex Room USB	なし	なし	9.12.3
0	Cisco Webex Desk Pro	なし	なし	9.12.3

Cisco Webex Board

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの 最小バージョン
			CE9
0	Cisco Webex Board 55	なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 70	なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 55S	なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 70S	なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 85S	なし	9.8.0

シスコ デスク

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの 最小バージョン
			CE9
2	Cisco Webex Desk Pro	なし	9.13.1
1	Cisco Webex Desk Pro	なし	9.13.1
0	Cisco Webex Desk Pro	なし	9.12.3

周辺機器のハードウェアの依存関係

Cisco TelePresence Touch 10 用の新しいハードウェア リビジョン

Touch 10 をサポートするシステムは、Cisco Webex Room シリーズ、SX10(N)、SX20(N)、SX80、MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800 および MX800D です。

タッチ コントローラでは、ハードウェア リビジョン番号は、起動時にタッチ スクリーンの右下に表示されます。現在のソフトウェアと互換性がないソフトウェアに関する Touch 10 画面にエラーが表示された場合は、ルームデバイスソフトウェアを最新の利用可能なバージョンにアップグレードしてください。

ハードウェア リビジョン	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの最小バージョン	
			CE8	CE9
102300-3 102310-0 102310-1	すべて	なし	サポートされるコーデックソフトウェアのバージョンはすべて、互換性がある	
101282-0	すべて	なし	8.3.3	9.1.1

Cisco Webex Room Navigator の新しいハードウェアリビジョン

Cisco Webex Room Navigator をサポートするシステムは、Cisco Webex Room シリーズおよび Cisco Webex Board 55S、70S、85S です。

ハードウェア リビジョン	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの最小バージョン	
			CE9	
101864-0	Cisco Webex Room シリーズ Cisco Webex Board 55S/70S/85S	なし	CE9.14.3	
101864-1	Cisco Webex Room シリーズ Cisco Webex Board 55S/70S/85S	なし	CE9.14.6、CE9.15.0.13	

注：タッチコントローラは、ネットワーク経由でのみ Webex Board に接続できます

Quad Camera の新しいハードウェアリビジョン

Quad Camera をサポートするシステムは、SX80、Room Kit Plus、Room Kit Pro、Codec Plus、Room 70/Room 70 G2 です。

Quad Camera のハードウェアリビジョンは、xStatus を使用して識別できます。

例 xStatus : 周辺機器接続デバイス XXXX ハードウェア情報 : 『73-100746-1』。

ハードウェア情報	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの最小バージョン
			CE9
73-100746-0	すべて	なし	9.1.1 以降
73-100746-1	すべて	なし	9.3.3、9.4.1、9.5.0 以降
73-100746-3	すべて	なし	9.14.7、9.15.3.18

古いソフトウェアがハードウェアをサポートしていない場合、これはデバイスログに「提供された SW はこの HW をサポートしていません (Offered SW does not support this HW) 」として記録されます。

Webex PTZ 4K の新しいハードウェアリビジョン

ハードウェア情報	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの最小バージョン
			CE9
74-126086-01 A0	Codec Plus Codec Pro	なし	9.14.5 以降

Precision 60 の新しいハードウェア改定

Precision 60 をサポートするシステムは、SX80、MX700、MX800 および MX800D、Room kit Plus、Room kit Pro、Codec Plus、および Room 70 です。

Precision 60 カメラの新しいハードウェアリビジョンは、ベースの下にあるステッカーに印刷された実稼働日によって識別されます。ステッカーが存在せず、現在のソフトウェアのバージョンと互換性がないカメラに関するエラーメッセージが画面に表示されている場合は、ルームデバイスを最新のソフトウェアにアップグレードしてください。

製造日	適用可能なシステム	説明	ソフトウェアの最小バージョン
			CE9
2018 年 7 月 以前	すべて	なし	サポートされるコーデックソフトウェアのバージョンはすべて、互換性がある
2018 年 8 月 以降	すべて	なし	9.3.3、9.4.1、9.5.x、9.6.x 以降

次の表には、このマニュアルで参照されるドキュメントおよび Web サイトを示します。すべての製品ドキュメントはシスコの Web サイトにあります。

名前	参照ドキュメント
シスコの Web サイト	http://www.cisco.com
Cisco Software のダウンロード	http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html?i=!ch
Cisco TelePresence User Documentation	http://www.cisco.com/go/TelePresence/docs

最新のソフトウェア ファイル名

次の表に、リリース済みのソフトウェア ファイル名を示します。

Cisco コラボレーション エンドポイント	暗号化および暗号化なし* : CUCM 用	暗号化および暗号化なし*	暗号化および暗号化なし* バンドル** : CUCM 用
SX10	cmterm- s52030ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- s52030ce9_15_17_4.k4.cop. sha512	s52030ce9_15_17_4.pkg	cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- ce9_15_17_4.k4.cop. sha512
SX20	cmterm- s52010ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- s52010ce9_15_17_4.k4.cop. sha512 cmterm- s52011cenc9_15_17_4.k3.cop. sgn	s52010ce9_15_17_4.pkg s52011cenc9_15_17_4.p kg	cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop.sgn *** ce9_15_17_4.k4.cop. sha512***
SX80、 MX700、 MX800、 MX800デュアル	cmterm- s52020ce9_15_17_4.k3.cop.sgn	s52020ce9_15_17_4. pkg	cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop.sgn ce9_15_17_4.k4.cop. sha512
MX200 G2、 MX300 G2	cmterm- s52010ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- s52010ce9_15_17_4.k4.cop. sha512	s52010ce9_15_17_4. pkg	cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop.sgn ce9_15_17_4.k4.cop. sha512
DX80、DX70	cmterm- s52040ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- s52040ce9_15_17_4.k4.cop. sha512	s52040ce9_15_17_4. pkg	cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop.sgn ce9_15_17_4.k4.cop. sha512
変換の負荷	なし		

Cisco コラボレーション エンドポイント	暗号化および暗号化なし* : CUCM 用	暗号化および暗号化なし*	暗号化および暗号化なし* バンドル** : CUCM 用
Room シリーズ ボードシリーズ Room 55/70	cmterm- s53200ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- s53200ce9_15_17_4.k3.cop. sha512	CE9.9.0/9.8.1 からのス テップアップグレード s53200ce9.15.6-step- upgrade.pkg	cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop. sha512
Room Kit Pro Room 70 G2 Panorama Desk シリーズ	cmterm- s53300ce9_15_17_4.k3.cop.sgn cmterm- s53300ce9_15_17_4.k3.cop. sha512	CE9.9.0/9.8.1 からのス テップアップグレード s53300ce9.15.6-step- upgrade.pkg	cmterm- ce9_15_17_4.k3.cop.sgn ce9_15_17_4.k3.cop. sha512

* SX20 は非暗号化に別個のソフトウェアイメージが必要な唯一の製品です。他のすべての製品（Cisco Webex Room Series、DX70、および DX80 を除く）では、無料の暗号化オプションキーにより制御されています。

** この Cisco Options Package では、すべての CE プラットフォームのソフトウェアパッケージが 1 つのファイル内に含まれています。

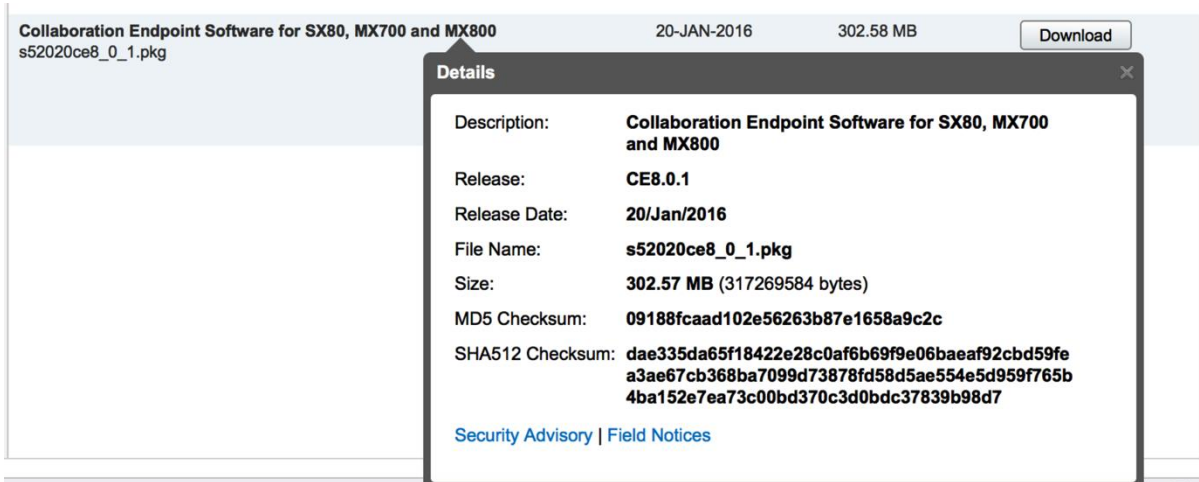
*** COP バンドルには、SX20 用の非暗号化パッケージは含まれない

UCM 14 以降では、使用されるファイル名は .k4.cop.sha512 になることに注意してください。

CE9.15.3.x は、Room、Board、Desk Series デバイスの最後のリリースです。これらのデバイスは、今後 RoomOS10 にアップグレードする必要があります。

ソフトウェア整合性の確認

cisco.com からダウンロードしたソフトウェア イメージの整合性を確認するには、SHA512 チェックサムを計算し、それがソフトウェアのダウンロード ページに記載されているものと一致するかを確認します。チェックサムを検索するには、ダウンロードしたソフトウェア イメージにマウス ポインタを移動します。



下部に SHA512 チェックサムが表示されます。チェックサムの一部しか表示されない場合は、末尾の「...」を押すと、展開することができます。

ローカルデスクトップで SHA512 チェックサムを計算する場合は、次の表の例を参照してください。

オペレーティングシステム	SHA512 チェックサム の計算コマンド例
Microsoft Windows	コマンドラインウィンドウを開き、次のコマンドを入力する <pre>> certutil.exe -hashfile s52020ce9_15_0_13-82cc7e2121d.pkg SHA512</pre>
Apple MAC	ターミナル ウィンドウを開き、次のコマンドを入力する <pre>\$ shasum -a 512 s52020ce9_15_0_13-82cc7e2121d.pkg</pre>
Linux	ターミナル ウィンドウを開き、次のコマンドを入力する <pre>\$ sha512sum s52020ce9_15_0_13-82cc7e2121d.pkg</pre> <p>または</p> <pre>\$ shasum -a 512 s52020ce9_15_0_13-82cc7e2121d.pkg</pre>

SHA512 チェックサムが一致すれば、ソフトウェア イメージが改竄されておらず、ダウンロード中にイメージが破損されていない確実性は高くなります。

SHA512 チェックサムが一致しない場合、いかなるシステムもこの破損したソフトウェア イメージでアップグレードしないことをお勧めします。ソフトウェアを再度ダウンロードし、SHA512 チェックサムを再度確認してください。何度も不一致になる場合は、Cisco Technical Assistance Center に状況を報告してください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners。「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)。